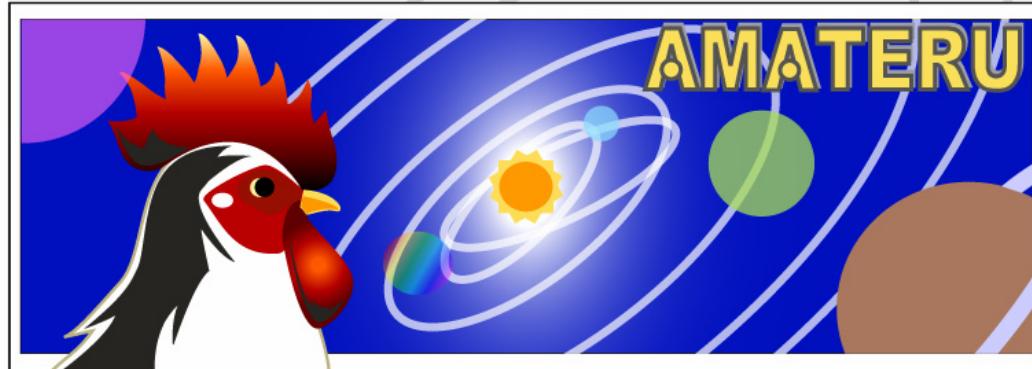


統合占星術環境AMATERU

アプリケーションマニュアル

Version 1.3.0 β



はじめに

アマテルのサポートサイトとお問い合わせ先

<http://tetramorph.to/>

E-mail : amateru@tetramorph.to

本文中で使用したマークの意味



使用上注意すべきことや、やってはいけないことを表します。



関連ページにジャンプするハイパーリンクです。

ご注意



(1)本書はアマテルの作者が書いたものですが、まだ多くの説明を保留にした部分があり、すべてが書かれているわけではありません。

(2)本書の内容を運用した結果の影響については、一切責任を負いかねます。あらかじめご容赦ねがいます。

目次

第1章 アマテルのアウトライン	
1. 1 ●各部の名称	7
1. 2 ●メニューバーの機能	8
1. 3 ●ツールバーの機能	9
1. 4 – 1 ●バージョン情報を知るには	10
1. 4 – 2 ●すべてのアマテルの稼働台数を知るには	11
1. 5 – 1 ●アマテルの環境設定 1	12
1. 5 – 2 ●アマテルの環境設定 2	13
1. 6 – 1 ●まずは使ってみましょう 1	14
1. 6 – 2 ●まずは使ってみましょう 2	15
第2章 データベース	
2. 1 ●データベースのアウトライン	17
2. 1 – 1 ●フォルダツリーとデータリストのアウトライン	18
2. 1 – 2 ●データリストの操作法	19
2. 1 – 3 ●フォルダツリーの操作法	20
2. 2 ●データベースのコピーの仕組み	21
2. 3 ●出生データをデータベースに登録するには	22
2. 3 – 1 ●出生データの必須入力項目	23
2. 3 – 2 ●日時や観測地情報をブラウザなどからコピペするには	24
2. 3 – 3 ●その他の入力項目と入力補助機能	25
2. 4 ●職業選択ダイアログの使い方	26
2. 5 – 1 ●観測地データベースの使い方	27
2. 5 – 2 ●使用頻度の高い観測地をブックマークするには	28
2. 5 – 3 ●観測地の検索履歴／コピペ／表示レイアウト変更	29
2. 6 ●タイムゾーンを変更するには	30
2. 7 ●ヒストリーを登録するには	31
2. 9 ●ユリウス暦とグレゴリオ暦の自動切り替え機能について	32
2. 10 ●紀元前と紀元後の切り替わりの仕組み	33
2. 11 ●出生データのバックアップについて	34
2. 11 – 1 ●出生データの一括インポート／エクスポート	35
2. 11 – 2 ●選択したフォルダをエクスポートするには	36

目次

2. 11-3	●選択したフォルダにインポートするには	37
2. 12	●出生データファイルのフォーマット	38
2. 12-1	●データファイルの各フィールドの解説	39
2. 12-1	●データファイルの各フィールドの解説	40
2. 12-1	●データファイルの各フィールドの解説	41
第3章 チャート		
3. 1-1	●出生データをチャートで表示するには	43
3. 1-2	●自分のチャートを素早く表示するには	44
3. 1-3	●現在のトランジットチャートを素早く表示するには	45
3. 1-4	●チャートのデータ受け取りチャンネルについて	46
3. 1-5	●出生データをチャートのトランジットチャンネルに送るには	47
3. 2	●データベースに登録せずにチャートを表示するには	48
3. 3	●表示中のチャートに直接データを追加するには	49
3. 4-1	●チャートの日時や観測地を変更するには	50
3. 4-2	●チャートをアニメーションするには	51
3. 4-3	●チャートを時計のように表示するには	52
3. 5	●表示されているチャートの種類を変更するには	53
3. 5-1	●基本ホロスコープの使い方	54
3. 5-1	●基本ホロスコープ（天体リング／天体リスト／アスペクト）	55
3. 5-1	●基本ホロスコープ（天体／アスペクト／設定）	56
3. 5-1	●基本ホロスコープ（天体別アスペクト表示／天体移動）	57
3. 5-1	●基本ホロスコープ（天体リストの表示／非表示の切替）	58
3. 5-2	●レポートの使い方	59
3. 5-3	●相性ホロスコープの使い方	60
3. 5-4	●星座分布グラフの使い方	61
3. 6-1	●チャートをカスタマイズするには	62
3. 6-2	●カスタマイズ設定を整理するには	63
3. 6-3	●カスタマイズ設定をインポート／エクスポートするには	64
3. 7	●チャートを複製するには	65
3. 8	●チャート間でトランジットをコピペするには	66

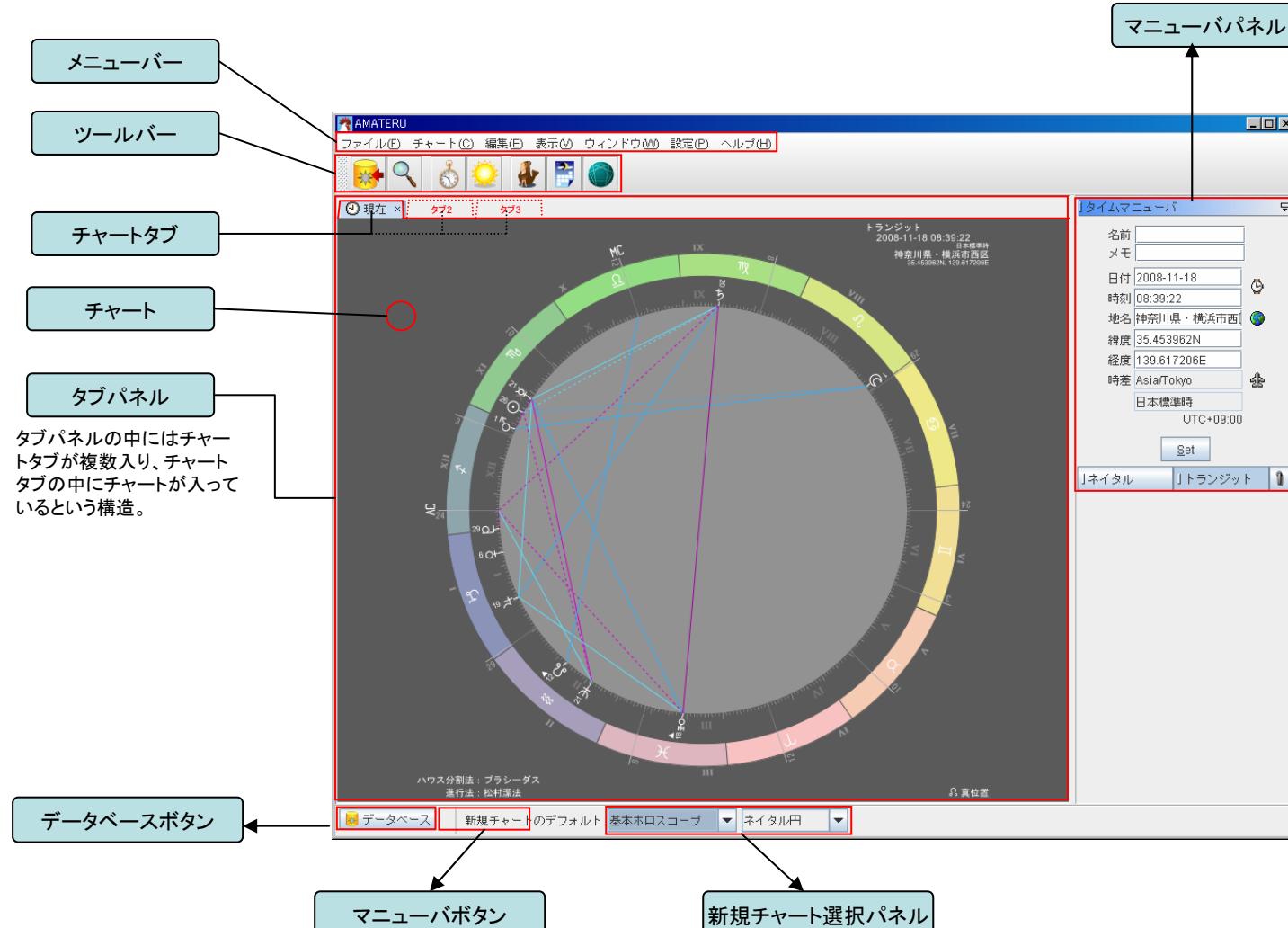
目次

3. 9	●チャートのトランジットをヒストリーに追加／読み出すには	67
3. 10-1	●チャートタブの順序を入れ替えるには	68
3. 10-2	●チャートを複数並べて表示するには	69
3. 10-3	●分割表示されている小さなチャートを素早く大きくするには	70
3. 11	●チャートの画像をファイルやクリップボードに保存するには	71
3. 12	●チャートの画像を印刷するには	72
第4章 検索		
4. 1	●検索ダイアログの使い方	74
4. 2	●検索結果窓の使い方	75
4. 3	●様々な出生データ検索機能	76
4. 4	●回帰日時を調べるには	77
4. 5	●出生天体にトランジット天体がアスペクトを作る時を調べるには	78
4. 6	●月相や天体会合時期を検索するには	79
4. 7	●データベースに未登録の検索結果の扱い方について	80
第5章 ツール		
5. 1	●サビアン辞書の使い方	82
5. 2-1	●天象カレンダーミチテルの使い方	83
5. 2-2	●通常モードでのカレンダーの読み方	84
5. 2-3	●旧暦モードでのカレンダーの読み方	85
5. 3	●エニアグラムカレンダーの使い方	86
5. 4	●ユリウス計算機の使い方	87
補遺	●アマテルの天文暦有効範囲と小惑星フォラスについて	88
索引	●	89

第1章 アマテルのアウトライン

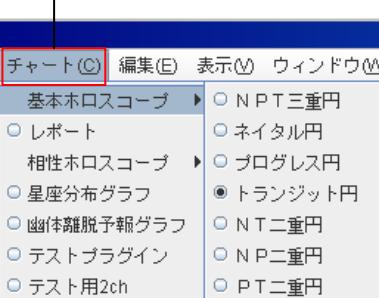
1. 1 ● 各部の名称

※起動時には現在時刻のトランジットチャートが表示されています。



(マニューバパネル表示中はこのボタンは非表示)

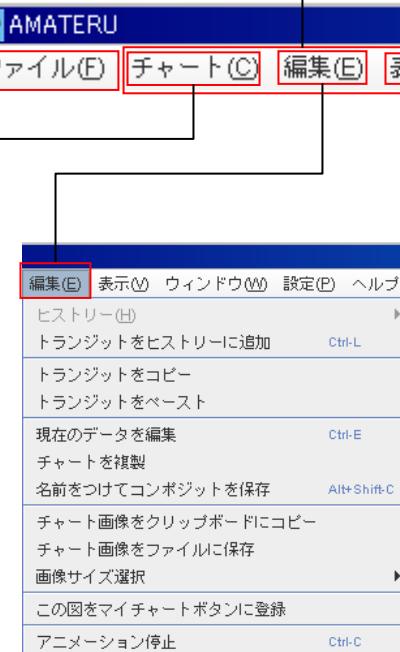
1. 2 ● メニューバーの機能



出生データを視覚化する様々な図が用意されているが、そのうちのどれを使うかをここで選択。

この3つのメニューは、チャートが表示されている時以外は無効。
タブパネルを選択すると、各チャート固有の機能メニューが出ます。

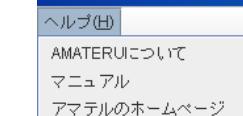
ツールバーに用意されているボタンとほぼ同じ機能です。



現在表示中のチャート(図)の、トランジットを操作したり、図を複製したりする。



観測地情報や、単位系、ノードやリリースのタイプなど、全体に影響を与える設定を行います。



更新情報、システム情報、やライセンスの情報。
マニュアルやホームペをブラウザで開く。

チャート(C)でどの図を選んだかによって、このメニューは変化する。チャートの中には、表示メニューを持たない図もある。チャートの表示状態を変更するためのいくつかのメニューが出る。

1. 3 ●ツールバーの機能

出生データ入力ダイアログ



ドラッグするとツールバーは取り外せます。
×ボタンで元の状態に復帰。



現在時刻の
チャートを表
示する

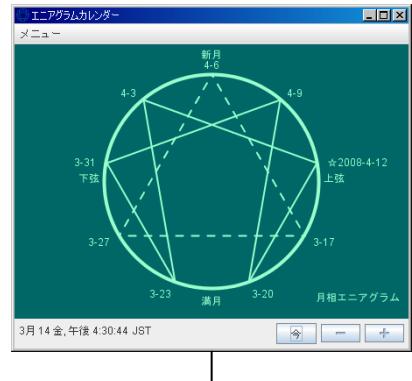


すばやく自分のチャートを表
示できる。ただしらかじめ
登録しないと無効。

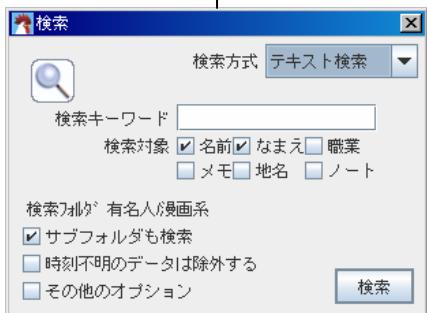
天象カレンダーミチル



エニアグラムカレンダー



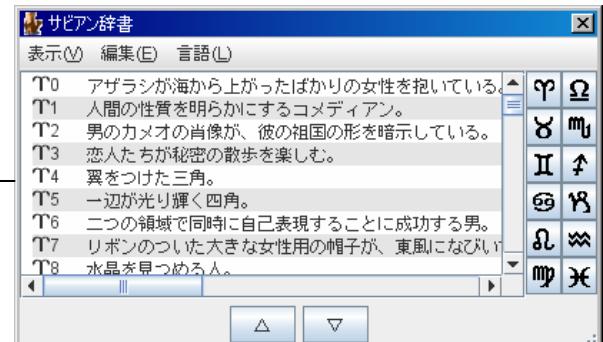
検索ダイアログ



「ウィンドウ(W)→ツール
バー表示」でツールバーの
表示と非表示を切り替えら
れます。小さな画面環境を
広く使いたいときは非表示
にすると良いでしょう。

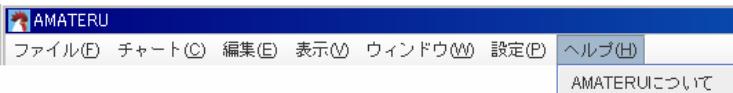


サビアン辞書



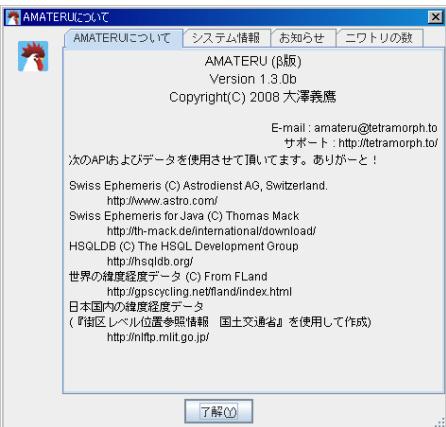
1. 4－1 ● バージョン情報を知るには

メニューバーから「ヘルプ→AMATERUについて」を選択すると、バージョンダイアログが表示されます。

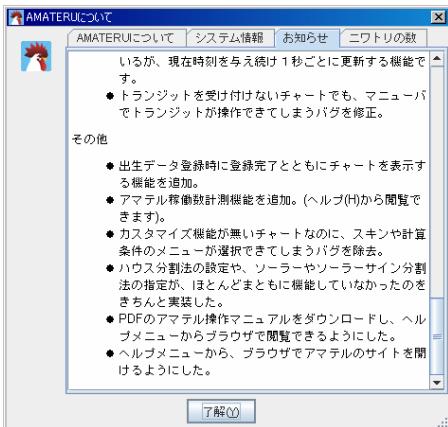


バージョン表示ダイアログの各タブの情報

バージョンと著作権の表示



おしらせ情報



アマテルは一般に公開されているAPIやデータを様々なサイトから利用させて頂いています。アマテルもふくめこれらすべての著作権情報を表示しています。

バージョンアップ情報を表示します。アマテルが自動アップデートされるとこの表示が起動後に出ます。

システム情報



アマテルが使用しているシステムファイルの場所や、JREの基本情報が表示されます。トラブルシューティングの際のヒントになる情報です。

この中で重要なのが Application Homeで、アマテルすべてのデータファイルが格納されています。お使いのOS等の環境により、フォルダの位置は変化します。



Application Homeのフォルダはアマテルをコントロールパネルからアンインストールしてもそのまま残ります。完全にアンインストールしたい場合は、手動で削除してください。

1. 4－2●すべてのアマテルの稼働台数を知るには

アマテルは全国でどれだけインストールされ使われているかを集計する仕組みをもっています。バージョンダイアログから、「ニワトリの数」のタブを選択すると集計結果を見ることができます。その情報はtetramorph.toから取得するため、サーバーメンテナンスや回線障害などにより使用できない事があります。リロードボタンによって、情報の再読み込みが可能です。

どうやって数えているか？

ユーザのマシンがネットに接続されており、オンライン状態の場合、アマテルは起動と共に、tetramorph.toのサーバにアクセスし起動したことを伝えます。

サーバはインストール直後のアマテルからのアクセスがあると、ユニークIDを発行しアマテルはそれを記憶します。インストール直後のアマテルはIDをもっていません。

アマテルは起動時に自分に与えられたIDと、ユーザのマシンで稼働した秒数をサーバに送信します。サーバはそれをログに記録します。オフライン状態のときは、アマテルは情報の送信をスキップします。

ログの集計はIDをユニークにカウントします。同じIDのユーザが一日に何回アマテルを起動しても1カウントです。そのため一ヶ月間をまとめて集計した数と、毎日の集計結果をひと月分合計した数は一致しません。例を示します。

日毎に3日間のアクセス記録集計結果

ID	計
1日目 A, B, C	3
2日目 A, X, Y, Z	4
3日目 A, C, Z	3



※表示されている値はテスト中のものでデタラメです

3日間で何人がアマテルを起動したかを知ろうとしたとき、毎日の値を合計したら10人ですが、3日間に登場したIDはA,B,C,X,Y,Zのみなので、実際には6人です。

「総数」は過去に発行されたIDの総数で、インストールされた数とみなせます。

「新規」はその日またはその月に、新たにインストールされた数です。

「起動」はその日またはその月に、アマテルがユーザーのマシン上で使用された数です。

1. 5-1 ●アマテルの環境設定1

メニューbaruから「設定→環境設定」でダイアログが出ます。アマテルをインストールしたらここで全体の設定をします。

時間

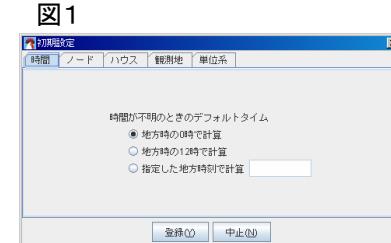
時刻が省略されているネイタルデータを計算するときに、地方時の何時で計算するかを設定します(図1)。ネイタルデータが登録されるときや、インポートのとき、アマテルはそのデータの天体位置を計算してデータベースに蓄えます。出生時刻が不明のデータは、このパネルで設定した時刻で計算します。

後から、このデフォルトタイムを変更した場合は、登録されている天体位置の再計算が行われます。登録ボタンを押すとともに、「天体位置の再計算」ダイアログが開き(図2)、計算状況がレポートされます。多くのデータが登録されているほど、この計算には時間がかかります。

時刻不明のとき地方時の深夜0時で計算されるのが慣例のようです。しかしある日の12時もよく採用されます。正午12時のほうが月の位置のずれは少ないと考えられます。〇月×日の生まれというとき、それを0時生まれとみなせば、最大24時間ずれる可能性があります。23時59分に生まれた可能性もあるからです。正午12時としておけば、最悪でも12時間以上ずれることはありません。お好み次第ですが。

0時と12時以外に、任意の時刻を指定することもできます。“12:00:00”というように、コロンで区切って二十四時間制で時刻を入力します。

図2



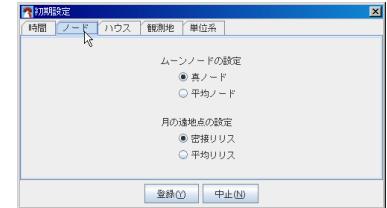
天体位置の再計算

データベースを更新中
処理を中断することはできません。
しばらくお待ちください。

ユリウス暦の再計算

Chiron's ephemeris is restricted to
2017-07-05 00:00 12:00:00
Chiron's ephemeris is restricted to

OK



ノード

ムーンノード(ドラゴンヘッド)と、リリス(アポジー／月の遠地点)のタイプを指定します。

検索やチャートの設定では、どちらのタイプを使うかを指定する場所はありません。このパネルで選択されたものが暗黙のうちに使用されます。

観測地

観測地情報が省略されているデータを計算したりするときに採用する、デフォルトの観測地情報です。



観測地



単位系

天体位置や観測地の緯度経度の表現で、10進数表現を使うか60進数表現を使うかを設定します。ここでの設定は、入力方法にも影響します。

1. 5-2 ●アマテルの環境設定2

ハウス

デフォルトのハウス分割法と時刻不明の場合の計算条件を設定します。ネイタルデータの中には、しばしば正確な時間を知る事ができない場合や、場所もおおまかにしか決定できない場合がよくあります。アマテルは時刻と緯度経度を未登録でもデータベースにデータを保管できますが、そのデータを元に天体位置を求めるときには、このパネルで設定した方法に従います。

時間と場所(緯度・経度)が登録されている場合

天体の位置はネイタルデータに登録されている時刻で計算されます。カスプの位置は「①デフォルトのハウス分割法」で選択した方法で計算されます。以下の設定の影響は受けません。

ソーラーまたはソーラーサインを使用する(②③)

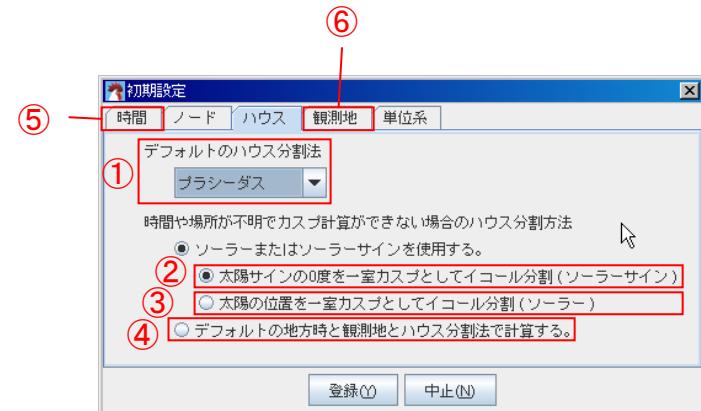
時間や場所が不明の場合、デフォルトの地方時(⑤時間タブで設定)で諸天体の位置を計算します。カスプの計算は次の二つから選べます。この二つは観測地は無視して、太陽のサインや位置を基準にカスプを決める方法です。

②太陽サインの0度を一室カスプとしてイコール分割

たとえば太陽が天秤6度に居たとしても、一室カスプは天秤0度で、以降均等に30度ずつ分割されます。これをソーラーサイン分割法と呼びます。

③太陽の位置を一室カスプとしてイコール分割

太陽が射手座25度に居たら、それが一室カスプの度数になります。以降30度ずつ分割されます。これをソーラー分割法と呼びます。



④デフォルトの地方時と観測地とハウス分割法で計算する

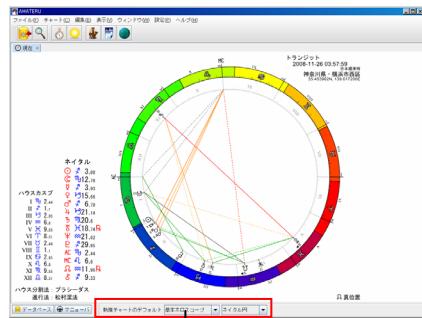
時間や場所が不明の場合、デフォルトの地方時(⑤時間タブで設定)で諸天体の位置を計算します。カスプの位置は、デフォルトの観測地(⑥観測地タブで設定)から見たものとして求めます。時刻も観測地もある一点に定めてあるので、どのようなハウス分割法でも計算可能です。しかしこれは「時間や場所がわからないときは、とりあえずこの場所との時刻で空を見たことにしておこう」というやり方です。このやり方が良いか悪いかは不明ですが、日本の占い事情では、このような状況のとき、皇居を観測地にしておく場合がよくあります。

デフォルト観測地が東京で、デフォルト時刻が深夜0時に設定されている場合、日本標準時の0時で計算します。

観測地がイギリスなら、世界標準時(UTC)の0時で計算します。

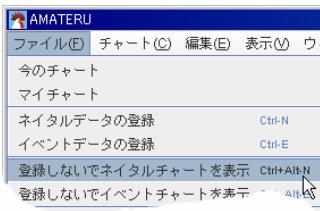
1. 6-1 ● まずは使ってみましょう1

- ① 環境設定が終わったら、出生図を表示してみましょう。まず表示したい図を指定します。



「新規チャートのデフォルト」で「基本ホロスコープ/ネイタル円」を選択しておきます。

- ② 出生データを登録します。正式なホロスコープを作成するためには、生年月日、出生時刻、出生地の緯度と経度の情報が必要です。出生時刻は母子手帳で知る事ができます。不明の場合は省略できますが、ハウスの情報が不完全なホロスコープになります。
「ファイル→登録しないでネイタルチャートを表示」を選択します。(後で保存できます)



P22 出生データをデータベースに登録するには



P23 出生データの必須入力項目

- ③ 登録ダイアログに出生年月日と出生地を入力し登録ボタンを押します。



入力が完了したら登録ボタンを押します。※

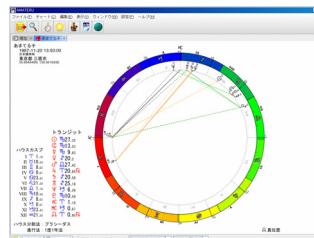
※登録ボタンになっていますが、登録は後まわしでチャートが先に表示されます。このシーンでは「決定」ボタンにする予定です。

出生地は手作業で入力できますが普通は観測地データベースを使って入力したほうが簡単です。



P27 観測地データベースの使い方

- ④ 登録ボタンを押すとホロスコープが表示されます。



詳しい使い方は次のページを参照。



P54 基本ホロスコープの使い方

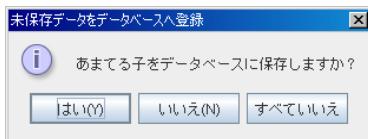
1. 6-2 ● まずは使ってみましょう2

- ⑤ 見終わったらチャートを閉じます



チャートタブの×ボタン
で、チャートが閉じます。

- ⑥ 入力したデータをデータベースに登録するかを尋ねられます。
「はい」を押すと、再度登録ダイアログが出ます。



- ⑦ 修正したいところがあれば修正し「登録」ボタンを押します。

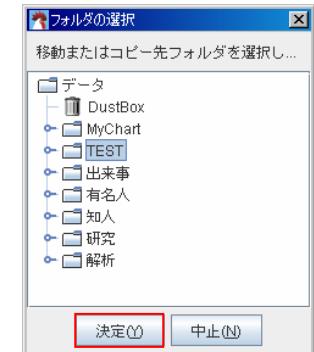


- ⑧ フォルダの選択ダイアログが出るので、どのフォルダに登録するか選択し、決定ボタンを押します。
ここではTESTというフォルダに保存しています。

望んだフォルダが存在しないときは、右クリックで新規にフォルダを作る事ができます。



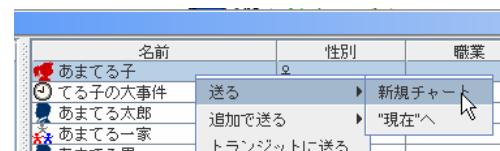
P20 フォルダツリーの操作法



- ⑨ データが登録されたか確認してみます。画面左下にあるデータベースボタンを押すと、データベースが開きます。
フォルダTESTを選択すると、右側に登録されているデータ一覧が出ます。あまる子が登録されています。



- ⑩ 今度はデータベースからチャートを表示してみます。
あまる子を選択し、右クリックでメニューを出し「送る→新規チャート」を選択。チャートが表示されます。



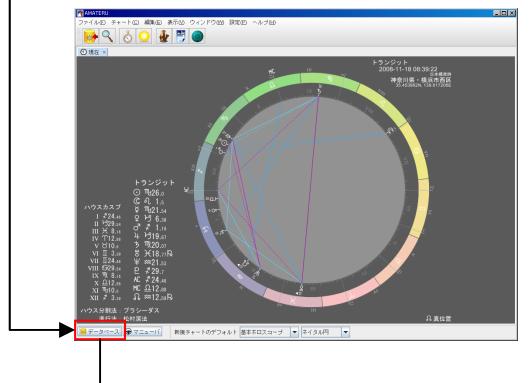
P43 出生データをチャートで表示するには



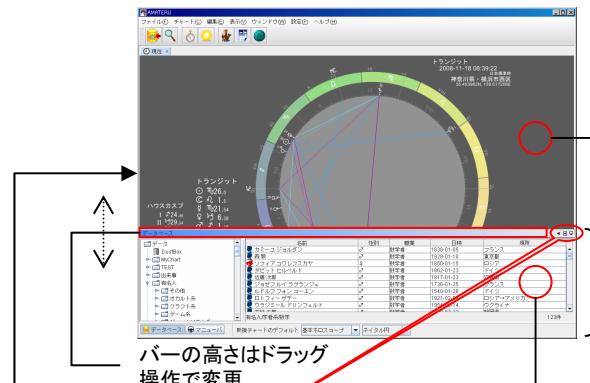
第2章 データベース

2. 1 ● データベースのアウトライン

データベースボタンを押す



データベース窓がシャッター式で表示される

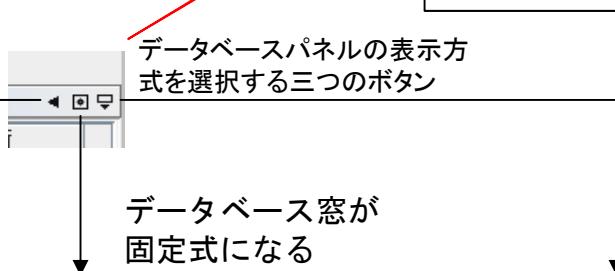


チャート画面をクリックすると、シャッターが閉じる。

データベース窓がチャートの手前に表示される

シャッター式では、データを選択するとチャートが表示され、同時にシャッターが閉じる。

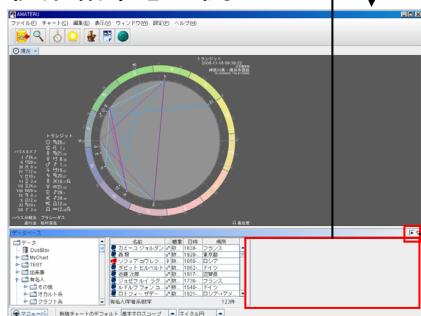
データベースパネルの表示方
式を選択する三つのボタン



データベース窓が
固定式になる

データベース窓
が閉じる

検索結果窓が開く



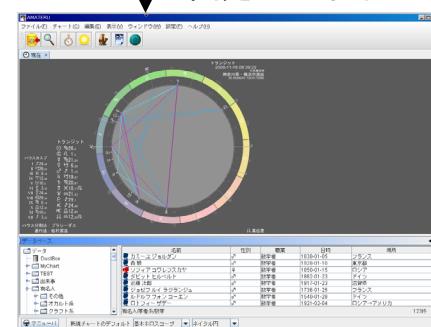
□ボタンで
窓は閉じる

検索結果が表示される窓で、この窓から新規チャートを開いたり、開いているチャートに出生データやトランジットデータを送れる。

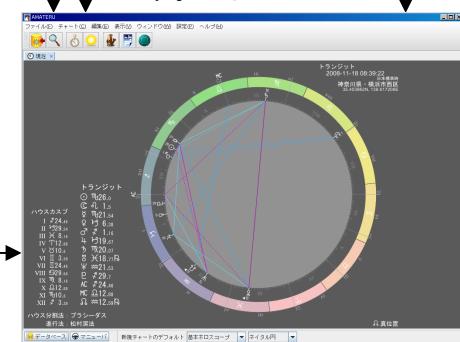


P75 検索結果窓の使い方

固定式にするとデータを選択したあとも、データベース窓は閉じない。



□ボタンで
固定解除



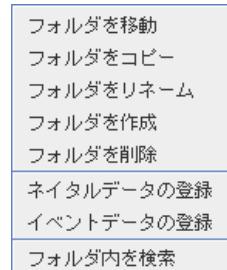
2. 1-1 ● フォルダツリーとデータリストのアウトライン

最上位のデータフォルダの「削除、コピー、リネーム、移動」は禁止

削除したデータはごみ箱に移動される。右クリックで、ごみ箱を空にするメニューが出る

選択したフォルダは背景色が変化する。フォルダの複数選択はできない。

フォルダを選択し、右クリックでポップアップメニューが表示される。



ドラッグ操作で各フィールドの表示幅を調節

名前、性別等、各ヘッダーをクリックしてソート表示。
 △表示=登り順／▽表示=降り順／△なし=ソートなし。
 ヘッダーのドラッグ & ドロップで位置の交換。

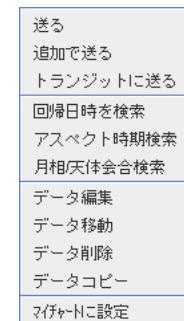
名前	性別	職業	日時	場所
阪神・淡路大震災			1995-01-17 05:46:52	兵庫県 神戸市中央区
間東大震災			1923-09-01 11:35:32	神奈川県相模湾北西沖80km
新潟県中越沖地震			2007-07-16 10:13:23	新潟県上中越沖
十勝沖地震			2003-09-26 04:50:00	釧路沖
宮城県北部地震			2003-07-26 07:13:00	宮城県北部
宮城県沖地震 M7.0			2003-05-26 18:12:00	宮城県沖
芸予地震			2001-03-24 15:27:00	安芸灘
鳥取地震 M7.3			2000-10-06 13:30:00	鳥取県西部
北海道東方沖地震 M8.1			1994-10-04 22:23:00	北海道東方沖
北海道南西沖地震 M7.8			1993-07-12 22:17:00	北海道南西沖
日本海中部地震			1983-05-26 12:00:00	日本海中部
昭和南海地震			1946-12-21 04:19:00	震源地伊豆島沖・潮岬南南西約50kmの沖合
三河地震			1945-01-13 03:38:00	三河
東南海地震			1944-12-07 13:36:00	熊野灘沖
濃尾地震			1891-10-28 06:38:00	本巣郡根尾谷（根尾村）

選択されている
フォルダのパス

左側のツリー窓で選択されたフォルダの中にあるネイタルデータのリスト。

データを選択し右クリックするとポップアップメニューが表示されます。

複数のデータをチャートに送ったり、一括削除したりするときは、CtrlまたはShiftキーを併用しながらクリックすることで、複数選択することができます。



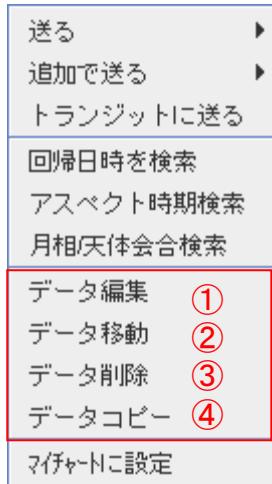
P20 フォルダツリーの操作法



P19 データリストの操作法

2. 1-2 ● データリストの操作法

データリストを選択し右クリックで表示されるpopupアップメニュー

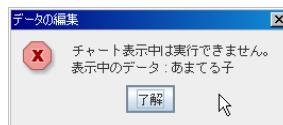


① データ編集

ネイタルデータ編集ダイアログが開き、登録情報の変更ができます。ただし複数のデータが選択されていると、このメニューは使用できません。



編集しようとしているデータがすでにチャートとして表示されている場合は、このメニューからは編集することができません。



しかし、メニューバーの「編集→現在のデータを編集」を使えば可能です。

② データ移動

移動&コピー先指定ダイアログが開くので、データの異動先を指定します。

選択されているデータのすべてが、指定したフォルダに移動され、移動先フォルダがカレントフォルダになり、内容がデータリストに表示されます。

③ データコピー

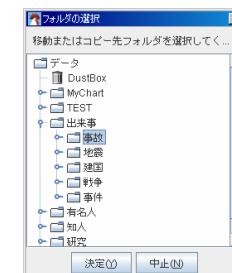
移動&コピー先指定ダイアログが開くので、データのコピー先を指定します。選択しているデータのすべてが、指定したフォルダにコピーされ、コピー先フォルダがカレントフォルダになり内容がデータリストに表示されます。

④ データ削除

選択したデータを削除します。削除したデータはごみ箱に移動されます。

移動&コピー先指定ダイアログ

フォルダの開閉の操作は同じです。右クリックで「フォルダの作成」メニューが使用できます。保存先フォルダに望むものが見あたらない場合は、これを使って作成することができます。



2. 1-3 ● フォルダツリーの操作法

フォルダの開閉操作

フォルダのダブルクリックで、サブフォルダが展開。
(サブフォルダが有れば)

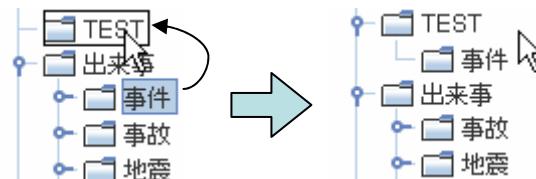
このハンドルでもサブ
フォルダを展開できる

フォルダをクリックし
て選択し次に右ク
リックでメニューが表
示される。



ドラッグ & ドロップによるフォルダの移動

「出来事」のフォルダをドラッグし、TESTのフォルダでドロップすると、TESTの下に出来事のフォルダが移動する。操作中、ドロップ可能なフォルダには四角の枠線が表示されます。



「出来事」を「事故」に移動するなど、親フォルダを子フォルダに移動しようとする操作はエラーとなります。

① フォルダを移動

ドラッグ & ドロップでも行えますが、移動先のフォルダがそばに無いときはポップアップメニューから操作したほうが都合が良いでしょう。メニューを選択すると、異動 & コピー先指定ダイアログが開きます。

② フォルダをコピー

異動 & コピー先指定ダイアログが開くので、コピー先フォルダを指定。

③ フォルダをリネーム

メニューを選択するか、F2キーを押すと、新しい名前が入力できます。同じ階層で重複のない名前を入力し、改行キーで確定。



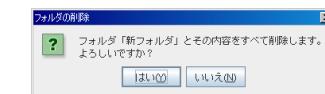
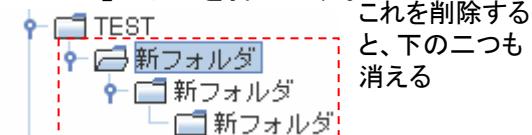
④ フォルダを作成

選択されているフォルダの下に新しくフォルダを作成します。任意の名前を入力して改行キーで確定。



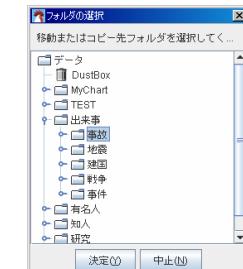
⑤ フォルダの削除

選択されたフォルダを削除します。このとき下の階層のフォルダも全て削除されます。削除の前に確認ダイアログが開くので、よく確認して「はい」ボタンを押します。



移動 & コピー先指定ダイアログ

フォルダの開閉の操作は同じです。右クリックで「フォルダの作成」メニューが使用できます。保存先フォルダに望むものが見あたらない場合は、これを使って作成することができます。



2. 2 ●データベースのコピーの仕組み

ネイタルデータのコピー機能は普通のファイルコピーとは異なり、次のような特徴があります。

- ①同じフォルダ内にコピーできない。
- ②別の名前にリネームしてコピーできない。
- ③ネイタルデータを複製などしていない。

③が重要なので詳しく説明します。今ここでTEST1とTEST2というフォルダを用意し、TEST1に「あまる子」というネイタルデータを用意したとします(図1)。これをTEST2にコピーします。そしてTEST2のフォルダにコピーされた「あまる子」のデータを編集して「みちてる子」に変更したとします。

次にTEST1のフォルダを開くと、こちらも「みちてる子」に名前が変更されています(図2)。

良く知られたファイルコピーではこのように両方とも変更されてしまうことはありません。アマテルのネイタルデータのコピーは、データを複製するのではなく、任意のフォルダ(複数でも可)に、ネイタルデータのIDを登録することなのです。

コピーの内部的な仕組み

ネイタルデータが新規登録されるときは、ユニークIDを与えられネイタルデータ記憶庫に登録されます(図3)。あまる子のデータがID15番を与えられ登録されたとします。(番号は自動的に割り当てられます。)そのIDがどのフォルダに存在しているかを管理しているのがフォルダツリー記憶庫です。先の登録の際に、フォルダTEST1にはID15が登録されました。次にTEST2にID15がコピーされました。

TEST1、TEST2共にどちらのフォルダをひらいてもあまる子が存在します(図1)。

そしてどちらのフォルダであっても、あまる子のデータを編集するとき、ID15番のデータが編集対象となります。TEST1であれTEST2であれ、あまる子のIDは15番で、そのIDのデータを編集すると、どちらのフォルダからみても編集結果は同じです。

なぜそのようになっているか？

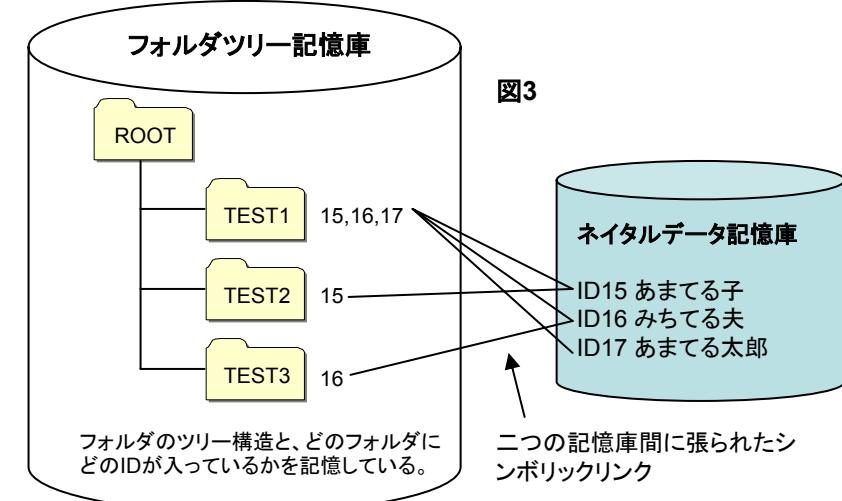
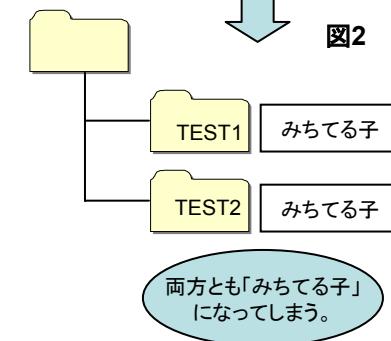
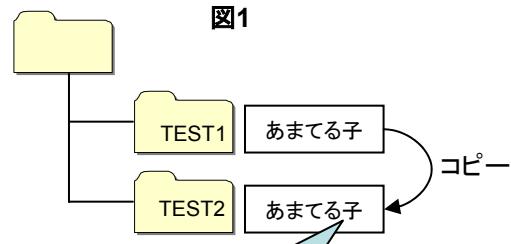
たとえば有名人データは、職業別に階層フォルダで整理されています。検索によって星座別にこれらの人々を仕分けしたくなつてしまつ。牡羊座の人を検索で抽出し、それを牡羊座のフォルダにコピー。次は牡牛座、次は…と、コピーをくりかえしていくとき、ファイルコピーのような実体コピーだと、膨大なリソースを消費することになつてしまつ。登録されているデータはそのままに、フォルダツリーの位置の情報だけをコピーしていくば効率的です。

つまり多量のデータでも遠慮なくコピーしてフォルダ単位で仕分けをして、整理と分析を大胆に進められるようになっています。

一部の例外(※)を除き、実体コピーの機能はありません。人物も出来事も生来的にユニークなものであるはずだからで、重複登録は極力避けるべきものだというのが設計方針です。

あまる子が、複数のフォルダに顔を出していくても、編集されるのはただ一つの実体データです。そしてすべてのフォルダのあまる子が更新されます。これは欠点ではなく利点です。

※回帰時期検索などで動的に生成される出生データがDBにコピーされるときなど。



2. 3 ● 出生データをデータベースに登録するには

ネイタルデータ(出生データ)とは、ホロスコープを作成するために必要な情報をワンセットにしたものです。アマテルはこのデータを登録しなくてもホロスコープを表示することができますが、ホロスコープを表示する前に、データを登録するのが基本です。

ホロスコープは地上から見たお空の天体配置図ですから、それを作図するためには、日時、観測地(緯度・経度)といった情報が必要です。星の位置はこの二つがあれば求まるのですが、その日時・観測地でだれが生誕したのか、あるいはどんな出来事が起きたのかも登録されねばなりません。

ネイタルデータは三種類あります。

- ① 個人の出生登録に使うネイタルデータ。
- ② 天災や事件などに使うイベントデータ。
- ③ ①②のデータ集合からなるコンポジットデータ。※1

各データ型を示すアイコンが決まっています(下図)。
ネイタルの場合は性別に応じてアイコンが変わります。

ネイタルデータもイベントデータも登録できる項目に大きな違いはありません。イベントの場合は性別と職業の入力欄が無いだけです。

検索のときに、これらデータの型を条件にしてふるい分けが可能です。

名前	...
あまる子	♀
あまる男	♂
あまる太郎	♂
てるてる	
あまる一家	
てる子の大事件	

※法人等に使用します

 なお、これらネイタル、イベント、コンポジットなど分別されてはいますが、アマテルではすべてを総称してネイタルデータと呼びます。

登録用ダイアログの呼びだし

方法1

メニューバーからネイタルデータまたはイベントデータの登録を選択。



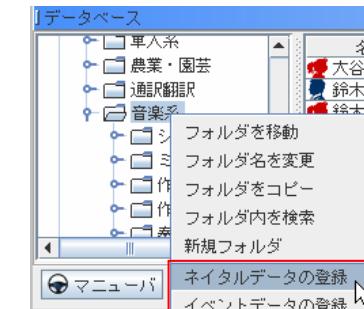
方法2

ネイタルデータの登録。ツールバーのボタンを使用。



方法3

ツリーの上で登録したいフォルダを選択し右クリック希望するデータの登録メニューを選択。



コンポジットデータの登録

メニューバーの「編集→名前」をつけてコンポジットを保存で行います。ネイタルチャンネルにセットされた複数のデータをひとまとめにして保存します(※1)。



P46 チャートのデータ受け取りチャンネルについて

※1 コンポジットデータを登録はできますがコンポジットチャートの機能はまだ未実装です。つまり今のところ登録してもぜんぜん意味がないです(笑)。

2. 3-1 ● 出生データの必須入力項目

ここではネイタルデータ登録の際に、最低限入力しなければいけない項目は名前と日付です。時刻と緯度・経度は省略し未登録にすることができます。時刻未登録は環境設定で登録されている地方時で天体位置を計算します。緯度経度の未登録の場合は、アセンダントやMCの値は計算できません。

このデータがデータベースの階層上のどこに登録されようとしているか表示しています。

一件の出生データを入力するためには、少なくとも「名前」と「日付」の二つのフォームにデータを入力する必要があります。時刻や緯度・経度は省略可能。

12:30:50 24時間制でPM12時30分50秒を入力。
12:30 暗黙のうちにPM12時30分00秒。
012340 AM1時23分40秒。
2223 PM22時23分00秒。
1 1 5 0 全角AM 11時50分00秒。
pm5:30 17時30分を入力。amも使える。
3:40:00 am am/pmは後ろで指定してもOK。
時刻未登録の場合はデフォルトの時刻が使用される。



データの入力が終わったら登録ボタンをクリック

フィールドを一つ入力したら、TABキーを押すと次のフィールドにフォーカスが移動するので順番に各フィールドを入力していくことができます。Shift+TABキーなら、一つ手前に戻ります。

2007-12-23	ハイフンで区切って入力 8桁の数字で入力。 1月や1日の場合は、 20070101などとします。
2007 12 23	スペースで区切って入力
2007/12/23	スラッシュで区切って入力
2007 12 23 22 23	全角で入力也可。
2008年6月30日	そのまま日本語表現で。
bc5001225	紀元前500年12月25日
BC 1500-01-01	紀元前1500年1月1日
紀元前1500 6 3	紀元前1500年6月3日
2007-5-30, 6:00	カンマで区切れば時刻も一度 に入力

+35.555 +をつけると北緯または東経を表す(省略可)。
-35.555 -をつけると南緯または西経を表す。
35.55N 北緯35.55 N (North)
35.55S 南緯35.55 S (South)
135.50E 東経135.50 E (East)
135.50W 西経135.50 W (West)

60進数で入力は各桁をスペースで区切る

35 31 10.22N	35度31分10秒22とみなして 10進表現に変換される。 +NEWSの規則は同じ。
35 30	35度30分とみなして 10進表現に変換。
東経180 50 30	東経180度50分30秒。 西経、北緯、南緯も可。
38.30, 136.3	カンマで区切ると緯度経度を 一度に入力。

なおN, E, W, Sは小文字でもOK。
先頭でも末尾でもどちらに指定しても良い。

2. 3-2 ● 日時や観測地情報をブラウザなどからコピペするには

人物や歴史上の出来事をネットでみつけ入力したい場合があるかもしれません。アマテルの日付や観測地の入力フォームは、日付や緯度経度の文字列を柔軟に解釈することができます。ブラウザの画面から日付文字列をドラッグ操作で選択し「Ctrlキー+C」を押してクリップボードにコピーし、次にアマテルの日付入力フォームに「Ctrlキー+V」をタイプしてペーストします。

アマテルの日付入力フォームは時刻情報も認識します。ブラウザから日付情報文字列をコピーし、日付フォームにペーストし、TABキーを押せば、一度に日付と時刻を入力できます。元号は平成、昭和、大正、明治を認識しますが、入力年に対して一定の補正值を加算して求めているだけで、元号の正確な切替日は認識しません。

認識する日付表現の例

1984年9月3日5時35分

昭和60年7月2日

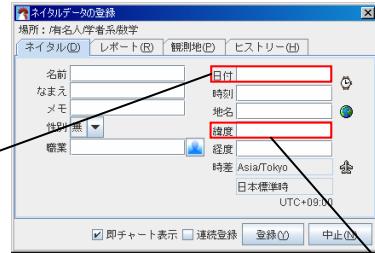
平成8年10月3日

2003年(平成15年)7月20日 4時50分30秒

1984年2月28日

s40年5月5日

(H=平成,S=昭和,T=大正,M=明治。大文字小文字の区別なし)



日時も緯度経度も全角数字であれ半角数字であれ、それらが混在していても正しく認識されます。

ですが、たとえば「三十日」などの漢数字は認識できません。

日時、緯度・経度文字列中の括弧で囲まれた情報は無視され必要な情報だけが入力されます。

今後も多様な表現を解釈するようにしていく予定ですが、場合によっては誤変換される場合もあります。

観測地データは次のような書式を認識します。
緯度入力フォームに経度も一度に入力することができます。
括弧で囲まれた情報は無視され、必要な情報だけが入力されます。

北緯41度46.7分、東経144度4.7分

北緯41度46.7分 東経144度40分53.22秒

南緯41度46.7分、西経144度4.7分

緯度 35度39分32.166秒(35.658935), 経度
139度44分43.543秒(139.745429)

便利メモ

アマテルの観測地データベースに望みの場所が入っていない場合

Googleのサービスを使うと便利です。

<http://www.geocoding.jp/>

Geocodingが表示する緯度・経度は、次のような書式です。

35.681099, 139.767084

緯度 35度40分53.183秒(35.68144), 経度 139度46分1.486秒(139.767079)

これもアマテルは認識します。



2. 3-3 ● その他の入力項目と入力補助機能

ネイタル

「名前」には漢字名、「なまえ」には読みがな。「なまえ」には英語名、「なまえ」にはカタカナ／ひらがなで読み方を入力。「なまえ」をまめに登録しておくと、日本語でソート表示のときに有利です。

メモは簡単な一行コメント

登録する人物の職業名を入力。
作家、医師、編集者、プログラマーなど。

人物ボタンを押すと、職業選択ダイアログが開き職業名一覧が表示されます。

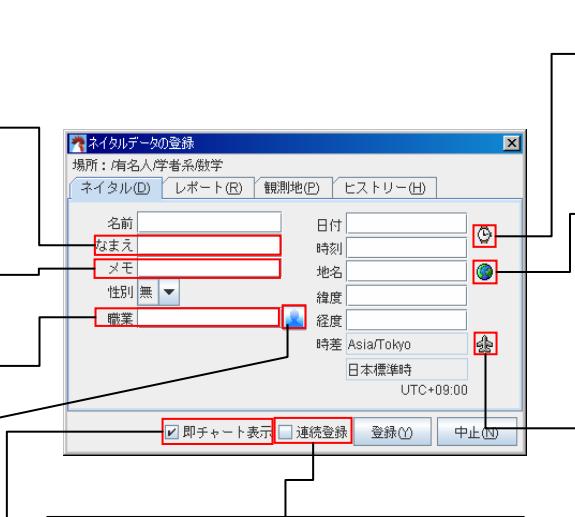


P26 職業選択ダイアログの使い方

チェックが入っている場合は、
登録ボタンを押しデータ入力
が完了するとそのチャートを
即表示します。

レポート

ノートのようなもので、
この人物についての鑑定結果などを保管して
おくためのものです。ただのメモ帳なので使い
方はご自由に。



時計ボタンは現在の日時
が自動入力される

地球ボタンを押すと、観測地
の選択ダイアログが開きます。

日本以外のタイムゾーン(時
差)を指定する場合は飛行機
ボタンを押す。タイムゾーン
選択ダイアログが開く。



P27 観測地データベースの使い方

たくさんの出生データが手元に
あり、それを連続して入力したい
場合はチェックを入れます。すると
登録ボタンを押したあと、再び
このダイアログが開き、データ入
力を続ける事ができます。

観測地

チャート表示の際に、デフォルトで使用
する観測地を指定できます。

たとえば大阪生まれだけど、現在横浜
に住んでいるならその場所を登録してお
くと、3重円のトランジットはその場所で
計算されます。未登録のときは、出生地
と同じ場所が採用されます。



2. 4 ●職業選択ダイアログの使い方

人物ボタン

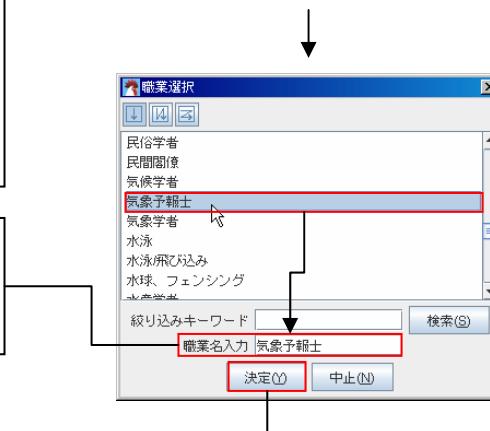
人物ボタンを押すと、職業選択ダイアログが開き職業名一覧が表示されます。ただしインストール直後など、まったくデータベースにデータが登録されていない状態では、ダイアログにはなにも表示されません。すでに登録されている出生データの中の職業名を、ユニーク抽出することでリストを作成するためです。

なんのためにこのダイアログがあるかというと、たとえば「医師」と入力することもあれば「医者」と入力することもあるでしょう。たくさんデータを登録していくうちに、どんどん表現の不整合が増えてゆきます。なるべくそういう事態を減らすため、すでに登録されている名前があるのならそれを使おうということです。

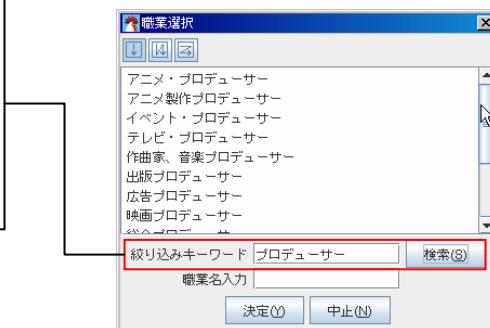
職業リストの中から希望のものを選択しクリックすると、職業名入力欄に反映されます。希望のものが無いときは、キーボードから入力しても良いです。

職業リストをキーワードで絞り込むには

職業リストをキーワードで絞り込む事ができます。たとえばプロデューサーと名のつく職業のみを抽出したいときは、絞り込みキーワードに「プロデューサー」と入力し、検索ボタンを押す。その後、最初の全リスト表示に戻したいときは、キーワード欄を空にして検索ボタンを押す。



職業名入力欄に名前が入力されたら、決定ボタンを押す。または職業リストをダブルクリックでも決定できます。ネイタルタブの職業欄に、値がセットされます。



2. 5-1 ● 観測地データベースの使い方



地球ボタン

出生データの入力ダイアログやマニューバパネルなどについている地球ボタンは場所の選択ダイアログを開くボタンです。場所の選択ダイアログは地名データベースで、日本国内の市町村区、世界の主要都市名それぞれ約三千件、あわせて六千件のデータを持っています。知りたい地名を入力し検索することで目的の観測地データを取得する仕組みになっています。

選択されたデータは検索履歴に保存されるため、同じ観測地を入力する場合は、そこから選択すると簡単です。

頻繁に使うデータはマイデータにブックマークでき、すばやく選択できます。

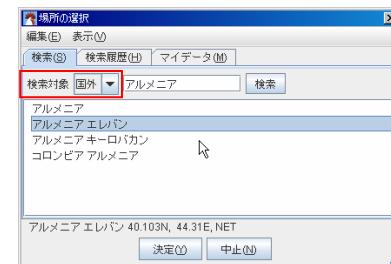
マイデータに、ユーザ独自の観測地データを登録できます。
自分の正確な出生場所やローカルなデータを登録できます。

国内の地名を検索

地名入力フォームに主に市町村区の名前を入力し検索ボタンをクリック。その名前を含む観測地のリストが表示されるのでその中から選択し、決定ボタンを押します。ダブルクリックした場合は、そのデータが即選択され、ダイアログが閉じその値が入力されます。

国外の地名を検索

外国の地名を入力(検索)したい場合は、検索対象を国外に切り替え、国名や首都の名前を入力し検索ボタンを押します。

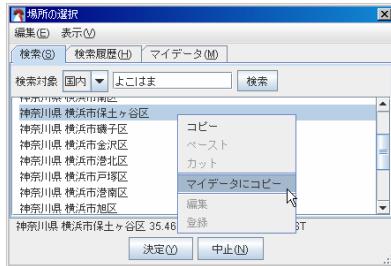


2. 5-2 ● 使用頻度の高い観測地をブックマークするには

地名をマイデータにコピーし素早くアクセス

使用頻度の高い地名は、マイデータにコピーしておくと便利です。

- ① 検索結果の中から地名を選択し、右クリックでメニューを出し、マイデータにコピーを選択。



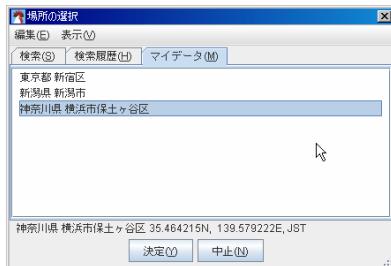
- ② マイデータのタブをクリック。保土ヶ谷区のデータがコピーされています。マイデータのリストも検索結果の選択と同じ要領で使用できます。

ショートカットキーも使えます。
コピー Ctrl + Shift + C
ペースト Ctrl + Shift + V
カット Ctrl + Shift + X

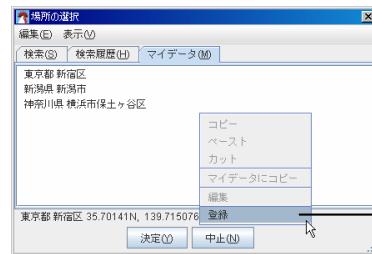
マイデータの登録

ユーザ独自の観測地データを登録できます。

- ① マイデータの窓の中で右クリック。メニューが出たら登録を選択。



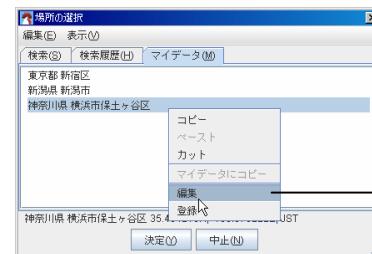
- ② 地名と緯度経度を入力し決定ボタンを押す。



マイデータの編集

登録されているデータの地名、緯度、経度を編集できます。

- ① 編集したいデータを選択し、右クリックでメニューを出し、編集を選択。

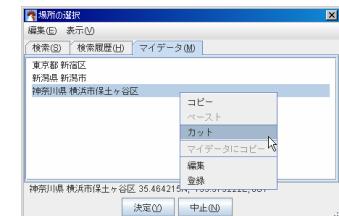


- ② 観測地の入力ダイアログの入力欄の値を編集し決定ボタンを押す。



マイデータの削除

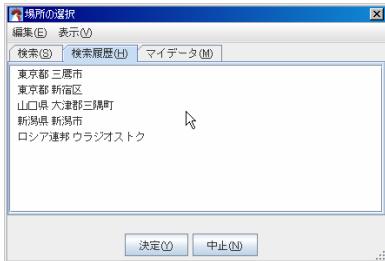
削除したいデータを選択し、右クリックでメニューを出し、カットを選択。複数のデータをまとめて削除したい場合は、データ選択の際、ShiftキーやCtrlキーを押しながら複数のデータを選択し、カットを実行します。



2. 5-3 ● 観測地の検索履歴／コピペ／表示レイアウト変更

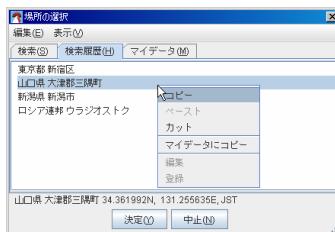
検索履歴にデータが追加されるとき

検索を実行し、検索結果の中から決定ボタンが押されたデータだけが履歴に残ります。



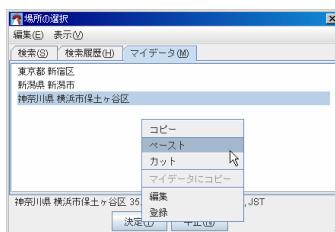
地名データのコピー＆ペースト＆カット

検索結果、検索履歴、マイデータの各窓に表示される観測地は、コピペで、データをコピーしたり移動させることができます。ただし検索結果や検索履歴にペーストしたりすることはできません。ここでは検索履歴のデータをマイデータにコピーする例を示します。



①検索履歴のタブを選択し、履歴の中から希望のものを選択。二つまとめてコピーするときはCtrlキーを押しながら選択。

②右クリックでメニューを出しコピーを選択。

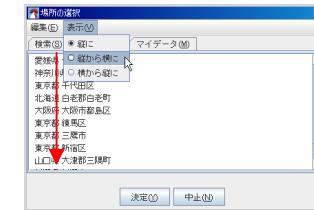


③マイデータのタブを選択し

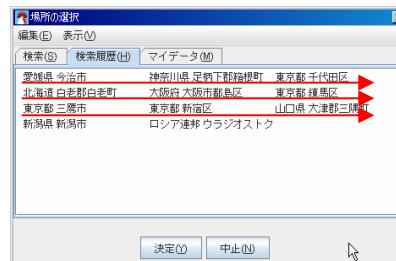
④右クリックでメニューを出しペーストを選択

地名表示のレイアウトを変更

観測地データは通常縦一列に並んでいますが、レイアウトを変更できます。ダイアログのメニューバーから表示を押しメニューから選択します。

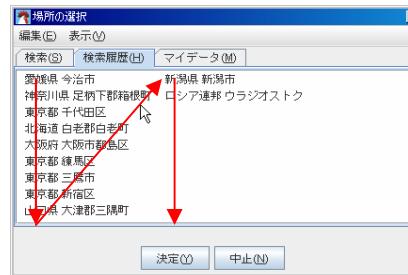


横から縦に



先頭から右方
に向かって並べていき、
一杯になったら
改行

縦から横に



縦が一杯になっ
たら右横に続ける

2. 6 ● タイムゾーンを変更するには



飛行機ボタン

出生データの入力ダイアログやマニューバパネルなどについている飛行機ボタンはタイムゾーンの選択ダイアログを開くボタンです。ダイアログに表示されているリストの中から選択します。タイムゾーンはたくさんあるので、検索機能が用意されています。最初は入力可能なすべてのタイムゾーンが表示されていますが、検索機能で絞り込むことができます。

タイムゾーンは簡単に言うと地球規模での地域ごとの時差情報のことです、地域名(ゾーン名)と国際協定時(UTC)との時差が結びつけられ、それぞれにIDが割り当てられています。

アマテルの日時入力は地方時で行います。日本国内で生まれた人のデータを入力する場合は日本時間の日時を指定します。そして日本時間で指定するためにタイムゾーンに日本標準時が指定されていなければなりません。この時、重要なのは、時差のオフセットで、ゾーン名もIDも関係ないことです。たとえば日本標準時と韓国標準時の時差はどちらも九時間です。タイムゾーンに韓国標準時が指定されても、日本標準時で計算するのと結果は変わりません。

ただし同じ時差を採用している地域でも、夏時間(サマータイム/デイライト・セービング・タイム)のルールを実施している地域は別です。これは「夏になると、夏の間、太陽の出ている時間帯を有効に利用する目的で、時刻を1時間早めて、それに合わせた生活を送る制度(※1)」のことです、サマータイムを実施している地域で生まれた人の地方時における出生時刻は、UTCに変換すると1時間のずれが生じます。アマテルでは夏時間を実施しているタイムゾーンが指定されていて、その人の出生データが夏時間実施期間に該当する場合、自動的にそれを認識しUTCに時刻を補正して計算します。

非常に多くのタイムゾーンがダイアログのリストに表示されます、これはJava言語の標準APIのTimeZoneクラスの実装に依存しています。詳しくはAPIリファレンスを参照してください。

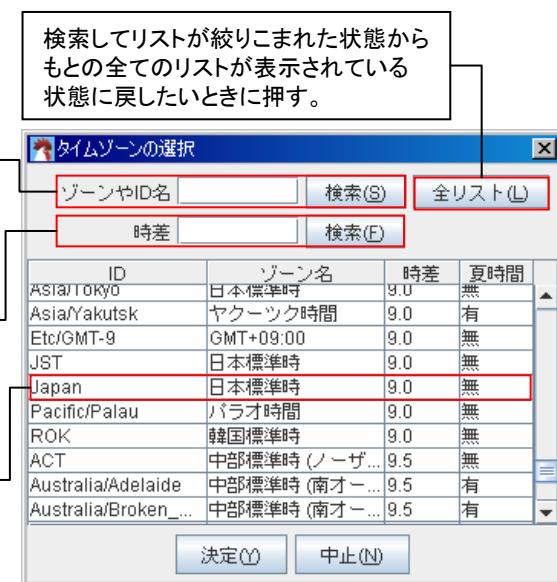
<http://java.sun.com/javase/ja/6/docs/ja/api/java/util/TimeZone.html>

※1 Wikipediaより引用

たとえば韓国標準時を探したい場合は、ここに「韓国」と入力して検索(S)ボタンを押す。または改行キーを押す。

世界標準時からの時差が8時間のタイムゾーンを探したいときは「8」と入力(半角数字で入力)して検索(F)ボタンを押す。または改行キーを押す。

リストの中から希望のものをダブルクリックするとその値に決定されダイアログが閉じる。またはクリックで選択のち、決定ボタンを押す。



日本でもサマータイムが導入された期間があった

国民の不評によりすぐに廃止されましたが、日本でもサマータイムが導入されていた時がありました。1948年から1951年までの四年間で、毎年4月の第一土曜日の24時(日曜日の午前1時)から9月の第二土曜日の25時(日曜日の0時)の期間が決められていました。
ただし1949年は例外で4月の第一土曜日からです。

1948-05-02(日) 01:00 1948-09-12 00:00(日)
1949-04-03(日) 01:00 1949-09-11 00:00(日)
1950-05-07(日) 01:00 1950-09-10 00:00(日)
1951-05-06(日) 01:00 1951-09-09 00:00(日)

この期間に生まれた人の出生時刻がアマテルの内部でUTCに変換されるとき、サマータイムに従って1時間の時差を考慮して補正されます。

(なおこの仕様もJavaのCalendarクラスの実装に依存しています)。

タイムゾーンダイアログ内の一覧の中では、日本標準時に夏時間の実施は無しになっていますが、サマータイム実施期間中の日時が登録されている場合、暗黙のうちに夏時間とみなしほロスコードが計算されます。

2. 7 ●ヒストリーを登録するには

ヒストリーとは入学、就職、結婚など、人生に起きた様々な出来事を出生データの中に履歴として保管しておく機能です。登録しておくことで、チャート閲覧中に、編集(E)メニューからこの履歴情報を読み出し、トランジットチャンネルにセットすることができます。またチャート閲覧中に、そのときのトランジットをネイタルデータのヒストリーに登録することもできます。

ヒストリーの登録

人物の履歴を登録。

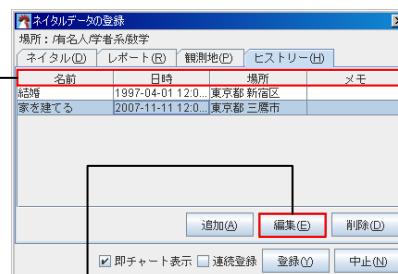
入学、就職、結婚、出産、死亡等の時期を登録できます。

三重円表示状態で、メニューバーから「編集→ヒストリー」で、登録してある時刻を呼び出す事ができます。



ヒストリーの編集

テーブルのヘッダー部をクリックすると、ソート表示できます。



ヒストリーの削除

リストを選択し削除ボタンを押す。



P67 チャートのトランジットをヒストリーに追加／読み出すには

2. 9 ● ユリウス暦とグレゴリオ暦の自動切り替え機能について

私たちが普段使っている西暦年の暦はグレゴリオ暦といって、西暦1582年10月15日の0時(グリニッジ標準時において)からスタートしました。それより昔の暦はユリウス暦といって、やはり同様に1581年6月12日などと表記されグレゴリオ暦と一緒にみえます。しかしグレゴリオ暦が始まった10月15日の一日前はユリウス暦の1582年10月4日なのです。そしてユリウス暦の1582年10月5日は存在しません。10月4日で終わってしまったからです。次の日はグレゴリオ暦1582年10月15日です。そして1582年10月5日から14日までの日付は存在しません。年月日フォームに"1582-10-05"などといった存在しない日を入力するとエラーメッセージが出て入力できません。アマテルでは"1582-10-04"やもっと昔の日付を入力したとき、それは暗にユリウス暦での日付とみなされます。以下に切替日付近のカレンダーを表示します。

年月日	時分秒	タイムゾーン	ユリウス日
AD 1582-10-03(水)	12:00:00	GMT	2299159 ユリウス暦
AD 1582-10-04(木)	12:00:00	GMT	2299160 ユリウス暦最後の日
AD 1582-10-15(金)	12:00:00	GMT	2299161 グレゴリオ暦最初の日
AD 1582-10-16(土)	12:00:00	GMT	2299162 グレゴリオ暦

日は飛びますが曜日は連続しています。
ユリウス日は暦の切替に際して日付の不連続があっても日が1日ずつ進んでいくことを見せるために載せました。

ユリウス日について

ユリウス日はグリニッジ標準時の紀元前4713年1月1日正午をゼロとして、1日ごとに一ずつカウントアップしていく仕組みの暦で、ユリウス暦とは別のものですが。このような暦を普段の生活で使うと不便きわまりないですが、天体の位置を求める計算ではこのような時間表現のほうが都合が良いのでよく使われます。天文計算ではほぼ標準となっている暦ですが、ホロスコープを作成する上でアマテルのユーザがこの暦を知っている必要はありません。計算はコンピュータの仕事でユリウス日はプログラムの中ではひんぱんに使われていますが、ユーザはグレゴリオ暦もしくはユリウス暦の日付を入力すれば良いだけです。



非常に古い時代の日付を入力する際の注意点

アマテルの日時管理はJavaが提供するGregorianCalendarクラスの仕様に依存しています。その仕様についてユーザーが知っておくべき部分を引用します。JavaAPIリファレンスの日付を扱うクラスの項から引用。
<http://java.sun.com/javase/ja/6/docs/ja/api/java/util/GregorianCalendar.html>

引用開始

歴史的に、グレゴリオ暦を最初に採用した国々では、1582年10月4日(ユリウス歴)のあとに1582年10月15日(グレゴリオ歴)が続きました。このカレンダはこれを正確にモデル化しています。

グレゴリオ暦への切り換えた前の日は、GregorianCalendarではユリウス暦を実装しています。グレゴリオ暦とユリウス暦の唯一の違いはうるう年の規則です。ユリウス暦は4年ごとにうるう年を指定しますが、グレゴリオ暦では、400で割り切れない世紀の初年をうるう年にしません。(中略)

ただし、GregorianCalendarを使用して得られた日付は、歴史的に、現代と同様のユリウス暦が採用されたAD4年3月1日以降の日付だけが正確です。この日付よりも前に、うるう年の規則は不規則に適用されており、BC45年以前にはユリウス暦は存在しません。

引用終了

Javaが提供している日付管理の仕組みは、ユリウス暦の規則に従ってユリウス暦採用日より昔の日付入力も受け付けますが、歴史書などに記載されている古い日付の入力に際しては注意が必要です。ユリウス暦の規則に従った日付が書かれているわけではなく、その当時のその地域で使われていた暦に基づく日付が書かれている可能性が高く、ユリウス暦のカレンダーと一致するとは限りません。



暦の安易な判断は禁物

古い時代の日付を入力する際、ユリウス暦/グレゴリオ暦の切替日だけで、資料に書かれている日付の暦を判定すべきではありません。実際のところ、グレゴリオ暦が導入地域に浸透するまでかなりの年数が必要だったようです。つまり「1583年と古文書に書かれているから、グレゴリオ暦だな」と判断はできないということです。詳しく調査しなければなりません。

2. 10●紀元前と紀元後の切り替わりの仕組み

紀元後はAD1年1月1日から始まります。その前日である紀元前の日付はBC1年12月31日です。

紀元0年が無く1年から始まるのは、当時まだゼロの概念が西洋に伝わっていなかったからです。

紀元前の年の位は数が増えるにつれて昔にさかのぼっていきます。

"0000-03-21"などと存在しない日付はエラーとなります。

年月日	時分秒	ユリウス日
AD 0002-01-01(日)	12:00:00	1721789

...
AD 0001-01-02(日) 12:00:00 1721425

AD 0001-01-01(土) 12:00:00 1721424

BC 0001-12-31(金) 12:00:00 1721423

BC 0001-12-30(木) 12:00:00 1721422

...
BC 0002-01-01(水) 12:00:00 1720693



史実のキリストの誕生年とは多少異なるようですが西暦元年はキリスト誕生の年とされます。西暦年の頭につけられるA.Dはラテン語で「主の年に」を意味する"Anno Domini"から、それ以前の年はキリスト紀元前ということで"Before Christ"からB.Cと称されます。

2. 11 ● 出生データのバックアップについて

多数登録された出生データのバックアップは、エクスポート機能で行います。アマテルのデータベースに登録されている出生データや出来事データは、CSV形式のテキストファイルとして出力されます。

エクスポートされたファイルは、インポート機能によってアマテルにロードすることができます。

バックアップ用の4つの機能

- ①すべての出生データをエクスポート(書きだし)する。
- ②すべての出生データをインポート(読みこみ)する。
(アマテルに登録されている出生データはすべて抹消され、インポートされたデータに置換されます。)
- ③選択されたフォルダをエクスポートする。
- ④選択されたフォルダにインポートする。

アマテルのバックアップに対するポリシー

入力した出生データやコンポジットのデータはCSVフォーマットでファイルに入出力できるようになっています。CSVフォーマットの利点はそれがテキストファイルでありWindowsのメモ帳やエディタで簡単に閲覧できることと、Microsoft Excelなどの表計算ソフトを使って各フィールド単位で編集ができます。

データはアプリケーションより長く使うものです。機会あるごとに収集した著名人の出生データや、エポックメイキングな歴史上の出来事の日時、知人の出生データなど、アマテルというアプリケーションを使わなくなる日がきても、これらのデータを失うわけにはいかないでしょう。

新しい別のアプリケーションにデータを引っ越したいと思ったとき、手作業で入力しなおすにせよデータがバイナリ形式だとお手上げですがその点CSVは安全です。

データをエクスポートしておけば、そのデータが読めなくなってしまうことはまずありません。

データベースに入力したデータは、定期的にエクスポートで外部のファイルに書き出して保管するようにしてください。

もっとも確実な保管法は印刷しておくこと

筆者はかれこれ25年以上コンピュータを使ってきましたが、コンピュータの世界は変化が速いです。駆け出しのころ覚えたた様々なツールのうち、今でも使えるものは皆無です。そのころ保管してあったフロッピーディスクは今となっては読み出す事もできません。かりに読み出せたとしても、その当時使っていたソフトは今のWindowsでは動きません。インターネット以前のパソコン通信の時代に、どこかのホストにアップロードしておいたファイルもどこにいったのか覚えていません。自分の脳みその記憶も風化するので、どこにしまったのか忘れてしまったりします。砂の上に字を書き放置しておくとあっという間に消えてしまうようなものです。そのような状況の中で、一番まだと思える方法が印刷して紙媒体で残しておくことです。20年以上前に書いたソースコードも紙に印刷したものは残っているから不思議です。

2. 11-1 ● 出生データの一括インポート／エクスポート

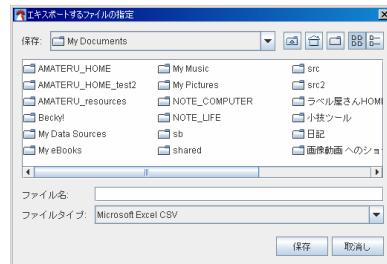
全データのエクスポート(書きだし)

エクスポートとはアマテルのデータベースに登録されているすべての出生データをファイルに書きだす機能です。このファイルを保管しておけば、万が一データが失われるような事故が起きたときも、復元することができます。

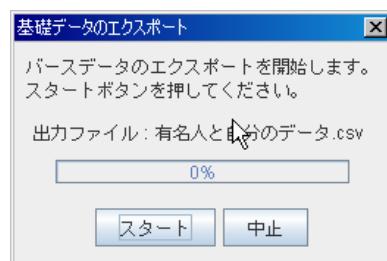
- ① 「ファイル→バックアップ→全データをエクスポート」を選択。



- ② 出力先フォルダを選択し、出力ファイル名を入力し、保存ボタンをクリック。



- ③ エクスポートダイアログが表示されたら、スタートボタンをクリック。書きだし完了まで少々時間がかかります。



全データのインポート(読みこみ)

この機能は、出生データの一括バックアップの復元用です。アマテルによってエクスポートされたCSVファイルでなければなりません。

 **全データのインポートが開始すると、その時点でアマテルに登録されているすべての出生データは消去されます。**

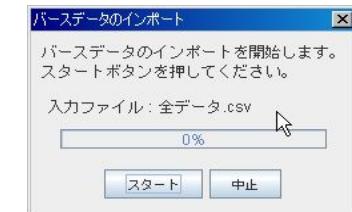
- ① 「ファイル→バックアップ→全データをインポート」を選択



- ② ファイル選択ダイアログが開きます。インポートするCSVファイルを選択し、「開く」ボタンをクリック。



- ③ インポート用ダイアログが開いたら、スタートボタンを押します。



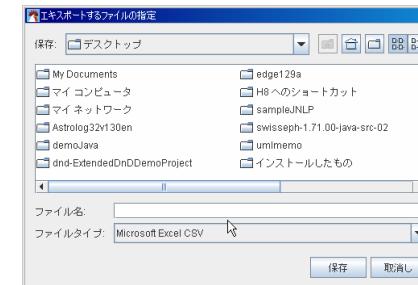
2. 11－2 ● 選択したフォルダをエクスポートするには

データベース上の選択したフォルダの出生データだけをCSVファイルで書き出す機能です。
データの整理や、自分で集めたデータを他の人に配布したりするのに使います。
ファイルフォーマットは、全エクスポートのものとまったく同じです。

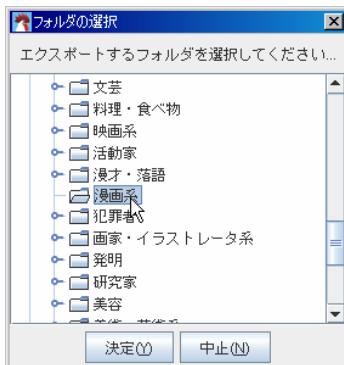
① ファイル→バックアップ→部分エクスポートを選択



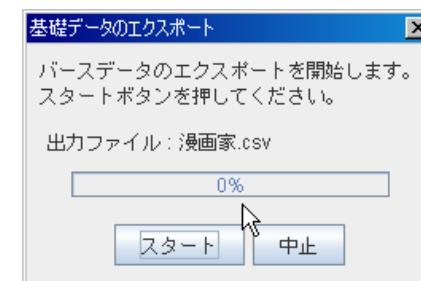
③ 出力するファイル名を指定して、保存ボタンをクリック。



② フォルダの選択ダイアログが表示されます。書き出したいフォルダを選択します。選択したフォルダとそのすべてのサブフォルダが書きだしの対象となります。



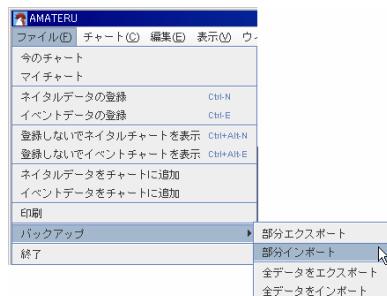
④ エクスポートのダイアログが表示されたらスタートボタンをクリック。選択したフォルダのデータがファイルに出力されます。



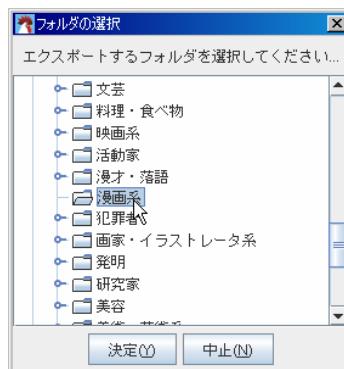
2. 11－3 ● 選択したフォルダにインポートするには

①や③の方法でエクスポートされたCSVファイルを、データベース上の任意のフォルダに読みこむ機能です。他人からもらったり配布されている出生データファイルを自分のアマテルに読みこんだり、出生データの整理するのに使います。

ファイル→バックアップ→部分インポートを選択



インポートするフォルダが表示されるので、フォルダを選択し決定ボタンをクリック。

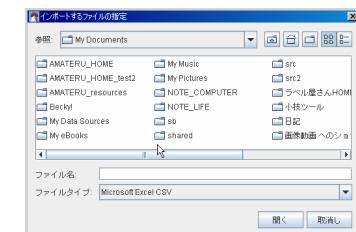


このとき新しく任意のフォルダを用意したい場合は、ツリーの上で右クリックしてメニューを出し、新規フォルダを選択。

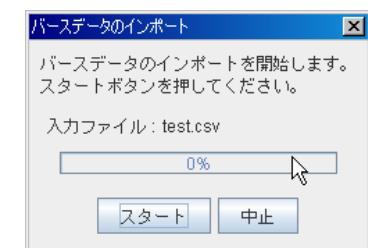
新規フォルダが作成されるので名前を入力し、それをインポート先のフォルダとすることもできます。



インポートするCSVファイルをファイル選択ダイアログで指定し、開くボタンをクリック。



インポートダイアログが表示されたらスタートボタンをクリック。出生データが指定したデータベースのフォルダに読み込まれます。



2. 12 ● 出生データファイルのフォーマット

タブ区切りのCSVフォーマットで、文字コード体系は Unicode(正確にはUTF-16LE)です。Unicodeを使う理由は人名に多い旧漢字や多国籍の言語を区別なく入力できるためです。CSVとはComma Separated Valueの略で、各値がカンマで区切られたフォーマットのことを指しますが、セパレータにはTABコードを使用しています。(TABをセパレータにしたCSVはよく使われます)このファイルはMicrosoft Excelで閲覧編集が可能です。Excelで保存するときはファイルの種類に"Unicode テキスト(*.txt)"を指定して保存します。ただし拡張子は".csv"でなければなりません。".txt"で保存した場合は、".csv"にリネームが必要です。

基本のフィールド
17個のフィールドから成る。セパレータはTABコード。

CHARTTYPE	チャートタイプ (NATAL COMPOSIT EVENT)
NAME	名前 (40文字まで。改行禁止)
KANA	なまえ (40文字まで。改行禁止)
GENDER	性別 (1=男,2=女,0=無性)
JOB	職業 (40文字まで。改行禁止)
MEMO	メモ (60文字まで)
DATE	日付 (" AD BC yyyy-dd-mm")
TIME	時刻 ("hh:mm:ss")
PLACENAME	地名 (28文字まで)
LATITUDE	緯度 (12文字までの実数)
LONGITUDE	経度 (12文字までの実数)
TIMEZONE	時差 (タイムゾーンIDを指定)
TREEPATH	パス (改行禁止)
HISTORY	履歴 (EVENTのリスト) ●
COMPOSIT	グループ情報 (EVENTのリスト) ●
NOTE	ノート (文字数制限はなし。改行等もOK。)
TIMESTAMP	タイムスタンプ ("yyyy-mm-dd hh:mm:ss.ffff")

Unicodeのファイルは一番最初にBOM(Byte Order Mark)という4byteのバイナリコードが埋め込まれており、これによってアプリケーションがUnicodeのファイルであることを識別します。BOMの値は16進数で0x0000FEFFです。

最初の1行目はヘッダー情報で、17個のフィールドがあります。インポートの際ヘッダーは読み飛ばさざるを得ません。

EVENTのフィールド
セパレータはカンマです。

EV_NAME	名前	(NAMEと同じ書式)
EV_MEMO	メモ	(TIMEと同じ書式)
EV_DATE	日付	(DATEと同じ書式)
EV_TIME	時刻	(TIMEと同じ書式)
EV_PLACENAME	地名	(PLACENAMEと同じ書式)
EV_LATITUDE	緯度	(LATITUDEと同じ書式)
EV_LONGITUDE	経度	(LONGITUDEと同じ書式)
EV_TIMEZONE	時差	(TIMEZONEと同じ書式)

HISTORYとCOMPOSITのフィールドは、入れ子状にもう一つのCSV形式のデータが入っていて、これをEVENTフィールドと呼びます。セパレータはカンマです。

2. 12-1 ●データファイルの各フィールドの解説

DATE

CHARTTYPE

"NATAL","COMPOSIT","EVENT"の三種類のみで他は禁止。

すべて大文字でなければなりません。

NATALは人物、EVENTは出来事、COMPOSITは複数の人物データの集合を表します。

NAME

人物や出来事やコンポジットグループの名前で1文字から28文字までです。

0文字であってはいけません。

改行やコントロールコードは入力禁止です。

KANA

NAMEの読み仮名で、原則として全角ひらがなもしくはASCII文字列を使用します。

改行やコントロールコードは使用禁止です。

読みがなは漢字表現よりしばしば長く必要になりがちなので、40文字まで入力可能になっています。NAMEフィールドと異なり空(つまり0文字)でもかまいません。

GENDER

性別を表すフィールドで1=男,2=女,0=無性のいずれかが必ず入力されていなければなりません。それ以外の値は使用禁止です。

JOB

職業名です。28文字まで。空でもかまいません。

改行やコントロールコードは使用禁止。

MEMO

人物等についての簡単なコメントで28文字まで。空でもかまいません。

改行やコントロールコードは使用禁止。

先頭は"AD"もしくは"BC"もしくは半角スペース " "で始まり、つづいて"yyyy-mm-dd"と年-月-日とつきます。

頭のBC,ADを除いた日付部分は、java.sql.Date.valueOf()が解釈可能な日付文字列です。

インポートの際、ありえない日付が入力された場合エラーが報告されます。

例

"AD 1980-11-30" 紀元後1980年11月30日

" 1964-09-30" 紀元後1964年9月30日(つまりADは省略可能)

" 1964-9-30" 09ではなく9でも可。

"BC 500-01-01" 紀元前500年1月1日

まちがい例

"AD 2007-2-29" 2007年2月29日という日は存在しません。

"AD 2007-11-31" 11月31日という日は存在しません。

"AD 2007-13-1" 13月という月は存在しません。

TIME

先頭は半角スペースではじまり、続いて"時:分:秒"とつづきます。24時間方式です。ひと桁の値は"01"でも"1"でもどちらでもかまいません。

java.sql.Time.valueOf()が解釈できる時刻文字列が入ります。

例

" 00:30:00" 午前0時30分

" 17:25:05" 午後5時25分5秒

" 13:6:3" 午後1時6分3秒

まちがい例

" 05:30" かならず時分秒の3つが必要。

" 18:40:50.115" TIMESTAMPの時刻表現では可能ですがDATEで端数秒は不可。

•PLACENAME

地名で28文字まで。

改行やコントロールコードは使用禁止。

2. 12-1 ● データファイルの各フィールドの解説

LATITUDE

観測地の緯度で12文字まで表現される実数です。
地球の赤道を0度して、北極に向けて90度、南極にむけて-90度までの範囲です。

例

"35.453962"
"-35.453962"

LONGITUDE

観測地の経度で12文字まで表現される実数です。
イギリスのグリニッジ天文台を経度0度して東方向に180度、西方向に-180度までの範囲です。

例

"139.617206"
"-139.617206"

TIMEZONE

String [] java.util.TimeZone.getAvailableIDs();

で取得できるID文字列。

TREEPATH

階層フォルダで管理されるときのパス名でセパレータは"/"です。
複数のパスが書かれる場合があります。そのときはそれぞれのパスがカンマ(,)で区切られます。
フィールドが空の場合は階層のルート(一番上)を表します。

例

"有名人/歌手"
"有名人/歌手,有名人/女優"

HISTORY

一件分のデータがもっている履歴情報で、複数のイベントデータが格納されています。

イベントデータは名前,メモ,日付,時刻,地名,緯度,経度,タイムゾーン,シリアル番号からなり、

値はそれぞれカンマ(,)で区切られます。なぜセパレータがTABではなくカンマになっているかというと、表計算ソフトで読みやすいようにです。

また改行によって複数のイベントデータが列挙されます。つまりCSVファイルの1フィールドに、

さらにまた別のCSVフォーマットのデータが複数埋め込まれています。

例

研究会を開く,, 2005-06-01, 15:22:53, 東京都・世田谷区, 35.642004, 139.637426, JST
テスト2,, 2006-12-01, 04:44:47, 神奈川県・横浜市西区, 35.453962, 139.617206, JST
どうかしら,, 2006-12-07, 10:42:02, 横浜市西区, 35.453962, 35.453962, Asia/Tokyo

特記事項

ネーチャルに対するトランシットを見るときの観測地データはHISTORYに埋め込まれます。

"TRANSIT_PLACE"という名前をもつ行がそれです。DATE, TIMEは空です。

例

TRANSIT_PLACE,,, 横浜市西区, 35.453962, 35.453962, Asia/Tokyo

2. 12-1 ●データファイルの各フィールドの解説

COMPOSIT

コンポジットチャート用で、合成すべきバースデータの一覧表が入ります。
HISTORYと同じフォーマットです。

NOTE

データに対する長い説明文等を入れるフィールドです。改行コードも入力可能ですが。文字数制限は設けていません。

TIMESTAMP

先頭は半角スペースではじまり、続いて"yyyy-mm-dd hh:mm:ss.fffffffff"と続きます。一秒以下の位は十進数の端数で表現されます。
java.sql.Timestamp.valueOf()が解釈できる日時文字列でなければなりません。
"yyyy-mm-dd"のみだとインポートの際にエラーになります。
インポートの際このフィールドにはかならず値が入っていなければなりません。

例

"2006-06-20 11:41:15.671"

"2006-06-20 11:41:15"

★コンポジットの場合

コンポジットは様々な日時や場所からなる複数のデータの集合なので、
DATE, TIME, PLACENAME, LATITUDE, LONGITUDE, TIMEZONEのフィールド
は空になります。GENDERは無性(値はゼロ)です。

★日時やタイムスタンプが半角スペースで始まる理由

Excelにロードされるとき半角スペースがないと日時を表すフィールドが自動的に
解釈されて望まない書式にフォーマットされてしまいます(*)。
たとえば"2006-06-20"が"2006/6/20"というように変わってしまったりします。これは
Excelが自動的に日付文字列だと判断してくれたためなのですが、
この自動判断は1900年より昔の日付になると今度は日付だと認識してくれなくなります。
アマテルは扱っているデータの性質上、紀元前からの日付の入力がありえるためこの自動判定では中途半端な結果になってしまいます。

この自動判断をキャンセルするためには、日時の文字列を数字で始めなければ良いというのがその理由です。

* Microsoft(R) Office Excel 2003 (11.6355.6360) SP1 での動作確認。



ファイルサイズや入力文字数の限界値

文字数に制限を設けていないフィールドは、JavaのString型の上限値まで入力が可能ですが、ファイルサイズにも上限値があり2ギガバイトまでです。しかしそのような巨大なサイズのデータを入力しても、パソコンのメモリに収まらないかもしれません。またそのような巨大なデータを運用することは想定していませんしテストもしていません。CSVファイルのサイズ上限値としてはせいぜい数十から百数十メガバイトまでが実用的な範囲だと思われます。

CSVファイルを手作業で編集する事は推奨できない

Microsoft Excelなどで正しく編集すれば、手作業で入力した出生データファイルをインポートすることが可能ですが推奨はできません。不正な値が入力された場合のエラー訂正是にはあまり重きを置いておらず、必要最小限のチェックが行われるだけです。無駄に入力された改行コードやスペースコードなどが害をなして、予期できないエラーを発生する恐れがあります。エクスポート機能で書き出したファイルを再びインポートするという使い方しか想定していません。

ですが正しくデータファイルを作成すれば、大量のデータを比較的楽に入力する手段になりうるでしょう。どうしてもそのような事をしたい場合はバックアップを取ってから作業することをお忘れ無く。

第3章 チャート

3. 1-1 ●出生データをチャートで表示するには

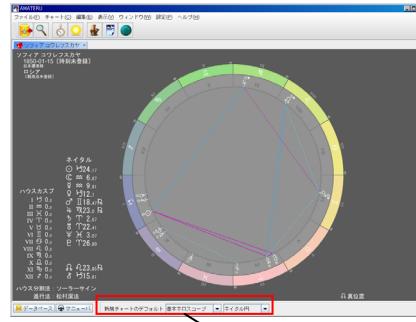
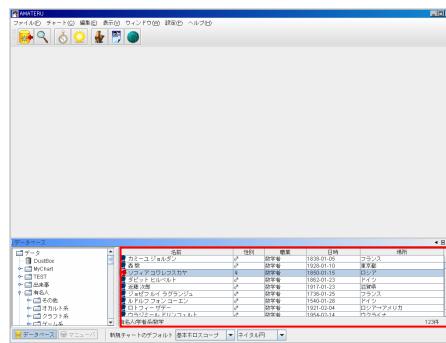
ダブルクリックで表示

チャートが一枚も出でないとき

データリストから任意のデータをダブルクリックするとチャートが開きます。

すでにチャートが一枚以上出でているとき

データをダブルクリックすると、表示中のチャートのデータがクリックしたものに更新されます。

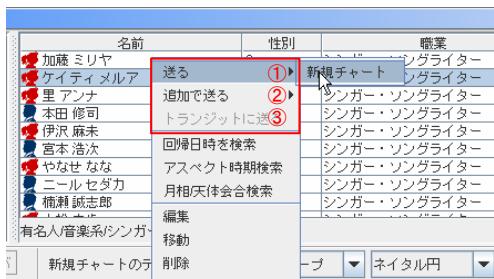


ここで指定した図が出ます。

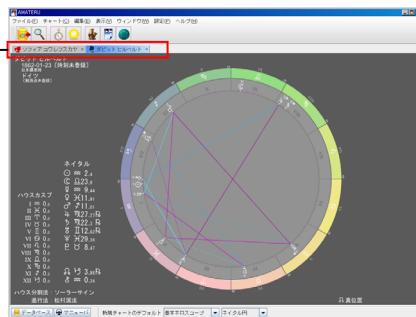
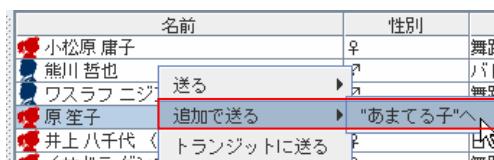
①送る

リストから任意のデータをクリックで選択。右クリックでメニューを出し「送る→新規チャート」を選択します。この方法は必ず新しくチャートが作成されます。

複数のチャートが表示されているときは、それらのチャートに送るメニューが用意され、任意のものに送ることができます。



新規チャートを実行するたびにタブも増える。タブをクリックするとチャートを切り替えることができます。



②追加で送る



P46 チャートのデータ受け取りチャンネルについて

③トランジットに送る



P47 出生データをチャートのトランジットチャンネルに送るには

関連ページ



P53 表示されているチャートの種類を変更するには



P69 チャートを複数並べて表示するには

3. 1-2 ●自分のチャートを素早く表示するには

自分自身のホロスコープは見る機会も多いものでしょう。ワンクリックで自分のホロスコープを表示できるように設定できます。

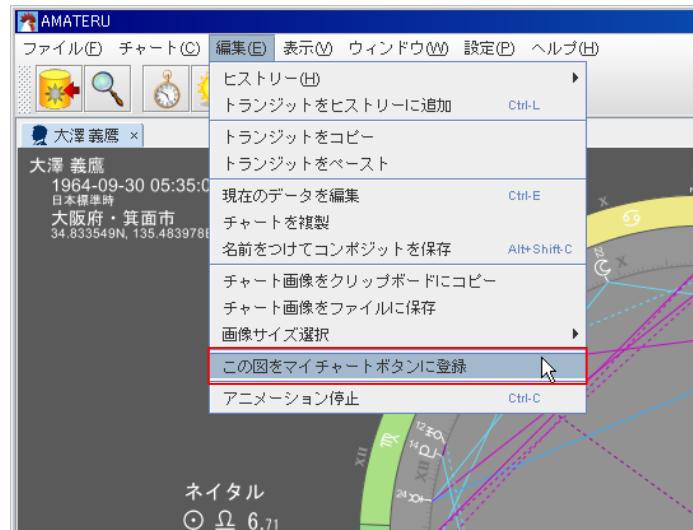
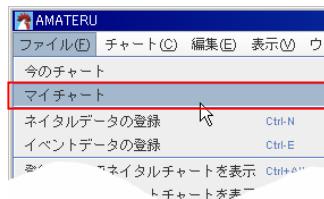
まず自分のチャートを開きその状態で、メニューバーから「編集→この図をマイチャートボタンに登録」を選択。とくに反応はありませんが、以降、マイチャートボタンを押すと、登録したチャートが表示されるようになります。

登録の際、スキンや計算条件はその時使用していたものが登録されます。

登録後ツールバーのこのボタンを押せば登録したチャートが開きます。



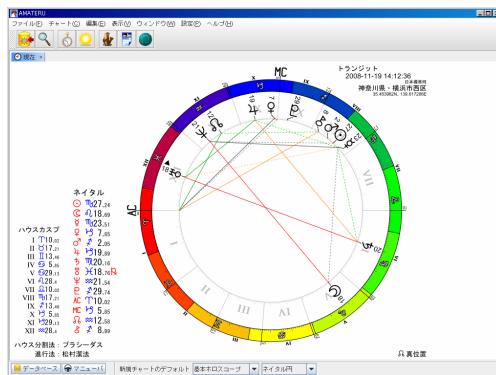
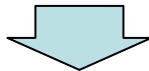
もしくは「ファイル→マイチャート」からでも同様に開くことができます。ツールバーを非表示にしているときはこれを使います。



全データのインポートを行ったときは、登録は消去されます。再度登録してください。

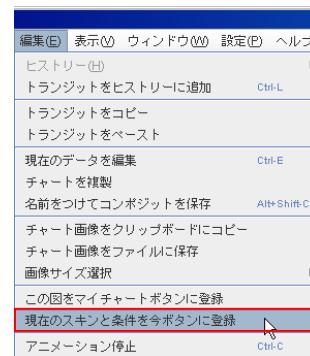
3. 1-3 ● 現在のトランジットチャートを素早く表示するには

現在時刻のトランジットチャートをすばやく表示するには、ツールバーの時計アイコンか、「ファイル→今のチャート」メニューを使います。



今ボタンを押したときに開く、トランジットチャートのスキンと計算条件を指定したい場合は、「編集→現在のスキンと条件を今ボタンに登録」メニューで行います。

メニュー選択時に特にリアクションはありませんが、その時使用されているスキンと計算条件が登録され、以後「今のチャート」ボタンを押したら、その条件でトランジットチャートが開きます。



スキンと条件については…



P62 チャートをカスタマイズするには

3. 1-4 ● チャートのデータ受け取りチャンネルについて

チャートはどのような種類のものであれ、日時や緯度経度の情報をデータベースから受け取るチャンネルを一つはもっています。データベースはこのチャンネルに、ユーザが選択したネイタルデータをセットします。それを視覚的にユーザに見せ、セットされた日時や観測地を一時的に変更する機能を提供するのが、タイムマニューバパネルです。チャートはチャンネルにセットされた日時と観測地に基づいて作図します(ホロスコープ等を描画します)。

チャンネルにはネイタルチャンネルとトランジットチャンネルの二種類があります。トランジットチャンネルは一つだけです。出生日時を受け取るネイタルチャンネルは、チャートによって異なります。ほとんどの場合は一つだけですが(図1)、相性円は二つのネイタルチャンネルをもっています(図2)。二人分の出生データをデータベースから受け取るためです。

ところがネイタルチャンネルは、複数の出生データを受け取ることができます(図3)。基本的に受け取れるデータ数に上限はありません。つまり図1のネイタルチャンネルにも同じことがいえます。

図2のようにネイタルチャンネルを複数持つのは、ネイタルデータの入替を頻繁に行いたい場合です。相性円では人物AとB, AとC, AとDというように組合せを交換する機会が多いでしょう。その場合、タブ式で分けておくほうが操作性が良いのです。

対して星座分布グラフや、コンポジット図など、非常に多くのネイタルデータを元に作図するようなケースでは、図3の方式が現実的です。(ただしコンポジット図はまだ未実装)。

「追加で送る」とは?

図3のように一つのネイタルチャンネルにデータを追加するということです。

名前	性別	舞踊
小松原 康子	♀	
熊川 哲也	♂	バレ
ワスラフ ニジ	♂	無所属
原 笠子	追加で送る	"あまてる子"へ
井上 八千代	トランジットに送る	出

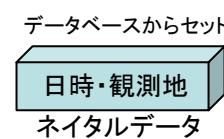


図1

基本ホロスコープチャート

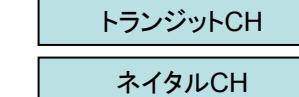


図2

相性ホロスコープチャート

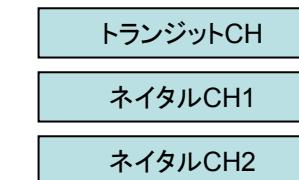


図3

星座分布グラフチャート



ネイタルCH1は、複数のデータを受け取れる。

マニューバの操作法については



P50 チャートの日時や観測地を変更するには

3. 1-5 ● 出生データをチャートのトランジットチャンネルに送るには

ネイタルデータをトランジットチャンネルにセットしたい機会は少ないでしょうが、出来事のデータはそうしたいことが多々あると思われます。

ある事件が起きたときに、その時刻と場所でのイベントチャートを作成することがあると思います。その場合は、ネイタルチャンネルにデータを送るでしょう。

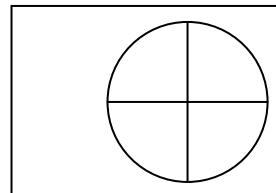
さて、その事件の時刻と場所を、その事件の当事者のネイタル図重ねてみたい事があると思います。

その場合、当事者の出生データをネイタルチャンネルにセットし、トランジットチャートに、事件のデータを送るという使い方をします。

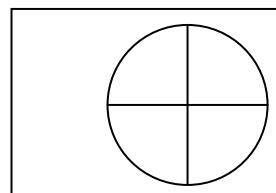
このとき、タブパネル上で選択されているチャートのトランジットチャンネルにデータが送られます。

「送る」と異なり、トランジットの場合はメニューから送り先のタブは選択できません。

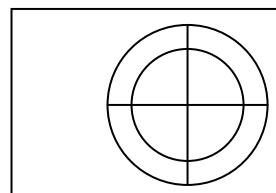
名前	性別	職業	日時	場所
あまる子	♀		1965-03-30 12:00:00	東京都 三鷹市
てる子の運命的な大事件			2008-10-13 08:20:22	ドイツ ベルリン



運命的な大事件の図



あまる子出生図



てる子+大事件の図
(NT二重円)



Altキーを押しながらデータをダブルクリックしてもトランジットチャンネルに送る事ができます。

3. 2 ●データベースに登録せずにチャートを表示するには

その場限りの使い捨て感覚で、チャートを表示したいことがあるかもしれません。データベースにネイタルデータを登録せずに、チャートを表示できます。

個人の出生チャートを表示したいときは、ファイル(F)メニューから、「登録しないでネイタルチャートを表示」を、出来事のチャートなら、「登録しないでイベントチャートを表示」を選択します。



データ登録用ダイアログが開きます。情報を入力し、登録ボタンを押します。



はじめに表示されるチャートは、ここで指定してある図です。



このように登録せずに開いたチャートを、タブの×ボタンを押して閉じようすると、表示中のデータをデータベースに登録するか尋ねられます。



「はい(Y)」を選択すると、再度、登録用ダイアログが開きます。修正や追加したい情報があれば、ここで入力し登録ボタンを押します。



次にフォルダの選択ダイアログが開き、登録するフォルダを尋ねられるので指定し、「決定」を押します。これで登録完了です。



3. 3 ● 表示中のチャートに直接データを追加するには

すでに表示されているチャートに、データベースからではなく、直接ネイタルやイベントデータを入力したい場合もあるかもしれません。(あまり無いかもしれません)

今、一枚のチャートが表示されていて、それが「あまる太郎」のものだとします。このネイタルチャンネルにデータを追加します。

個人の出生データを追加したいときは、ファイルメニューから、「ネイタルデータをチャートに追加」を、出来事のデータを追加したい場合は、「イベントデータをチャートに追加」を選択します。

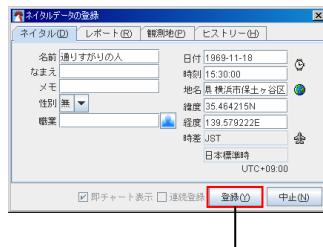
データ登録用ダイアログが開きます。ここでは「みちてる子」のデータを、直接入力してみます。入力し終わったら、登録ボタンを押します。



「みちてる子」がネイタルチャンネルに追加されました。



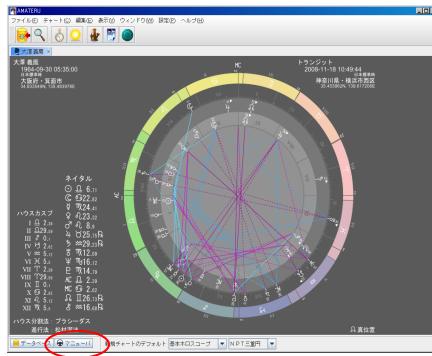
登録せずに開いたチャートを、タブの×ボタンを押して閉じようすると、表示中のデータをデータベースに登録するか尋ねられます。



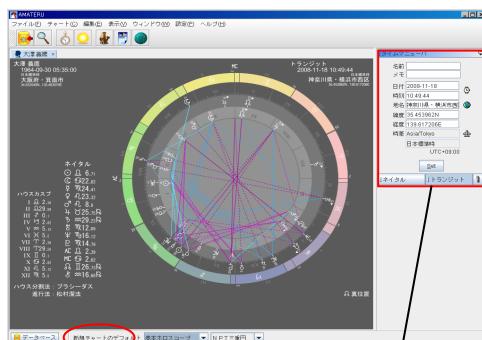
P48 データベースに登録せずにチャートを表示するには



3. 4-1 ● チャートの日時や観測地を変更するには



①チャートに与えられている日時、観測の緯度・経度、タイムゾーンを変更するにはマニューバを使用します。マニューバボタンをクリックすると、マニューバパネルが画面右に出現します。



ボタンは消える

②マニューバ
パネルが出現

トランジットを操作する場合

キーボードから値を入力できます。

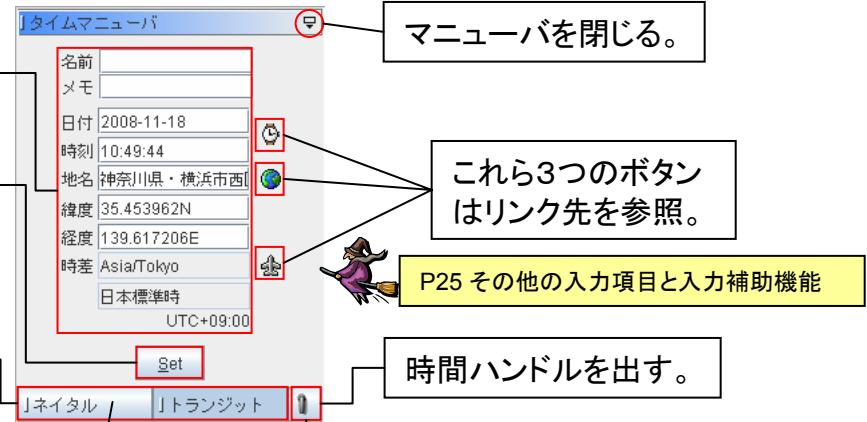
入力をチャートに反映させる。

チャートはネイタルとトランジットの二系統の入力を持ちます。二つの切替をこのボタンで行います。

ネイタルを操作する場合

ネイタルの値を変更しても初期値に戻せる。

入力をチャートに反映させる。



マニューバを閉じる。

これら3つのボタンはリンク先を参照。

P25 その他の入力項目と入力補助機能

時間ハンドルを出す。

ネイタルボタンを押すとパネルが切り替わる



時間ハンドル



再度押すと元に復帰

時間を加減したり連続的に変化させチャートをアニメーションできる。トランジットもネイタルも同様に操作可能。



P51 チャートをアニメーションするには

3. 4-2 ● チャートをアニメーションするには

時間を一定間隔で進めて(または戻して)、日々の星の動きを追いかける操作は、メニューの時間ハンドルで行います。時間増分量を指定し、ステップボタンを押すことで現在の日時に加算または減算することができます。

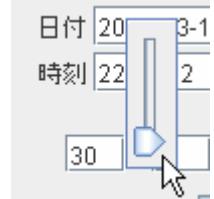
オートボタンを使用すると一定速度で自動的に時間加算が行われ、ホロスコープをアニメーション表示できます。

トランジットでもネイタルでも同様に、時間ハンドルを使って日時を操作できます。

オフセット入力フォーム
日時フォームの値に加算/減算する時間のオフセット値を指定する。各桁の数値フォームにはキーボードから値を入力できます。

ボタンの上でマウスホイールを回転させることで値を上下させることができます。

またこのボタンをクリックすると、スライダーが出現し、ノブをドラッグして値を上下させることができます。余白の部分をクリックすると、1カウントずつ変化させることができます。



一定速度で連続的にオフセット値を日時フォームに加算し、チャートに送る。これによりホロスコープのアニメーションができる。

このボタンはトグル式で、+ボタンを押した後、もう一度押せば停止。-ボタンも同様。



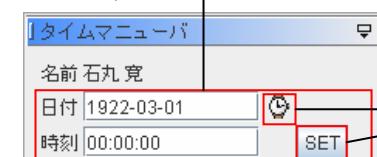
P50 チャートの日時や観測地を変更するには



日時フォーム

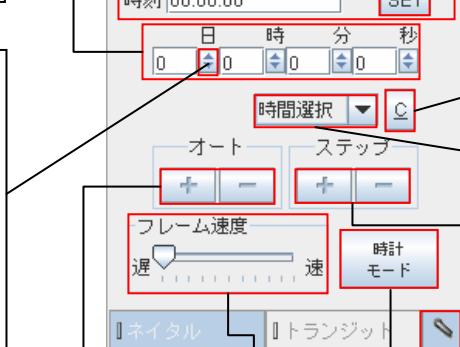
チャートに入力されるトランジットの時刻。キーボードから直接値を入力し、Setボタンを押すとチャートに反映される。

ハンドルボタンをクリック



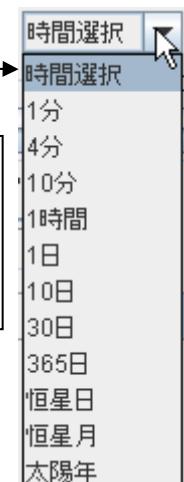
現在時刻をフォームにセット

日時フォームの値チャートにセット



オフセット値のゼロクリアボタン

あらかじめ用意されているオフセット値を手軽に入力できる。



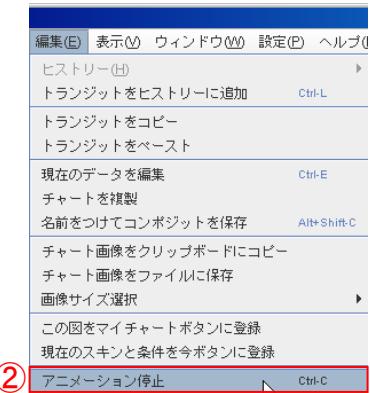
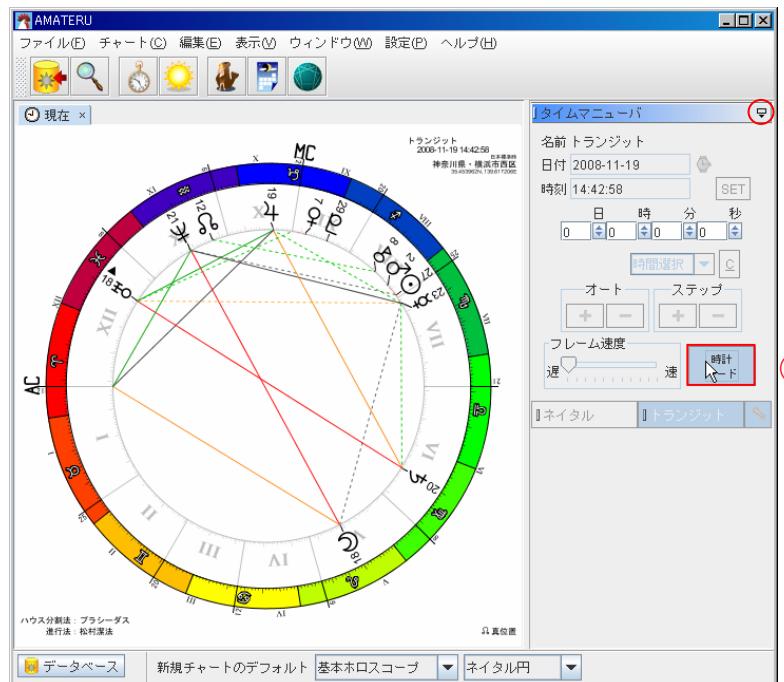
オフセットを日時フォームの値に加算(+ボタン)または減算(-ボタン)し、チャートにセットする。またこのボタンの上でマウスホイールを上(+)下(-)に回転させてもボタンを押したと同じ動作ができる。ホロスコープの時間を前後に動かすときはホイールを使うと便利です。

トグル式のスイッチで、押すと現在時刻を1秒間隔で、チャートにセットしつづける。

再度このボタンを押すと、元のパネルに復帰する。アニメーション中でもこのハンドルボタンを押して、元のパネルに復帰できる。アニメーションは継続されます。アニメーションの停止は、「編集→アニメーション停止」からも行えます。メニューのパネルをいちいち出さなくも良いのが利点。

3. 4-3 ● チャートを時計のように表示するには

- ① マニューバを開き、時計モードボタンを押せば、現在の時刻がチャートに送られ、一秒おきに更新されます。天体は非常にゆっくりとしか動きませんが、リアルタイムに現在の星空をアニメーション表示します。時計モードのとき、マニューバの他の機能操作は全て無効になります。アニメーションを停止するときは、時計モードボタンを再度押します。
- ② または編集メニューから「アニメーション停止」を選択しても停止できます。
- ③ 時計モードがはじまりホロスコープが動き始めたら、マニューバパネルは閉じてしまうと良いでしょう。



P50 チャートの日時や観測地を変更するには

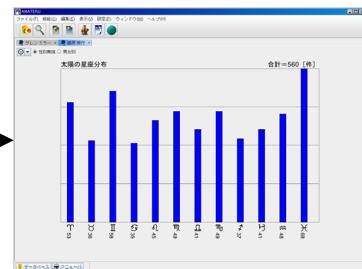
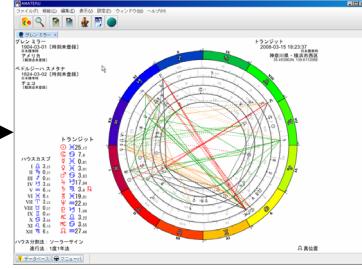
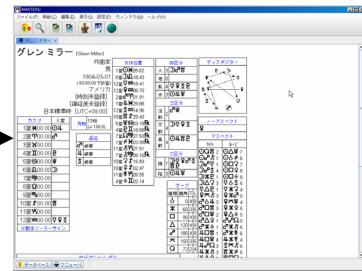
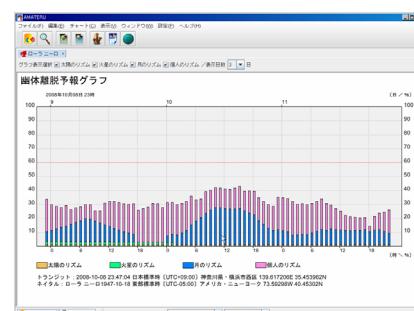
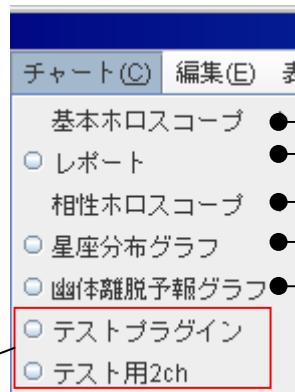
3. 5 ● 表示されているチャートの種類を変更するには

どのような図を表示するかは、
「メニューバー→チャート」から行います。

アマテルには現在大きくは5種類の占星術用の図を表示する機能があります。これらの図を総称してチャートと呼びます。チャートはデータベースから日時・観測地・タイムゾーンといった情報を受け取りそれに基づいて作図表示します。

チャートはタブパネルの中に表示されます。タブパネルは時には何枚も表示されます。タブパネルに表示されるチャートの種類は、チャートメニューから切り替えることができます。今後、チャートの種類が増えるたびにこのメニューに追加されていくことになるでしょう。

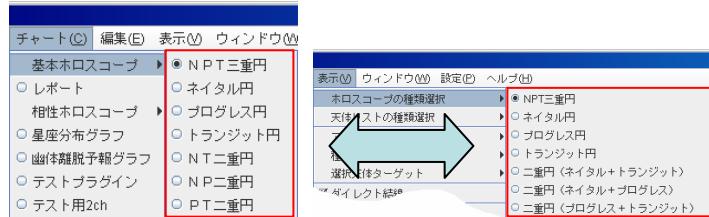
アマテル開発時のデバッグ用。ネイタルチャンネルやトランジットチャンネルにどのようにデータが送られてくるかを見ることができます。
(最終的には廃止予定)



3. 5-1 ● 基本ホロスコープの使い方

基本ホロスコープは、七つの代表的な図をサポートするチャートです。N,P,Tはネイタル(Natal)、プログレス(Progress)、トランジット(Transit)の事です。

チャートメニューから、その七種類の図を選択できます。このときどれを選択しようと、基本ホロスコープという一つの機能を選択しただけです。この機能には七種類の図を出すモードがあります。



同じ内容

基本ホロスコープが表示されている状態で、「表示メニュー→ホロスコープの種類選択」を選ぶと、ここでも同様に図の種類を選択できます。チャートを開くときは図を指定しますが、その図が開いたあとは、表示メニューから円種を切り替えるようにします。

チャートメニューで切り替えたときは、アマテルは選択されたチャートを描画するプログラムを起動します。表示メニューで切り替えた場合は、動作中の基本ホロスコープのプログラムに、図を切り替えるよう指示します。

動作はどちらも一見同じに見えるのですが表示メニューで切り替えたほうが軽快に動作します。起動するのは時間がかかります。

ホロスコープの設定(スキンと計算条件)を一時的に変更していた場合、チャートメニューから切り替えるとその設定状態は失われます。既存のものを破棄して新しく起動しなおすからです。表示メニューから切り替えると状態が継続します。

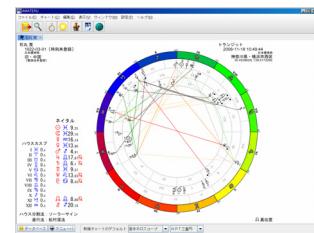
基本ホロスコープがサポートする七種の図の範囲内で切り替える場合は、表示メニューから切り替えると良いでしょう。

レポートや相性ホロスコープなど、他のチャート機能と基本ホロスコープの間を行ったり来たりする場合は、チャートメニューを使用します。

しかしそれよりはもう一枚同じ出生データで新たにチャートタブを開き図を使い分けたほうが楽でしょう。

表示できる円種の例

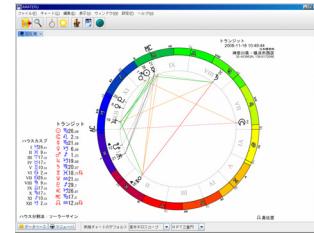
NPT三重円



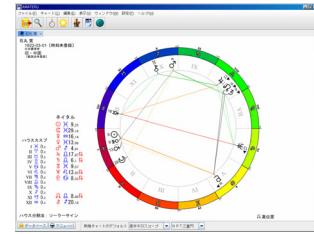
トランジット図とネイタル図を重ねた二重円



トランジット図

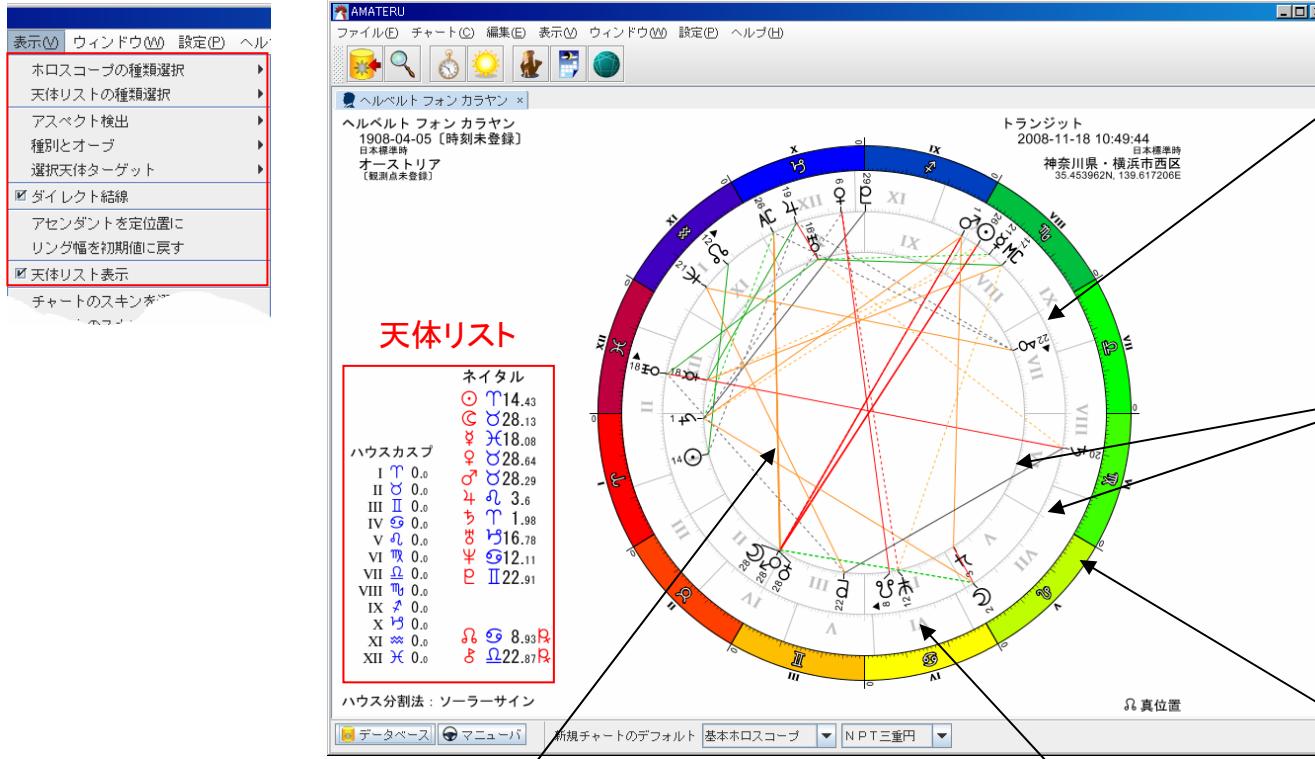


ネイタル図



3. 5-1 ● 基本ホロスコープ(天体リング／天体リスト／アスペクト)

表示メニューから
色々操作可能。



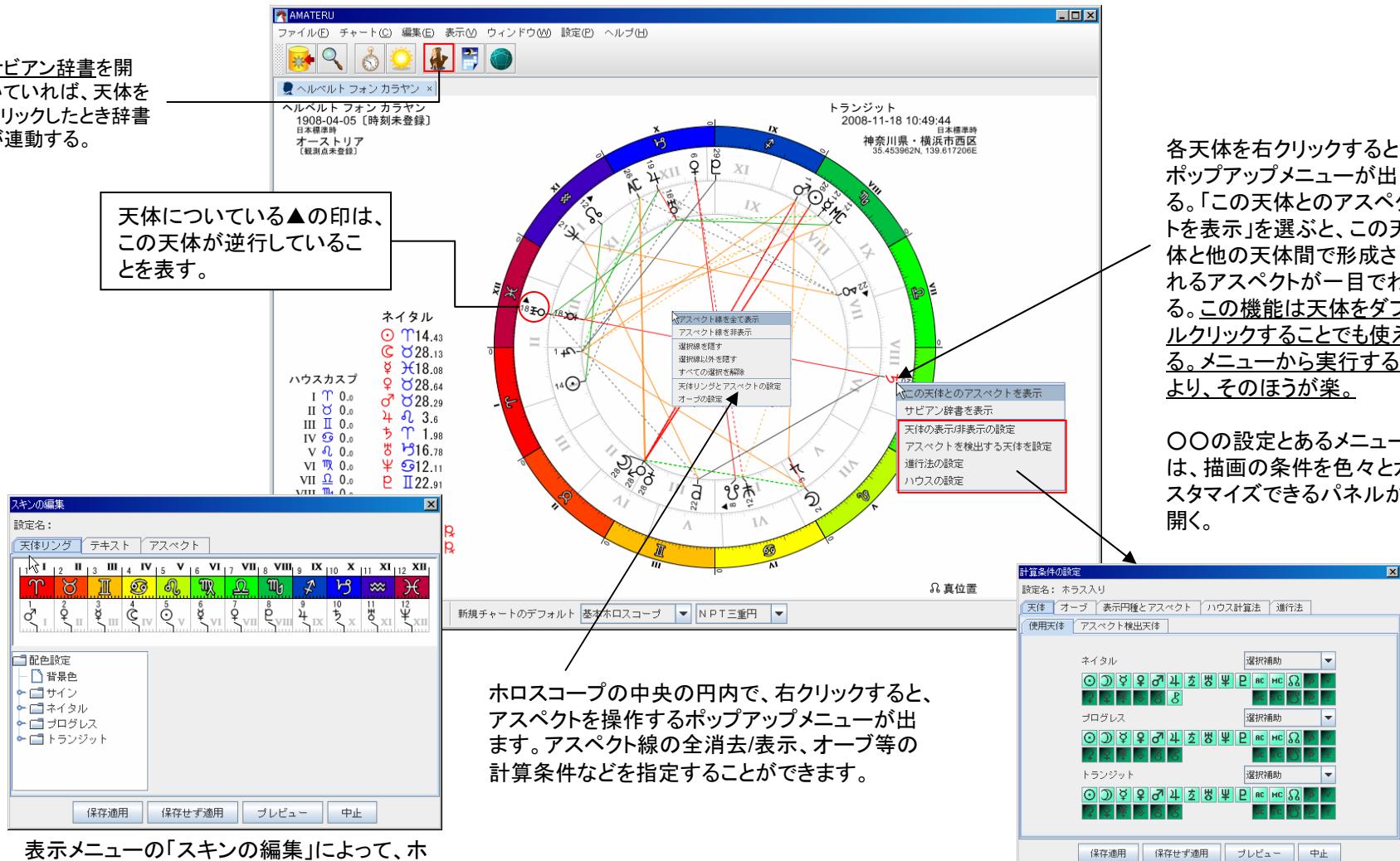
アスペクト線をクリックすると、その情報が表示される。この図ではアスペクトの線は、天体同士が結線されており、これをダイレクト結線と言う。表示メニューから非ダイレクト結線を指定すると、アスペクト線は、中央のアスペクト円内だけに描画される。この場合、アスペクトの角度が正確に描画され、ある意味、読みやすくなる利点があるが、多重円での表示にはあまり適さない。状況に応じて使い分ける。

多重円が表示されている場合、天体リングを内側または外側に向かってドラッグすることで、リングの順序を交換できます。

天体リングの内側の円周をドラッグすると、リングの幅を可変できる。そのときShiftキーを押しながらドラッグすると、すべてのリング幅の比率を保って同時にリサイズできる。リング幅を初期値に戻したいときは、表示メニューから「リング幅を初期値に戻す」

惑星リングをドラッグするとホロスコープ全体を回転できる。定位置にもどしたいときは、表示メニューから「アセンダントを定位置に」

3. 5-1 ● 基本ホロスコープ(天体／アスペクト／設定)

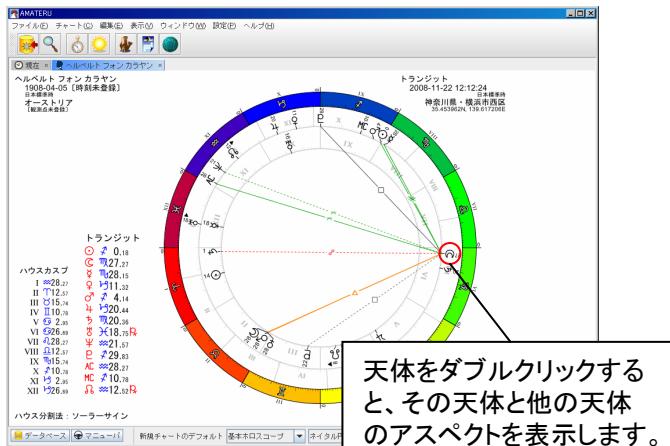


表示メニューの「スキンの編集」によって、ホロスコープの配色を柔軟に設定することができます。設定情報を保存し、スキンのデータをインポート/エクスポートすることで、ユーザ間で共有することができます。

表示(V)メニューの「チャート計算条件の設定」からも、このパネルを呼び出すことができる。設定情報は保存したり、読み出すことが可能。

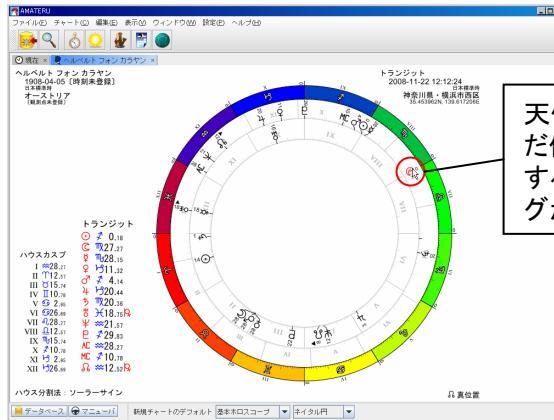
3. 5-1 ● 基本ホロスコープ(天体別アスペクト表示／天体移動)

天体別アスペクトの表示



天体別アスペクト表示状態から元に戻したいときは、アスペクト円内で右クリックでポップアップメニューを出し、「アスペクト線を全て表示」または「アスペクト線を非表示」を選択します。

天体ドラッグ操作による時間移動



天体をドラッグして、望んだ位置に移動させドロップすると、天体移動ダイアログが開きます。



決定ボタンが押されると、天体がこの位置にくる時まで時間ジャンプします。

端数は60進表示モードのときは59まで、10進表示モードのときは99まで入力を受け付けます。端数を0にしたいときは、端数クリアのボタンを押します。

この例では月を0度に移動しようとしていますが、天体は円運動なので未来に進んでも過去に進んでも同じ位置に来る時がありますから、過去／未来どちらの方向に進めるかを指定します。



- 天体の中にはドラッグ操作を受け付けないものもあります。AC, MC, Vertexなどです。
- ネイタルやプログレスの天体もドラッグ操作で時間移動が可能です。

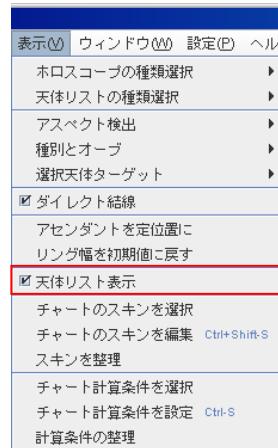
60進／10進の切替は環境設定を参照。



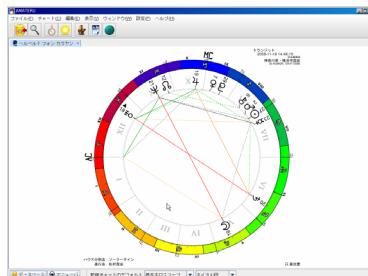
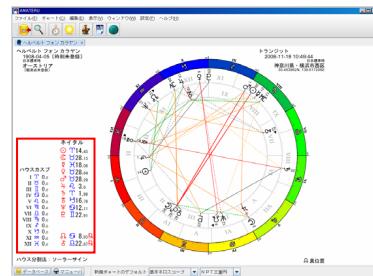
P12 アマテルの環境設定1

3. 5-1 ● 基本ホロスコープ(天体リストの表示／非表示の切替)

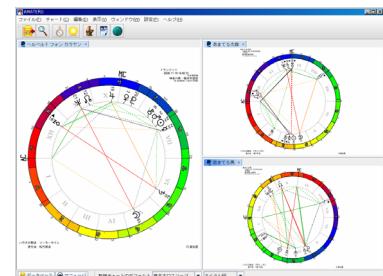
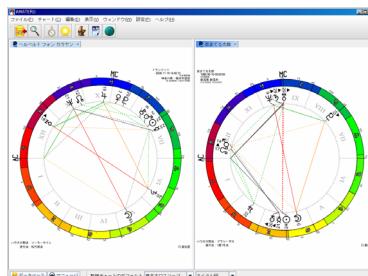
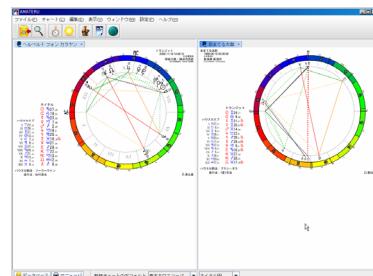
基本ホロスコープや相性ホロスコープを画面に複数ならべると、どうしてもホロスコープの図が小さくなってしまいます。そのようなときは、天体リストを非表示にして、ホロスコープだけの表示にすることができます。「表示→天体リスト表示」で天体リスト表示と非表示を切り替えることができます。アマテルのホロスコープは、各天体に度数表示がついているので、円だけでもチャートを読むことができます。



P69 チャートを複数並べて表示するには



上図だけみると、あまり有効な感じがしませんが、たくさん並べたいときは…



3. 5-2 ● レポートの使い方

ホロスコープを読むときに着目すべき特徴を、わかりやすく表にする機能です。

ディスピジター図の読み方

右図では月と水星が黒丸でかこまれています→①。これはこの天体が「根(ファイナルディスピジター)」であることを表しています。つまり蟹座の月、乙女座の水星など、本来の座に在泊している天体はこの表示になります。

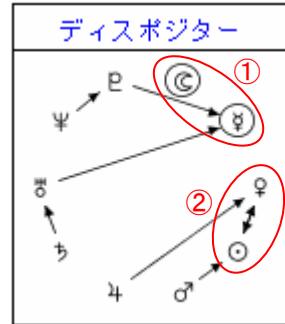
金星と太陽は、双方矢印になっています→②。この場合は、ミューチャルレセプション(Mutual Reception)を意味します。たとえば太陽は天秤(金星の座)、金星は獅子座(太陽の座)と、相互関連しあうようなケースです。

計算条件の設定

メニューバーから「表示→計算条件の設定」で、設定ダイアログが開きます。

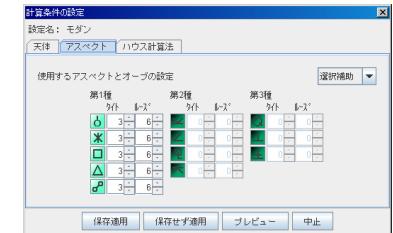
使用する天体

十惑星式か七惑星式を選択できます。各天体に加え、アセンダント、MCも選択できます。基本ホロスコープのように、主要な惑星を個別に表示／非表示選択することはできません。ただし小惑星やいくつかの感受点は個別に表示／非表示を選択できます。



使用するアスペクト

アスペクト検出天体を個別に指定できます。アスペクトを検出しなくてもよい天体は、ボタンをクリックして消灯しておきます。使用するアスペクトの種類とオーブも個別に指定できます。



その他

レポートはスキンの設定をサポートしていません。またアニメーション機能は使えません。

3. 5-3 ● 相性ホロスコープの使い方

相性ホロスコープは、二人のネイタル図を二重にかさねて表示する「相性円」とそれにトランジット図をかさね三重にした「T相性円」、二人のネイタル図とプログレス図にトランジット図をかさね五重にした「NPT相性円」の三種類の表示モードがあります。ホロスコープの操作法は基本ホロスコープとほとんど同じです。

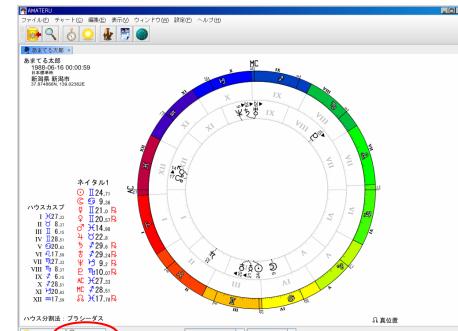


P54 基本ホロスコープの使い方

基本ホロスコープのネイタルチャンネルは1つだけですが、相性ホロスコープには2つあります。二人分の出生データを受け取るためです。

ここではデータベースからチャートを開き、メニューbaruから「チャート→相性ホロスコープ→相性円」を選択したところから、二人目のデータを入力する方法を説明します。

相性円が表示されています。この段階では一人目のデータはセットされていますが、二人目のデータは空で二人目の天体は表示されていません。



① メニューバボタンを押しま
ニューバパネルを開きます。

② メニューバは最初トランジットのパネルになっていますが、ネイタルボタンを押し、ネイタルパネルを出します。

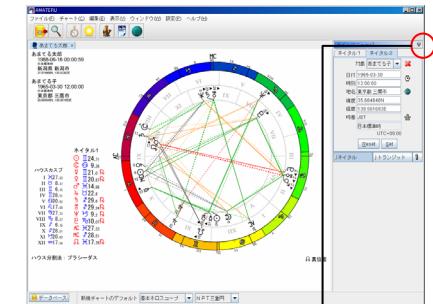


次にネイタル2のタブを選択します。
まだデータが入力されていません。

③ データベースを開いて二人目のデータを選択しダブルクリック。またはデータ選択後、「右クリック→送る→"OO"へ」を選択。
どちらの方法でもOK。



④ ネイタル2チャンネルのタブに選択したデータが送られ天体が表示されます。



マニューバが不要ならこのボタンで閉じる。

3. 5-4 ● 星座分布グラフの使い方

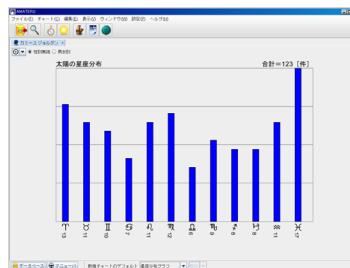
複数の出生データの天体を星座別に集計して棒グラフで表示する機能です。多数の出生データの太陽の位置を星座別に集計し表示します(右図)。別天体でも男女別にも集計できます。

使い方

- ①アマテルの画面下にある「新規チャートのデフォルト」から、「星座分布グラフ」を選択しておきます。ここでは有名人データの中から、数学者の星座分布を見てみることにします。
- ②データベースを開き、数学者のフォルダを選択します。
- ③Shiftキーを併用して、すべての人物を選択し右クリック。
- ④「送る→新規チャート」を選択。星座分布グラフが表示されます。

データを追加するには

出生データ群が複数のフォルダに別れていて、一度にチャートに送ることができない場合もあるでしょう。そのような時は、出生データリストを選択したのち「右クリック→追加で送る」から、すでに表示されているグラフに対して、データを追加できます。



このグラフは数学者123人の太陽星座を集計したものです。

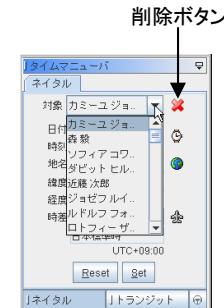


月で集計するときの注意

アマテルの有名人データのほとんどは出生時刻が不明です。時刻が不明だと最大24時間の幅があり月の位置はあてになりません。24時間のうちに月は12度も移動するので、サインが変わってしまうこともあります。

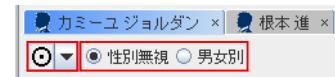
データを削除するには

マニューバーパネルのネイタルタブから、コンボボックスで削除したい人物を選択し×ボタンを押せば削除できますが、複数の人物を一度に削除できません。一括削除機能はまだ用意されていないので、チャートタブをクローズし、はじめからチャートを作り直すほうが良いでしょう。

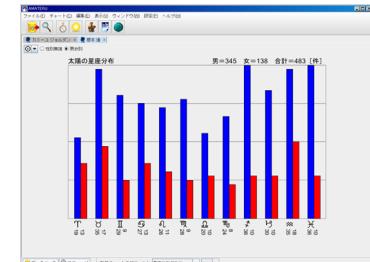


集計する天体の変更と男女別の集計機能

チャート左上の惑星選択コンボボックスで、集計対象とする天体を指定します。となりのラジオボタンで、性別を無視するか男女別に集計するか選べます。男女別に集計したとき、男性は青、女性は赤の棒グラフで表示されます。



漫画家483人の太陽星座を男女別に集計した例



3. 6-1 ● チャートをカスタマイズするには

カスタマイズは二種類あります。

1. スキンの設定

スキンとは、図や文字の配色やアスペクト線の線種など、視覚的なデザインの設定のことです。

2. 計算条件の設定

計算条件とは、アスペクトのオーブを何度も許容するかとか、たくさんある天体のどれとどれを使うかなど、占術上のルールの設定です。

スキンと計算条件の二つをアマテルはチャートごとに管理します。どちらのテーマでも名前をつけて設定を保存/リネーム/削除でき、必要に応じてすばやく呼び出せます。また、これらの設定情報をファイルに書きだし/読みこみする機能があります。

ここではスキンのカスタマイズ方法を例に設定データの適用・編集法を説明します。編集パネルの操作法はチャートの種類ごとに、またスキンと計算条件でも異なりますが、設定データの編集法はまったく同じです。

設定の保存・登録



編集パネル



基本ホロスコープを表示中、表示メニューから「スキンの編集」を選択。スキンの編集パネルが開き、ホロスコープの配色定義を編集できます。編集が完了したら保存適用ボタンを押します。

- 「保存せず適用」ボタンは設定を保存しません。一時的な変更で良い場合に使用します。
- 「プレビュー」ボタンは、設定に従い確認用にチャートを再描画します。
- 「中止」を押せば、それ以前の状態に戻ります。



保存適用ボタンで、左図のダイアログが表示されます。設定名に適当な名前を入力して保存ボタンを押します。

名前リストの中にあるものを選択し保存ボタンを押すと、設定情報を上書きしてもよいか尋ねられOKを押すと上書きされます。



設定の読み込み・選択

メニューバーから「表示→チャートのスキンを選択」を選びと左図の選択ダイアログが出ます。これまでに保存したスキンの設定名がならんでいますが、「標準」は例外でデフォルト設定が適用されます。

リストを選択すると表示中のチャートにプレビューされ「中止」ボタンで、以前の状態に戻ります。決定ボタンで選択が確定します。

スキンのカスタマイズ例

3. 6-2 ●カスタマイズ設定を整理するには

使い方のヒント

整理モードのダイアログは前項の「設定の読みこみ・選択」で有ったダイアログと同じものです。

「表示→スキンの選択」も「表示→スキンの整理」も同じダイアログで、パネル左下の「整理」のチェックボックスで外観を切り替えられます。

整理モードのときは複数の名前を選択できるのが特徴です。

複数の名前を選択し、それらをまとめて削除したり、エクスポートすることができます。選択モードのときは一つの名前しか選択できません。

設定の整理

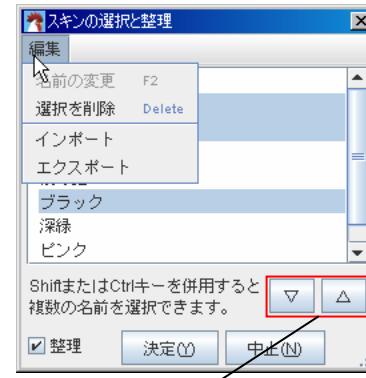
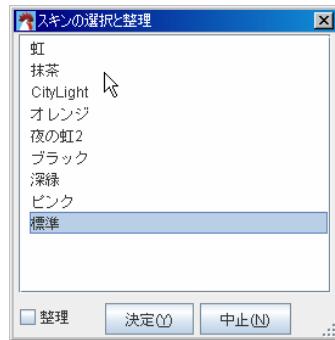
メニューバーから「表示→スキンの整理」を選ぶと、登録してあるデータを削除／リネーム／並びの順序を交換できます。

これらのデータは個別にXML形式でファイルにエクスポートしたりインポートできます。この機能によつてアマテルのユーザ間で設定データを交換できます。

整理モード



選択モード



選択した名前の表示順序を変更するボタン

パネル内の名前を複数選択するときは、ShiftまたはCtrlキーを押しながらクリックします。

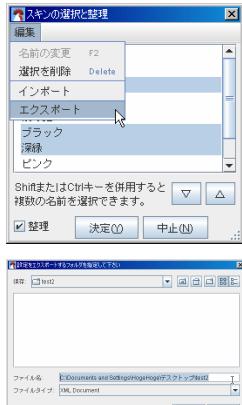
3. 6-3 ●カスタマイズ設定をインポート／エクスポートするには

設定のエクスポート

エクスポートは設定情報をXML形式のファイルに出力します。

パネル内のエクスポートしたい名前を一つあるいは複数選択し、同ダイアログの編集メニューからエクスポートを選択します。ファイル保存ダイアログが開くので、出力するOS上のフォルダを指定します。ファイル名にはリストに表示されている設定名が使用されます。

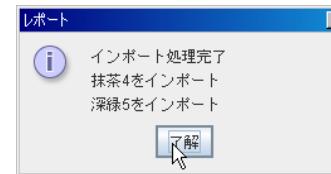
すでに同名のファイルがフォルダ内に存在する場合、そのデータは保存できません。あらかじめ削除しておいてください。



このときすでに同名の設定データがアマテル内にあるときは、上書きするかどうか確認されます。上書きされたくないときは、なにか適当な名前に変更して、了解ボタンを押します。「取り消し」を押すと、そのデータはインポートされません。



最後にインポートされたデータの一覧がレポートされます。

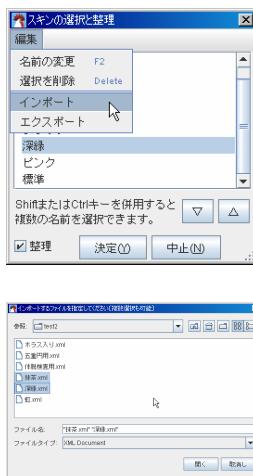


設定のインポート

インポートは設定情報をXML形式のファイルからアマテルに読みこみます。

「編集→インポート」を選択します。

ファイル選択ダイアログが表示されます。設定用XMLファイルのあるフォルダを開き、設定ファイルを選択します。このときShiftまたはCtrlキーを併用することで複数のXMLファイルを選択できます。「開くボタン」を押すとインポートが開始されます。



設定ファイルのフォーマットについて

Java標準APIのPropertiesクラス、storeToXML()メソッドの実装に依存しています。ファイルはXML形式で、文字エンコーディングはUTF-8です。

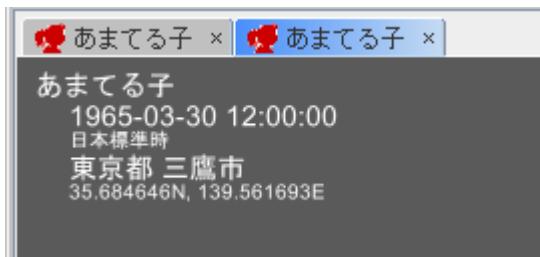
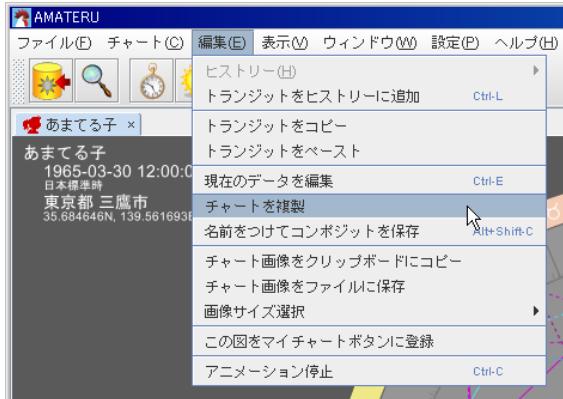
このファイルはUTF-8をサポートしているエディタやWindowsのメモ帳などで閲覧・編集が可能ですが、手作業で編集し、万が一エラーのあるデータを読みこませると予期できない結果を招く可能性があります。手作業による編集は推奨しません。

3. 7 ● チャートを複製するには

チャートの複製

タブパネルの中で選択されてるチャートをそっくり複製するには、メニューバーから「編集→チャートを複製」を選択します。

ただし計算条件やスキンを一時的に変更している場合、それらの変更は継承されません。これは今後の課題です。

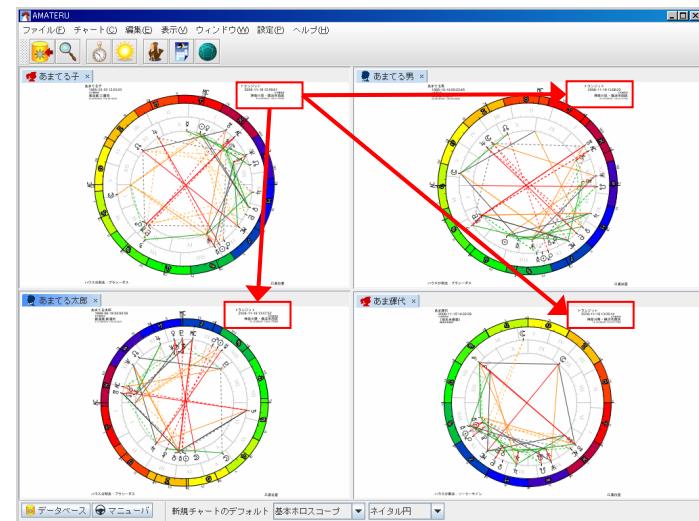
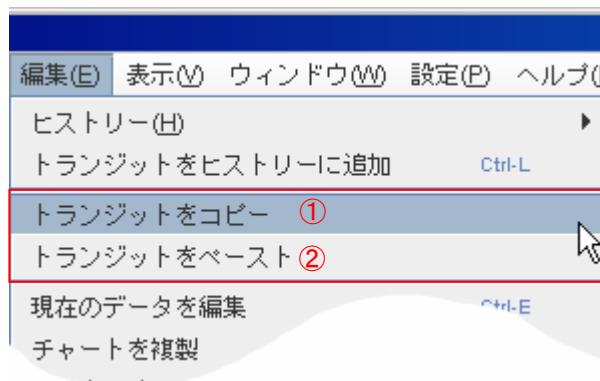


3. 8 ● チャート間でトランジットをコピペするには

トランジットのコピー＆ペースト

複数のチャート間で、トランジットの値をコピーしたくなることがあるかもしれません。その場合はクリップボードを経由してのコピー＆ペーストと同様の操作で、チャート間でトランジットデータをコピーすることができます。

- ① コピーしたいチャートタブをタブパネルの中から選択し、「編集→トランジットをコピー」とします。特に反応はありませんが、クリップボードにコピーされています。
- ② コピーしたトランジットを貼り付けたいチャートタブを選択し、「編集→トランジットをペースト」を選択します。



3. 9 ● チャートのトランジットをヒストリーに追加／読み出すには

トランジットをヒストリーに追加

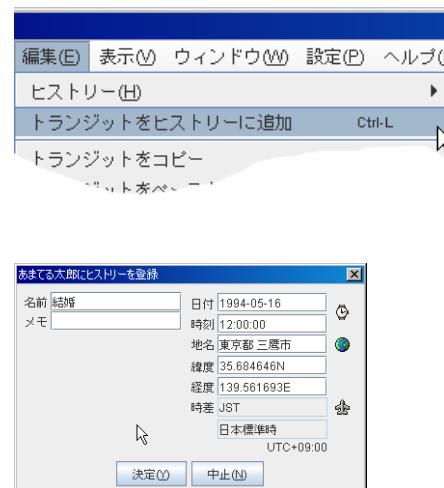
マニューバでトランジットを操作していく、注目すべき時期を見つけることがあると思います。

今ここであまたる太郎さんが自分の過去をふりかえりながら、マニューバで時間を操作しながら「この時期に結婚したんだよな」とか「この時期は失業して大変だった」とか「将来この時期がチャンスと思われる」などとチャートを読んでいるとします。

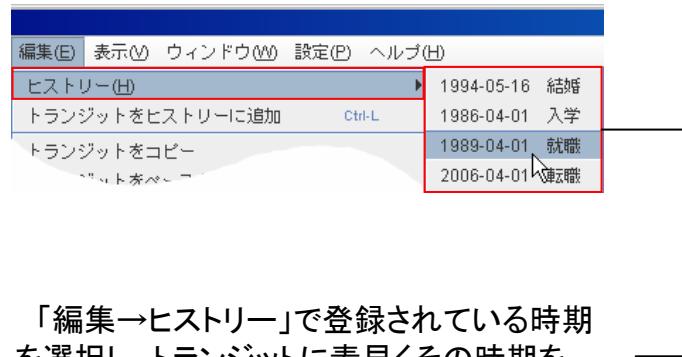
そういう「この時」は人生の上ではしばしばあると思いますが、それらをヒストリーとしてネイタルデータのヒストリーの項目に登録していくことができ、必要に応じて素早く呼び出す機能が備わっています。

「編集→トランジットをヒストリーに追加」とすると、登録用のダイアログが開きます。

名前の欄には出来事の名前を入れます。たとえば「入学」「結婚」など。メモは簡単な覚え書きに使います。「決定」ボタンで登録。



ヒストリーをトランジットチャンネルにセット



「編集→ヒストリー」で登録されている時期を選択し、トランジットに素早くその時期をセットできます。

ヒストリーの編集

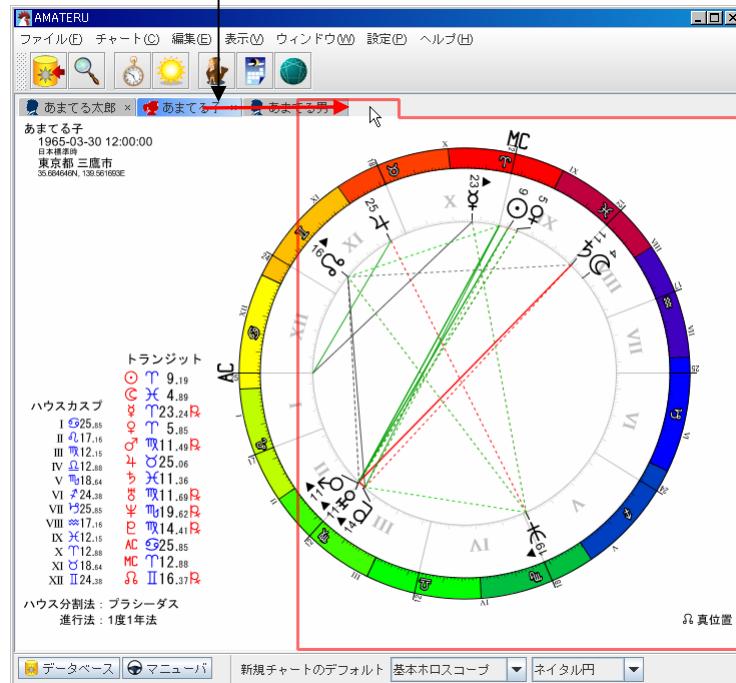
「ヒストリーとは?」「登録されたヒストリーの編集や削除」については次のページを参照。



P31 ヒストリーを登録するには

3. 10-1 ● チャートタブの順序を入れ替えるには

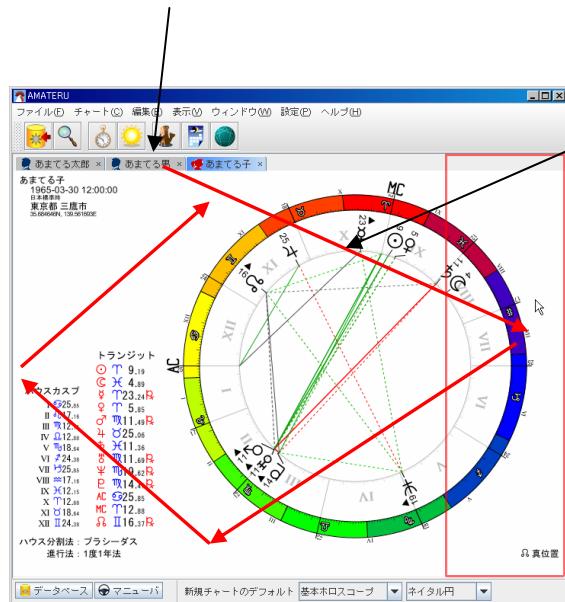
タブをドラッグすることで、順序を入れ替えることができます。



3. 10-2 ● チャートを複数並べて表示するには

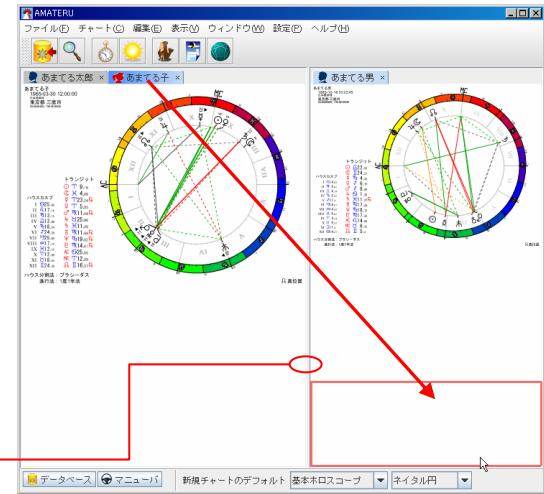
チャートタブパネルを画面分割することができます。
複数のチャートを並べて比較したい場合などに使用します。

① どれかタブを選びそれをドラッグします。ドラッグ中は赤い枠線で挿入予定場所が示されるので、どこに挿入するか選択します。この図では右端に挿入しようとしているのですが、画面の下、左、上と選択できます。



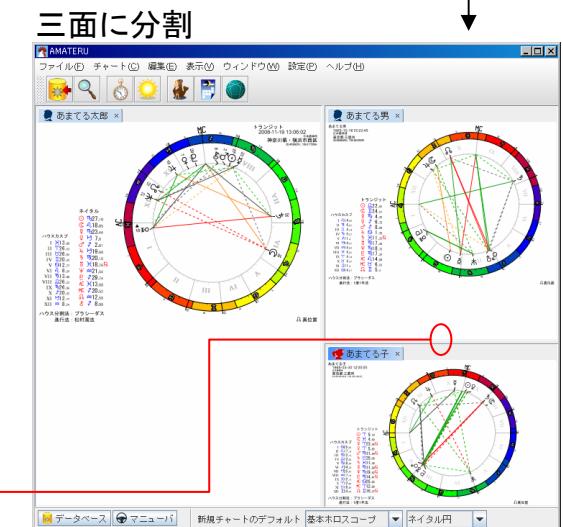
ドラッグしながらマウスカーソルを、右側、左側、上側、下側と任意の場所に移動させ、ボタンを押し離す。

② さらに同様の手続きで三面に分割。この図では右側のパネルの下側に挿入しています。



画面サイズ調整は
スプリッタをドラッグ

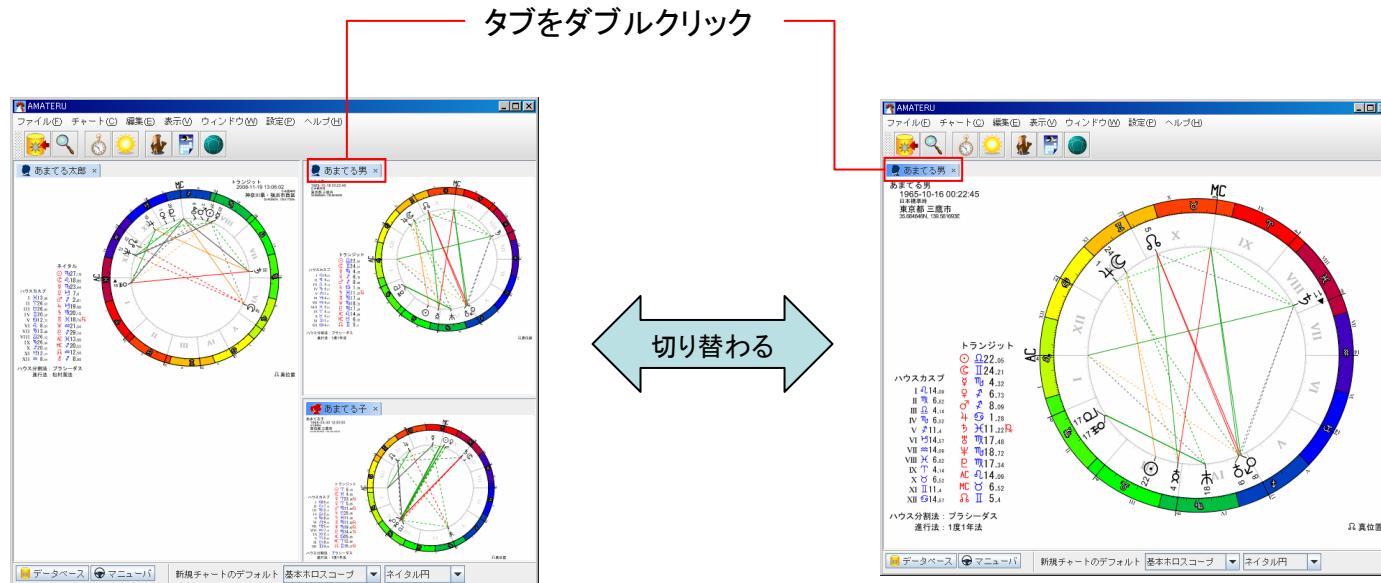
このようにして幾つでも分割数を増やせますが、小さくなりすぎると見づらいので3枚~4枚くらいが限界でしょう。お使いのディスプレイの解像度次第です。



画面サイズ調整は
スプリッタをドラッグ

3. 10-3 ● 分割表示されている小さなチャートを素早く大きくするには

画面分割状態でも、選択したタブをダブルクリックすることで1枚画面で表示することができます。
再度ダブルクリックすると元の分割画面に戻ります。



3. 11 ● チャートの画像をファイルやクリップボードに保存するには

ホロスコープやレポートを表示中に、その画面をファイルに保存しブロガに貼り付けたり、クリップボードにコピーして他のアプリケーションと受け渡しを行いたい場合があるでしょう。これらの機能はチャートの種類によってサポートしているものと、していないものがあります。現在、基本ホロスコープ、相性ホロスコープ、レポート、星座分布グラフなどはこの機能をサポートしています。

画像保存する際のサイズの指定

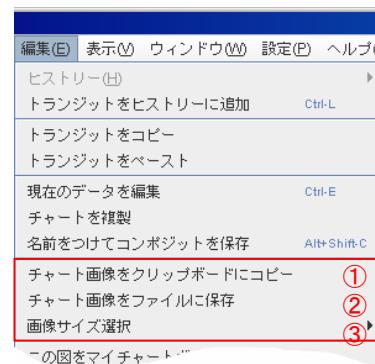
クリップボードでれファイルであれ、まず画像を保存するサイズを決めておきます。初期値は幅1024ピクセル高さ723ピクセルです。変更は「画像サイズ選択③」から行います。

なおチャートによっては、画像サイズが固定式のものもあります(たとえばレポートチャート)。その画像をどうしても縮小／拡大したい場合は、画像を保存したあと、適当なペイントソフトなどを使用して処理してください。

画像をクリップボードにコピー

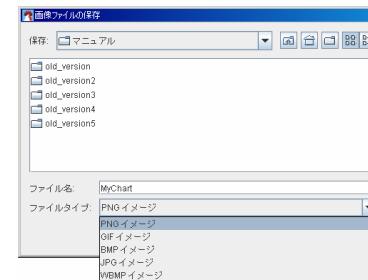
クリップボードから、画像データを受け取れるアプリケーションを使っていることが前提となる機能です。たとえばMicrosoftペイントやパワーポイント、フォトショップなどはこの機能をもっています。

チャート表示中メニュー①を選択すると、チャート画像がクリップボードにコピーされます。とくに反応はありませんが、メモリ上にはコピーされています。次にペイントソフトの側のペースト機能を使用すると、チャート画像が貼り付けられます。



画像をファイルに保存

「チャート画像をファイルに保存②」を選択すると、ファイル保存用ダイアログが開きます。適当な名前のファイル名を入力します。拡張子はつけなくても良いです。ファイルタイプをコンボボックスから選択します。ファイル名とファイルタイプを入力し終わったら、保存ボタンを押します。指定フォーマットの拡張子をもった画像ファイルが、生成されます。



サポートしている画像フォーマットについて

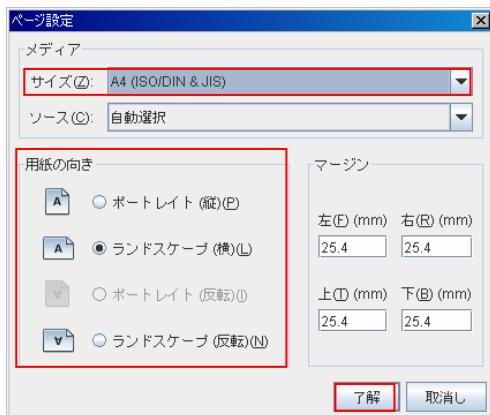
サポートされる画像フォーマットはJavaAPIの "javax.imageio.ImageIO" クラスの実装に依存しています。使用しているOS等の環境によって、サポートされるフォーマットの種類は変化する可能性があります。Windowsの場合、PNG,GIF,BMP,JPG,WBMPへの対応を確認しています。ただしJPGはチャート画像の保存用途にはあまり向いた方式ではなく、画質があまり良くないです。ネットで利用する場合はPNGやGIFを推奨します。画質が一番良いのがBMPです。WBMPは携帯端末用のフォーマットです。

3. 12 ● チャートの画像を印刷するには

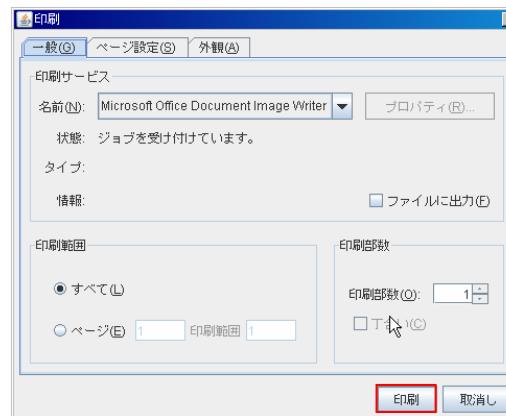
チャートの印刷はメニュー
バーの「ファイル→印刷」から
行います。

チャートの種類によっては、
印刷をサポートしていないも
のもあり、そのときこのメ
ニューは無効化され選択でき
ません。

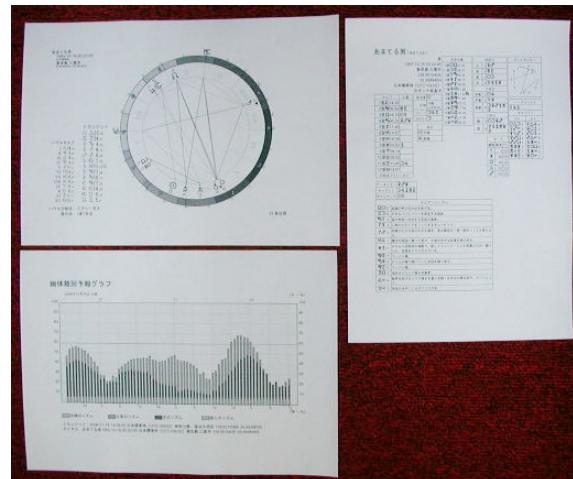
「印刷」を選択するとページ設定のダイアログが開き
ます。ここでは用紙のサイズと、印刷の向きを指定し
ます。用紙の向きはチャートの種類(基本ホロスコー
プ、レポート、星座分布グラフ等)ごとにデフォルトの
向きが設定されています。通常はそのまま良いで
しょう。了解を押せば次のステップに進みます。取り
消しボタンを押すと印刷作業は中止されます。



続いて、使用するプリンタや印刷部数を指定します。プリンタ
はお使いのマシン環境により異なります。プリンタの準備が
できたら、印刷ボタンを押すと印刷されます。



印刷例



第4章 検索

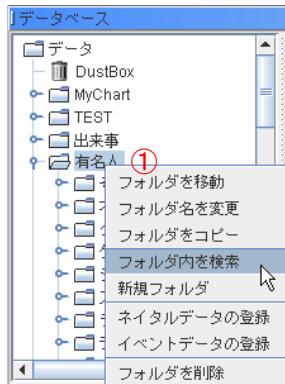
4. 1 ●検索ダイアログの使い方

アマテルには様々なデータ検索機能が用意されています。登録されている人物データを、名前で検索したり、天体位置で検索したり、アスペクトで検索したりできます。そのような検索方法を個別に説明する前に、それらすべての検索に共通の検索オプションや操作法について説明します。

検索対象とするフォルダの選択

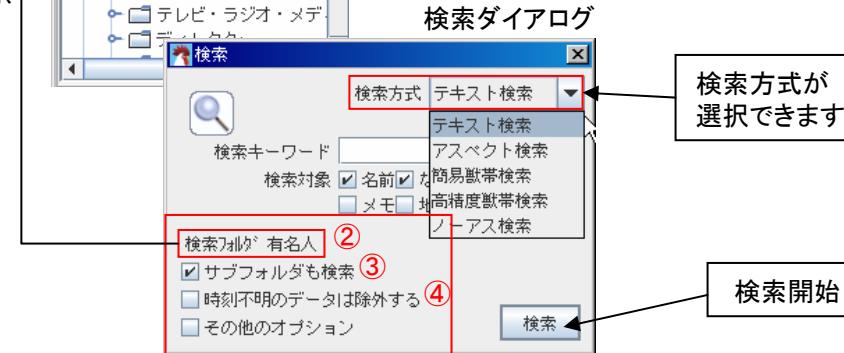
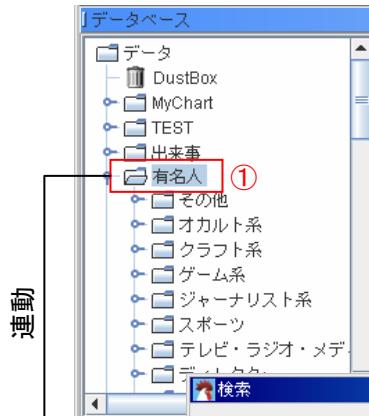
下図ではデータベースのフォルダの中で有名人というフォルダが選択されています①。このとき右クリックでポップアップメニューを開き、「フォルダ内を検索」を選択すると検索ダイアログが開きます。

検索フォルダ②の項目を見ると「有名人」とあります。これは有名人というフォルダの中にあるデータを検索対象とすることを表しています。



サブフォルダも検索

有名人のフォルダが選択されていますが、さらにその下にはいくつかのサブフォルダが存在します。「サブフォルダも検索」のオプション③にチェックが入っていると、サブフォルダ内のデータもすべて検索対象になります。



時刻不明のデータは除外する

時刻が不明であると、最大24時間の幅が発生します。ある日の深夜0時かもしれませんし、23時59分かもしれません。これくらい時間の幅があると、月の位置は大きく変化しますし、太陽も1度弱は動きます。このようなデータは、あまり確かな天体位置を求めることができません。そのようなデータは検索のときに捨てて、確かなデータのみを検索対象にしたいということがあるかと思います。そのときは「時刻不明のデータは除外する」のオプション④にチェックを入れます。

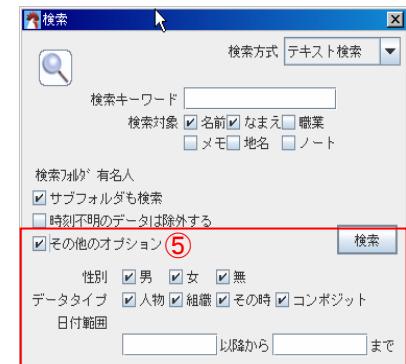
その他のオプション

「その他のオプション⑤」にチェックを入れると、オプションの拡張がダイアログに追加されます。

性別のチェックを外すことで、男性のみあるいは女性のみを検索対象にしたりできます。

データタイプは今のところ「組織」と「コンポジット」は意味を持ちません。

日付範囲の指定は、検索対象とするデータの日付範囲を制限する機能です。たとえばあまりに大昔の人々のデータは除外するといった使い方をします。ネイタルデータの登録のときと同じで、yyyy-mm-ddという書式で指定します。



4. 2 ●検索結果窓の使い方

検索結果は検索結果窓に出力されます。この窓はタブ方式で、一回検索するたびにタブが一つ増えます。不要になったタブは、タブについている×ボタンで閉じます。

検索条件の簡単な説明
検索したフォルダのパス
タブのクローズ

有名人 太陽 天秤6度

該当件数 96件

ドラッグ操作で各フィールドの表示幅を調節。

パス	名前	... 職業	日時	場所
有名人政治系	ジャック...	♂ 政治家	1732...	フランス
有名人作家系	モーガン...	♂ 作家	1861...	アメリカ
有名人学者系物理学	ジャンベ...	♂ 物理学者	1870...	フランス
有名人学者系物理学	ハンス ガ...	♂ 物理学者	1882...	ドイツ

検索結果のデータはクリックで選択でき、またShiftやCtrlキーと併用して、複数選択することができます。選択した状態で右クリックでポップアップメニューが表示されます。「送る」「追加で送る」「トランジットに送る」は、データリストのメニューとまったく同じです。

P43 出生データをチャートで表示するには

1.太陽 牡羊0度 × 有名人 太陽 天秤6度

2.太陽 天秤6度 ×

パス 名前 ... 職業 日時 場所

有名人政治系 ジャック ... ♂ 政治家 1732... フランス

有名人作家系 モーガン ... ♂ 作家 1861... アメリカ

有名人学者系物理学 ジャンベ ... ♂ 物理学者 1870... フランス

有名人学者系物理学 ハンス ガ ... ♂ 物理学者 1882... ドイツ

①ジャンプ

見つけたデータがどのフォルダにあるかを知るために使います。検索結果で見つかったデータを選択し、このメニューを実行するとそのデータが格納されているフォルダにカレントフォルダが移動し、該当データが選択状態になります。

②すべてを保存

データの選択状態にかかわらず、表示(選択)されているタブ内の検索結果をすべて指定のフォルダにコピーします。メニューを選択すると、移動&コピー先指定ダイアログ(※1)が開くので、保存先フォルダを指定すればそこにコピーされます。

ある条件で見つけたデータを一旦フォルダにコピーし、さらにそのフォルダから再検索することで絞り込み検索ができます。アマテルはこのようにして、絞り込み検索することを前提に設計されています。



P21 データベースのコピーの仕組み



P20 フォルダツリーの操作法

③選択を保存

検索結果のうち部分選択したデータのみを、データベースの指定フォルダにコピーします。移動&コピー先指定ダイアログ(※1)が開くので、保存先フォルダを指定すればそこにコピーされます。

④選択を削除

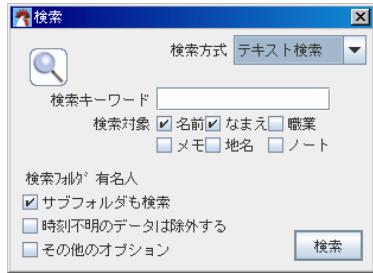
検索結果のリストから、選択したデータを消去します。結果のリストから消去されるだけで、データベースに登録されているものが消去されるわけではありません。

4. 3 ● 様々な出生データ検索機能

テキスト検索

名前や職業名など複数の出生データの中のテキスト情報を検索し、一致したものを抽出します。

検索対象のチェックボックスは、必要に応じて選択／非選択を指定します。検索対象の項目を減らしたほうが、検索速度は速くなります。



アスペクト検索

指定されたアスペクトを持つ人物等を検索します。上図では金星と土星がオポジション(180度)で、オーブは0.5度の条件に一致するデータを検索しようとしています。

感受点1と2に同じ天体を指定するとエラーになります。「角度指定」にチェックを入れ、任意の離角で検索することもできます。オーブはかならずゼロ以上の値を指定します。



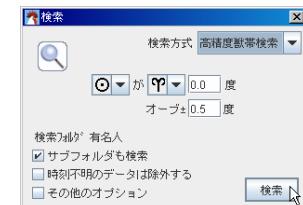
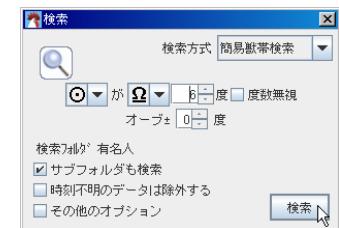
簡易獣帯検索

指定された天体が指定された位置にあるネイタルデータを検索します。図では、太陽が天秤6度にあるデータを検索しようとしています。オーブ0のとき、7度でも5度でも、条件には一致しません。オーブ1なら5度から7度までがヒットします。度数、オーブとともに、入力値は整数のみ受け付けます。実数は受け付けません。

「度数無視」にチェックを入れると、天秤座生まれの人だけといった抽出ができます。しかし検索対象となるネイタルデータの数が膨大だと、該当件数が大きくなりすぎメモリーエラーを生じる可能性があります。ご注意ください。

高精度獣帯検索

指定された天体が指定された位置にあるネイタルデータを検索します。簡易獣帯検索と同じですが、検索する度数に実数を受け付けます。オーブ0は検索できません。



ノーアス検索

指定された天体がノーアスペクトのネイタルデータを検索します。アスペクトはメジャー・アスペクト(0, 60, 90, 120, 180度)のみで有無を判定します。オーブを狭くすればするほど、ノーアスと判定される人の数は増え、広くすれば減ります。

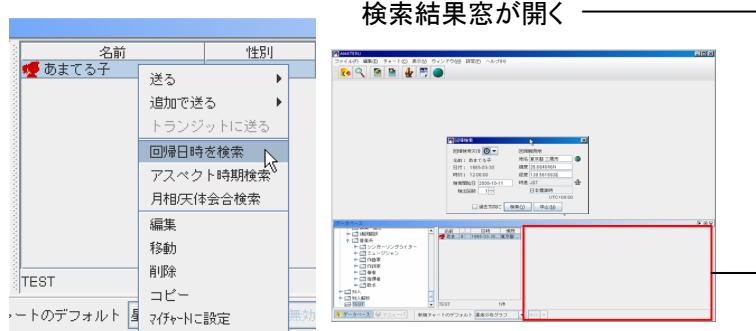


4. 4 ●回帰日時を調べるには

出生図の中のある惑星と同じ位置に、トランジットの同じ惑星が来たときを回帰と呼びます。一年間の運気を見るときは、太陽が回帰する日時を調べてホロスコープを作ります。人生上で大きな意味を持つとされるサターンリターンは土星が回帰する時です。

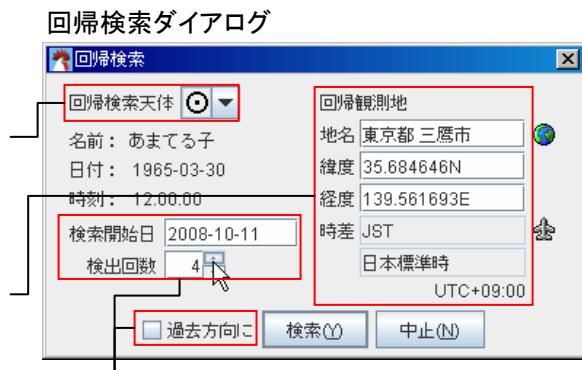
アマテルでは回帰時刻を求めるとき、「その時刻のデータを作る」という考え方をします。そのデータはデータベースに保管はされていませんが、出生データと基本的には同じものです。回帰時刻の出生データが作成されたら、それをチャートに「送る」ことで回帰図を得ます。求められた回帰データを頻繁に使いたいときは、データベースに保管しておくことができます。

ここでは「あまる子」さんを例に、回帰計算の方法を説明します。あまる子さんは、1965年3月30日正午、三鷹市の生まれのようです。データベースから、あまる子のデータを選択し、「左クリック→回帰日時」を検索を選びます。回帰検索ダイアログと検索結果窓が開きます。



回帰を求めることができる天体は七惑星(太陽、月、水星、金星、火星、木星、土星)のみです。右図では回帰検索天体に太陽が選択されています。出生図に対する太陽回帰を求めます。

回帰を観測する場所は、出生地がデフォルトですが、任意の場所を指定できます。



2008年10月11日から未来にむかって4回、太陽回帰が検出されるまで計算を続ける事を表しています。回帰天体を観測する観測地は生まれた場所がデフォルトですが、ネイタルデータ登録の際にトランジットの観測地を登録しておければ、その値が採用されます。生まれは三鷹市でも今の住居は大阪だという場合は回帰観測地は大阪の緯度経度で計算します。

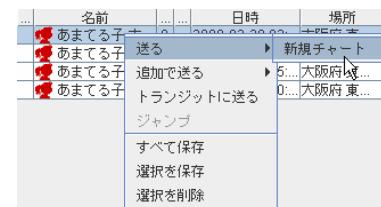
太陽は1年で黄道を一周するので、4回の検出回数が指定されると、約4年先まで該当する日を探すことを意味します。「過去方向に」のオプションにチェックが入っているときは、検索開始日から過去に遡りながら4年分検索します。

検索ボタンを押すと、検索結果窓に次のように回帰する時刻が求まりました。

2.あまる子 太陽回帰			
(未登録)	あまる子 太陽回帰	該当件数 4件	
...	名前	日時	場所
あまる子 太陽回帰	あまる子	2009-03-30 03:29:01	東京都 三鷹市
あまる子 太陽回帰	あまる子	2010-03-30 09:22:50	東京都 三鷹市
あまる子 太陽回帰	あまる子	2011-03-30 15:09:51	東京都 三鷹市
あまる子 太陽回帰	あまる子	2012-03-29 20:59:18	東京都 三鷹市

月回帰や土星回帰なども同じ要領求めることができます。太陽なら検出回数4回で4年先、月なら約4ヶ月先までですが、他の天体は逆行運動があるので、単純にはいえません。

回帰図を表示するときは、求まったデータの中から希望のものを選択して「右クリック→送る→新規チャート」。NT二重円などでトランジットに回帰日時をセットしたいときは、「トランジットに送る」を選択します。



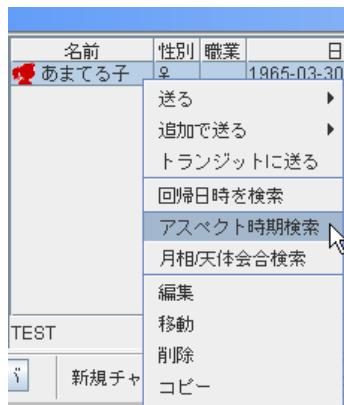
P75 検索結果窓の使い方

4. 5 ● 出生天体にトランジット天体がアスペクトを作る時を調べるには

ネイタル図の中にある天体にトランジット天体がアスペクトを形成する時期を求めるには、アスペクト時期検索を使用します。

ここでは「あまる子」さんを例に、アスペクト時期を調べる方法を説明します。

まずデータベースから、あまる子のデータを選択し、「右クリック→アスペクト時期検索」を選択。



アスペクト時期検索ダイアログと、検索結果窓が開きます。下図は、ネイタル天体の火星に、トランジットの木星がオポジション(180度)でヒットする時期を調べる場合の指定です。2008年10月11日から未来に向けて、このアスペクトが形成される時期を三回まで見つけます。検索条件を確認したら、検索ボタンを押します。



下図のような検索結果がえられました。求まったデータは、回帰検索のときと同様、チャートのネイタルチャネルやトランジットチャネルに送ることができます。

1. あまる子 N火星-T木星 × (未登録) あまる子 N火星と T木星の180度 該当件数 3件			
名前	性別	日時	場所
あまる子 N火星と T木星	♀	2010-03-08 02:13	大阪府 東大阪市
あまる子 N火星と T木星	♀	2022-02-19 13:00	大阪府 東大阪市
あまる子 N火星と T木星	♀	2034-02-02 13:00	大阪府 東大阪市



P77 回帰日時を調べるには

4. 6●月相や天体会合時期を検索するには

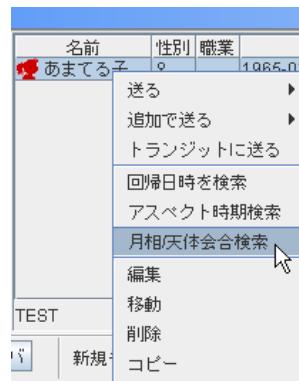
満月や新月など、満ち欠けの状態を月相といいます。たとえば新月は太陽と月が同じ黄経になり、このとき離角は0度です。満月は太陽と正反対の位置に月がくる時で離角は180度です。離角は0度から360度の値をとります。

太陽も月もそれぞれ異なる速度で移動していますが、周期的に黄経上で重る時が来ます。これが新月ですが別名天体の会合とも呼ばれます。月と太陽に限らず、他の天体同士でも会合は発生します。

占星術では満月や新月の日を調べたいことがあるかもしれません。そのときには、月相/天体会合検索で求めることができます。

「月相/天体会合検索」はトランジット天体だけの話なので、出生データを選択する必要はないのですが、現在の仕様では、どれか出生データを選択しないとメニューが表示されないので、なかなか適当なものを選択しなければなりません。

適当な出生データを選択し、「右クリック→月相/天体会合検索」を選択。



右図のようなダイアログが表示されます。これは月相専用の画面です。

※他の惑星会合を求める会合検索はまだ未実装。



図示したダイアログの検索条件は、新月、上弦の月、満月、下弦の月の4つの月相を検出し、検索開始日は2008年10月11日からです。検出回数は4回です。検索条件を確認したら検索ボタンを押します。

2.月相						該当件数 4件
	(未登録)	月相				
バス	名前	性別	職業	日時	場所	
①	満月			2008-10-15 05:02:26	神奈川県・横浜市西区	
②	下弦			2008-10-21 20:54:37	神奈川県・横浜市西区	
③	新月			2008-10-29 08:13:50	神奈川県・横浜市西区	
④	上弦			2008-11-06 13:03:22	神奈川県・横浜市西区	

上図のような検索結果がえられました。

求まったデータは回帰検索のときと同様、チャートのネイタルチャンネルやトランジットチャンネルに送ることができます。



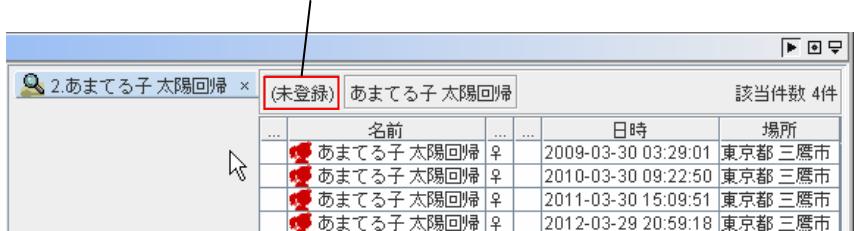
P75 検索結果窓の使い方

4. 7 ●データベースに未登録の検索結果の扱い方について

回帰検索やアスペクト時期検索で求まる検索結果は、データベースに登録されているネイタルデータの中から検出されたものと異なり、データベースに登録されていない、動的に生成されたデータです。

回帰日時などは必要に応じて検索すれば済むことなのですが、頻繁にそのデータを使いたい場合は保存しておきたい事もあるでしょう。

データベースに登録されてい
るデータではないことを表す



該当件数 4件			
名前	日時	場所	
あまる子 太陽回帰 ♀	2009-03-30 03:29:01	東京都 三鷹市	
あまる子 太陽回帰 ♀	2010-03-30 09:22:50	東京都 三鷹市	
あまる子 太陽回帰 ♀	2011-03-30 15:09:51	東京都 三鷹市	
あまる子 太陽回帰 ♀	2012-03-29 20:59:18	東京都 三鷹市	

検索結果の保存方法(データベースへのコピー)は次のページを参照。



P75 検索結果窓の使い方

保存で注意すべきことが一つあります。それは、すでに登録済みの出生データを検索した結果についてはシンボリックリンクによるコピー(※)なのでリソースはあまり消費しないのですが、回帰検索等、条件に応じて生成された未登録データの場合は、コピーといつても新規登録されます。また同じ日付、同じ名前であっても、無条件に新規登録されます。

しかしこのように特定の条件で生成したネイタルデータの中から、さらに検索を行いたいという場合もあるかもしれません。たとえば月回帰日のリストの中から、吉兆のアスペクトの存在等、別の条件を満たす日を見つける場合などです。そういうときは求めた回帰日リストを一旦データベースのフォルダに保存して、そのフォルダから再検索します。

新規登録はリソースを消費するとはいっても、極端に多く消費するわけでもなく、千件や二千件程度は余裕です。ですがデータの使用頻度が高くないのであれば、そのつど生成する方が良いでしょう。お使いのマシンの性能と相談してください。

※1



P21 データベースのコピーの仕組み

第5章 ツール

5. 1 ● サビアン辞書の使い方

ダイアログの呼びだし

ツールバーのアザラシボタンや、メニューバーのウインドウ(W)メニュー、基本ホロスコープなどから、このダイアログを開くことができます。

このダイアログは自由にリサイズ可能なので、好みの大きさに変更してお使いください。



アザラシボタン

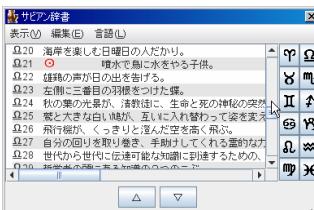
日本語／英語の切替

サビアンシンボルを表示するダイアログで、日本語／英語の二つのテキストを内蔵しています。

切替はサビアン辞書ダイアログのメニューバーの言語(L)から選択できます。ショートカットキーはCtrl-R,Ctrl-Eでも切替られます。



日本語モード



英語モード

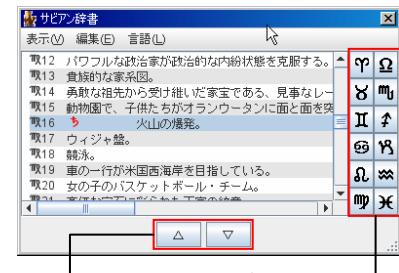


サビアン辞書は、基本ホロスコープなどと連動するようになっており、ホロスコープ上で天体を選択すると、その天体のサビアンテキストの位置に表示がスクロールします。サビアンテキストの頭には赤の天体シンボルが追加表示されます。(上図参照)

星座ボタン

選択されているサビアンテキストの度数はそのままに、星座だけを変更するボタンです。右図のリストは乙女16度が選択されていますが、今ここで星座ボタンから魚座のボタンを押すと、魚16度にジャンプすることができます。

星座ボタンの並びを横方向に見たとき、牡羊座－天秤座、牡牛座－蠍座というように、ちょうど180度の関係になるように配置されています。サビアンシンボルは反対側の度数にも注意を向ける事が多いので、星座ボタンですばやくジャンプできるようになっています。



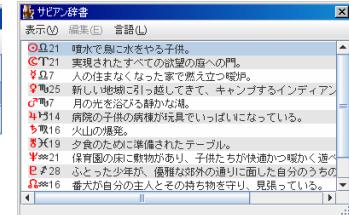
次／前の天体にジャンプ

全表示と天体順表示の切替

全表示は牡羊座0度から魚座29度まで順番に表示されますが、天体順表示は、ホロスコープから天体情報が与えられている時のみ使用できるモードで、天体順にサビアンテキストが表示されます。切替はメニューバーの表示メニューから行います。



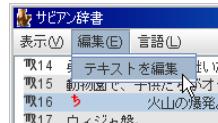
天体順表示の例



サビアンシンボルの編集

選択したシンボルを編集することができます。これは全サビアン表示モードのときのみ可能です。日本語／英語どちらでも編集可能で、編集して保存すると、以降、そのサビアンシンボルが使用されます。アマテルApplication Homeディレクトリ(※1)に、ユーザが編集した"sabian_sjis.csv"ファイルが保存され、以後そのファイルから読み込まれるようになります。元のオリジナルにもどしたい場合は、同ファイルを削除してください。

このファイルはCSV形式で、EXCELなどで編集できます。



※1

P10 バージョン情報を知るには

5. 2－1 ●天象カレンダーミチテルの使い方

ミチテルは占星術が着目する天象を表示するカレンダーです。次の情報を表示することができます。

- ①ムーンボイド
- ②月齢(新月、上弦、満月、下弦)とその正確な時刻
- ③天体のイングレスタイム(次のサインに入る日)
- ④天体の逆行に切り替わる日と順行に切り替わる日
- ⑤旧暦の年月日
- ⑥年月日の干支九星
- ⑦各月の節入り時刻

アマテルはデータベースに多くの出生データが登録されていると、起動に少し時間がかかります。カンレンダーは見る機会が多いため、すばやく起動したいと感じるかもしれません。ミチテルを別途インストールすることで、独立したアプリケーションとして素早く起動することができるようになります。

ミチテル単体のインストール

ミチテルのインストールは次のURLから行えます。
<http://tetramorph.to/>

インストールに成功するとデスクトップとスタートメニューにミチテル起動用のアイコンが登録されます。

アマテルからミチテルを起動する

アマテルから起動する場合はツールバーのミチテルのアイコンをクリック



またはメニューバーから
「ウィンドウ→天象カレンダーミチテル」を選択。

メモ:

アマテルとミチテルはそれぞれ独立したアプリケーションですが、二つは互いに連携する仕組みになっており、アマテルからミチテルのウィンドウを開いた状態で、デスクトップにあるミチテルのアイコンをクリックしても多重起動にはならず、アマテルが起動したミチテルが画面の正面に出ます。逆もまた然りでミチテルを単体で起動した状態で、アマテルのツールバーからミチテルを起動しようとした場合、すでに動作中のミチテルが正面に出ます。

5. 2-2 ● 通常モードでのカレンダーの読み方

配色やタイムゾーンや言語の変更。旧暦モードへの変更ができます。

ムーンボイドの開始と終了時刻。

現在の日。赤針は現在の時刻を表す。

新月、上弦、満月、下弦とその正確な時刻。

太陽が牡羊座に入る。天体イングレスの表示。

翌月、前月、翌年、前年、現在の年月とページング。

5. 2-3 ● 旧暦モードでのカレンダーの読み方

旧暦モードにするには

メニューバーから「設定→旧暦モード」にチェックを入れる。通常モードに戻す場合も同様。

旧暦の月日
グレゴリオ暦2008年3月2日は
旧暦では1月25日

日の干支・九星

ミチテルの旧暦とは

ミチテルの旧暦は天保暦に基づいています。

旧暦は新月の日を基準に作成されますが、

新月を迎える時刻はタイムゾーンの関係から地域差があり、中国や台湾時間(UTCとの時差8時間、日本は9時間)で

中国や台湾時間(じちじゆうじかん)の時差3時間、日本は9時間
旧暦を求める場合によっては(かなり希なですが)
二月十九日(にがつじゅうくにち)が正月(せいがつ)です。

ご参考までに、この機種は日本市場においては販売されていません。

月の干支・九星							この月の正確な節入り時刻 グレゴリオ暦2008年3月の 節入り時刻は午前1時59分							年の干支・九星																																																																																										
<table border="1"> <thead> <tr> <th>日</th><th>月</th><th>火</th><th>水</th><th>木</th><th>金</th><th>土</th></tr> </thead> <tbody> <tr> <td>2</td><td>3</td><td>4</td><td>5</td><td>6</td><td>7</td><td>1</td></tr> <tr> <td>旧 01/25 辛丑 八白 1:54~3:33</td><td>旧 01/26 壬寅 九紫 15:16~</td><td>旧 01/27 癸卯 一白 ~13:24</td><td>旧 01/28 甲辰 二黒 節入り 01:59 午後</td><td>旧 01/29 乙巳 三碧 6:46~19:52</td><td>旧 01/30 丙午 四緑</td><td>旧 01/24 庚子 七赤</td></tr> <tr> <td>9</td><td>10</td><td>11</td><td>12</td><td>13</td><td>14 19:45 ①</td><td>8 2:14 ●</td></tr> <tr> <td>旧 02/02 戊戌 六白</td><td>旧 02/03 己酉 七赤 20:09~</td><td>旧 02/04 庚戌 八白 ~1:13</td><td>旧 02/05 辛亥 九紫</td><td>旧 02/06 壬子 一白 2:26~2:54</td><td>旧 02/07 癸丑 二黒</td><td>旧 02/01 丁未 五黄 4:03~23:23</td></tr> <tr> <td>16</td><td>17</td><td>18</td><td>19</td><td>20 春分の日</td><td>21</td><td>22 3:39 ○</td></tr> <tr> <td>旧 02/09 乙卯 四緑</td><td>旧 02/10 丙辰 五黄 3:58~10:03</td><td>旧 02/11 丁巳 六白</td><td>旧 02/12 戊午 七赤 3:38~16:25</td><td>旧 02/13 己未 八白</td><td>旧 02/14 庚申 九紫 4:28~</td><td>旧 02/15 辛酉 一白 ~0:44</td></tr> <tr> <td>23</td><td>24</td><td>25</td><td>26</td><td>27</td><td>28</td><td>29</td></tr> <tr> <td>旧 02/16 壬戌 二黒 21:41~</td><td>旧 02/17 癸亥 三碧 ~11:06</td><td>旧 02/18 甲子 四緑</td><td>旧 02/19 乙丑 五黄 9:35~23:10</td><td>旧 02/20 丙寅 六白</td><td>旧 02/21 丁卯 七赤 22:20~</td><td>旧 02/22 戊辰 八白 ~11:42</td></tr> <tr> <td>30</td><td>6:47 ①</td><td>31</td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>旧 02/23 己巳 九紫</td><td>旧 02/24 庚午 一白 13:54~22:34</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> <tr> <td>卯</td><td>卯</td><td></td><td></td><td></td><td></td><td></td></tr> </tbody> </table>							日	月	火	水	木	金	土	2	3	4	5	6	7	1	旧 01/25 辛丑 八白 1:54~3:33	旧 01/26 壬寅 九紫 15:16~	旧 01/27 癸卯 一白 ~13:24	旧 01/28 甲辰 二黒 節入り 01:59 午後	旧 01/29 乙巳 三碧 6:46~19:52	旧 01/30 丙午 四緑	旧 01/24 庚子 七赤	9	10	11	12	13	14 19:45 ①	8 2:14 ●	旧 02/02 戊戌 六白	旧 02/03 己酉 七赤 20:09~	旧 02/04 庚戌 八白 ~1:13	旧 02/05 辛亥 九紫	旧 02/06 壬子 一白 2:26~2:54	旧 02/07 癸丑 二黒	旧 02/01 丁未 五黄 4:03~23:23	16	17	18	19	20 春分の日	21	22 3:39 ○	旧 02/09 乙卯 四緑	旧 02/10 丙辰 五黄 3:58~10:03	旧 02/11 丁巳 六白	旧 02/12 戊午 七赤 3:38~16:25	旧 02/13 己未 八白	旧 02/14 庚申 九紫 4:28~	旧 02/15 辛酉 一白 ~0:44	23	24	25	26	27	28	29	旧 02/16 壬戌 二黒 21:41~	旧 02/17 癸亥 三碧 ~11:06	旧 02/18 甲子 四緑	旧 02/19 乙丑 五黄 9:35~23:10	旧 02/20 丙寅 六白	旧 02/21 丁卯 七赤 22:20~	旧 02/22 戊辰 八白 ~11:42	30	6:47 ①	31					旧 02/23 己巳 九紫	旧 02/24 庚午 一白 13:54~22:34						卯	卯																			
日	月	火	水	木	金	土																																																																																																		
2	3	4	5	6	7	1																																																																																																		
旧 01/25 辛丑 八白 1:54~3:33	旧 01/26 壬寅 九紫 15:16~	旧 01/27 癸卯 一白 ~13:24	旧 01/28 甲辰 二黒 節入り 01:59 午後	旧 01/29 乙巳 三碧 6:46~19:52	旧 01/30 丙午 四緑	旧 01/24 庚子 七赤																																																																																																		
9	10	11	12	13	14 19:45 ①	8 2:14 ●																																																																																																		
旧 02/02 戊戌 六白	旧 02/03 己酉 七赤 20:09~	旧 02/04 庚戌 八白 ~1:13	旧 02/05 辛亥 九紫	旧 02/06 壬子 一白 2:26~2:54	旧 02/07 癸丑 二黒	旧 02/01 丁未 五黄 4:03~23:23																																																																																																		
16	17	18	19	20 春分の日	21	22 3:39 ○																																																																																																		
旧 02/09 乙卯 四緑	旧 02/10 丙辰 五黄 3:58~10:03	旧 02/11 丁巳 六白	旧 02/12 戊午 七赤 3:38~16:25	旧 02/13 己未 八白	旧 02/14 庚申 九紫 4:28~	旧 02/15 辛酉 一白 ~0:44																																																																																																		
23	24	25	26	27	28	29																																																																																																		
旧 02/16 壬戌 二黒 21:41~	旧 02/17 癸亥 三碧 ~11:06	旧 02/18 甲子 四緑	旧 02/19 乙丑 五黄 9:35~23:10	旧 02/20 丙寅 六白	旧 02/21 丁卯 七赤 22:20~	旧 02/22 戊辰 八白 ~11:42																																																																																																		
30	6:47 ①	31																																																																																																						
旧 02/23 己巳 九紫	旧 02/24 庚午 一白 13:54~22:34																																																																																																							
卯	卯																																																																																																							
3月 14 金 午後 5:17:46 JST							前年 次年 現在 前月 來月																																																																																																	

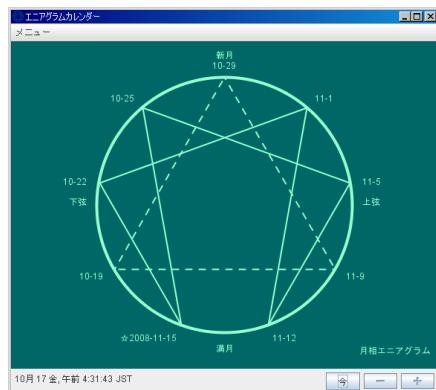
5. 3 ● エニアグラムカレンダーの使い方



起動はツールバーのアイコンをクリックするか、メニューバーから「ウィンドウ→エニアグラムカレンダー」を選択

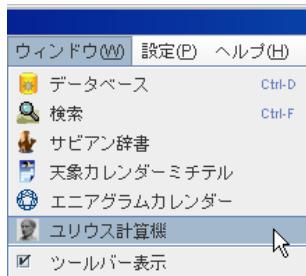
月相をエニアグラムに割り当てたカレンダーです。新月の日を頂点に配し、右回りに時間は進展し、満月の日が円の底に来ます。そしてさらに時間は進展し、月はふたたび新月を迎え、円の頂点に戻ってきます。

エニアグラムの図を印刷することもできます。



5. 4 ● ユリウス計算機の使い方

ユリウス日とグレゴリオ暦の相互変換ができる計算機です。使い方は入力欄に値を入れ、変換ボタンを押すだけです。変換結果はタイムゾーンによって変化します。



日本時間のグレゴリオ暦をユリウス暦に変換



ユリウス暦を日本時間のグレゴリオ暦に変換



タイムゾーンダイアログが開き、任意のものに変更できます。



P30 タイムゾーンを変更するには

補遺●アマテルの天文暦有効範囲と小惑星フォラスについて

天文暦有効範囲

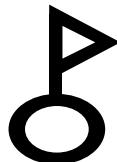
十惑星	BC 5401 ~ AD 5400
キロン	AD 650 ~ AD 4649
フォラス	BC 3881 ~ AD 5400
ミーンノード	BC 5411-02-14 ~ AD 5409-12-11

アマテルはスイスエフェメリスのJavaAPIとAstrodienst AG が公開している天文暦を使用しています。この天文暦はNASA JPL発行の精密天体位置推算暦DE405を元に作成されたものです。詳しくはバージョン情報ダイアログ内のリンク先のサイトを参照。



P10 バージョン情報を知るには

小惑星フォラス(Pholus)について



フォラスのシンボル

アマテルの中で見なれない左図のシンボルを目にする事があるでしょう。これはスイスエフェメリスが標準でサポートしている小惑星です。

1992年以降に発見されたまだ歴史の浅い天体で、カイパーベルトの小惑星です。フォラスの軌道は長い楕円軌道で土星と海王星の両方の軌道より外側にあります。公転周期は96年です。

キロンが占星術的には土星と天王星のキーであると考えられるように、フォラスは海王星のキーです。神話のフォラスはヘラクレスの毒矢の1つを点検しているときに、誤って致命的な傷を負います。

占星術的観測によれば、どのような結果がもたらされるかわからない異常な特殊能力や予期不能の結果をもたらすとされ、フォラスがチャート上でメジャーなアスペクトを形成する際、多くは過激で予期できない変化が起きると言われます。それは神話における彼の突然の、予期されない死によって暗示されていると。

索引 A-X, ア, イ, エ, オ, カ, キ

【A】
AD(Anno Domini) 33
AM/PM 23
AMATERU 10
Application Home 10,82
【B】
BC(Before Christ) 33
BOM 38
【C】
CSV 34,35,37,38,82
【D】
DE405 88
Dispositors 59
【G】
Geocoding 24
Google 24
GregorianCalendar 32
【I】
ImageIO 71
【M】
Microsoft Excel 34,38,41
Mutual Reception 59
【N】
NPT図 54
【P】
Properties 64
【T】
TAB Key 23
TimeZone 30
Timestamp 41
【U】
UTF-16LE 38
Unicode 38
【X】
XML 64

【ア】
アザラシボタン 82
アスペクト検索 76
アスペクト時期検索 78
アスペクト線 55
アスペクト線の表示と消去 56
アセンダントを定位置に 55
アニメーション 51,52
アニメーションの停止 51
アポジー 12
アマテルについて 10
アンインストール 10
赤針 84
相性ホロスコープ 60
【イ】
イベントデータの登録 22
イベントデータの入力 48
イングレスタイム 83,84
インポート 34,35,56,63,64
インポート(選択したフォルダ) 37
移動＆コピー先ダイアログ 19,20
緯度・経度入力の書式 23
印刷 72,86
今のチャート 45
今ボタン 45
【エ】
エクスポート 34,35,56,63,64
エクスポート(選択したフォルダ) 36
エニアグラムカレンダー 86
英語モード(サビアン辞書) 82
干支 83,85
【オ】
お知らせ 10
オートボタン 51
オフセット入力フォーム 51

オンライン状態 11
送る 43
【カ】
カウント 11
カスタマイズパネル 56,59
カスプ 13
カラーテーマ(ミチテル) 84
カレンダー 83
下弦の月 79
下弦の月の時刻 84
稼働台数 11
回帰図 77
環境設定 12,13
簡易獣帯検索 76
観測地のマイデータ 28
観測地の入力 23,28
観測地の変更(チャートの) 50
観測地をブックマーク 28
観測地データベース 27
観測地レイアウトを変更 29
観測地情報 12
観測地未登録 23
【ガ】
画像をファイルに保存 71
画像フォーマット 71
画像保存サイズの選択 71
該当件数 75
月で集計するときの注意 61
月の位置のずれ 12
月の遠地点 12
月相 86
月相(月齢) 83
月相検索 79
【キ】
キーワードで絞り込む(職業リスト) 26

索引 ク, ケ, コ, サ, シ, ス, ソ

基本ホロスコープ 54,55,56,57,58

紀元前 23,32,33

起動した数 11

旧漢字 38

旧暦 83,84,85

九星 83,85

【グ】

グレゴリオ歴 32

【ケ】

計算条件 45,54,62,63

計算条件の設定(レポート機能) 59

検索 74,76

検索オプション 74

検索結果窓 17,75

検索履歴(観測地) 29

獣帯リングをドラッグ 55

【ゲ】

月齢 79,83

現在時刻のチャートを表示 9,45

言語の選択 84

【コ】

コピーの仕組み 21

コピペ 24,29,66

コンポジットデータの登録 22

古典式 59

固定式 17

皇居 13

高精度獣帯検索 76

暦の安易な判断 32

暦の自動切り替え 32

暦の相互変換 87

【ゴ】

ごみ箱 18

【サ】

サターンリターン 77

サビアン辞書 82

サビアン辞書と連動 56

サブフォルダも検索 74

サマータイム 30

最大24時間ずれる可能性 12

【シ】

システム情報 10

シャッター式 17

絞り込み検索 75

使用アスペクト 56,59

使用天体 56,59

七惑星式 59

主要都市 27

手動で削除 10

集計する天体の変更 61

出生データのコピー・削除・移動・編集 19

出生データの登録 22

出生データを追加 61

出生場所 27

出生図の表示 14

小惑星 59,88

職業選択ダイアログ 25,26

職業名の入力 25,26

新規チャート 15

新規チャートのデフォルト 48

新月 79,83,86

新月の時刻 84

進行法の設定 56

【ジ】

時間を前後に動かす 51

時間ハンドル 50,51

時間選択 51

時刻不明 12,13,23,74

時差 25,30,85

自分のチャート 44

十進数 12,57

十惑星式 59

上弦の月 79

上弦の月の時刻 84

情報の送信 11

人物ボタン 25,26

【ス】

スイスエフェメリス 88

スキン 45,54,63

スキンのカスタマイズ 62

スキンの選択と整理 63

スキンの編集 56

ステップボタン 51

【ズ】

図の選択 54

【セ】

セパレータ 38

星座ボタン(サビアン辞書) 82

星座分布グラフ 61

西経 23

設定 12,62,63

設定のカスタマイズ 64

設定状態の継続 54

設定名の順序を変更 63

選択を保存・削除(検索結果) 75

【ソ】

その他の入力項目 25

ソート 18,75

ソーラー(ハウス分割法) 13

ソーラーサイン(ハウス分割法) 13

即チャート表示 25

存在しない日付 33

索引 ソ, タ, チ, ツ, テ, ト, ニ, ネ

【ゾ】

ゾーン名 30
【タ】
タイムゾーン 30,84
タイムマニューバ 50
タブを閉じる 48
タブキー 23
タブパネルを分割 69
太陽回帰 77
台湾時間 85
単位系 12

【ダ】

ダイレクト結線 55
男女別の集計 61

【チ】

チャートに直接データを追加 49
チャートのカスタマイズ 62
チャートの起動 54
チャートの種類を変更 53
チャートの切替 43
チャートの表示 43
チャートの複製 65
チャートをクリップボードにコピー 71
チャートを大きく表示 70
チャートを表示(登録せずに) 48
チャートを複数並べる 58
チャートを分割 69
チャートを並べて表示 69
チャートを閉じる 15
チャートタブの順序を交換 68
チャートメニュー 54
チャンネル 46
地球ボタン 25,27
地名の検索 27
中国時間 85
著作権情報 10

【ツ】

ツールバーの取り外し 9
ツールバーを非表示 9,44
追加で送る 43,46
【テ】
テキスト検索 76
天体にジャンプ 82
天体の逆行の印 56
天体の表示と非表示 56
天体をダブルクリック 56,57
天体をドラッグ 57
天体リスト 55
天体リストの表示／非表示 58
天体リングをドラッグ 55
天体位置の再計算 12
天体移動ダイアログ 57
天体会合検索 79
天体順表示 82
天体別アスペクト表示 57
天文暦有効範囲 88
天保歴 83,85

【デ】

データの引っ越し 34
データファイルのフィールド名 39,40
データファイルのフィールド名の解説 41
データファイルのフォーマット 38
データファイルの場所 10
データベースボタン 15,17
データリスト 18,19
データ型のアイコン 22
データ受け取りチャンネル 46
ディスポジター図 59
デイライト・セービングタイム 30
デフォルトの観測地 13,25
デフォルトの地方時 13

【ト】

とは 38
トランジットに送る 43
トランジットの時期 67
トランジットをコピペ 66
トランジットチャンネルに送る 47
トランジット図 54
トランジット天体がアスペクトを作る 78
時計ボタン 25
時計モード 51,52
登録されていないデータ 80
登録しないでネイタルチャートを表示 14
登録せずにチャートを表示 48
東経 23

【ド】

ドラゴンヘッド 12

【ナ】

夏時間 30
南緯 23

【ニ】

ニワトリの数 11
日時の入力 23
日時の変更(チャートの) 50
日本語モード(サビアン辞書) 82
入力文字数の限界値 41
入力補助 25

【ネ】

ネイタルの値を初期値に戻す 50
ネイタルチャンネルが二つ 60
ネイタルデータの入力 48
ネイタルデータをチャートに追加 49
ネイタルデータ記憶庫 21
ネイタル図 54

索引 ノ, ハ, ヒ, フ, ヘ, ホ、マ, ミ, ム, モ, ユ, リ, レ, ワ

【ノ】
ノーアスペクト 76
ノーアス検索 76
ノート 25
ノード 12

【ハ】
ハウスの設定 56
ハウス分割法 13
ハンドルボタン 51
【バ】
バージョン情報 10
バックアップのポリシー 34
【ヒ】
ヒストリーに追加 67
ヒストリーの登録 31
ヒストリーをトランジットチャンネルに 67
日付の解釈 24
飛行機ボタン 25
必須入力項目 23
表示できる円種 54
表示の切替(サビアン辞書) 82
表示メニュー(基本ホロスコープ) 55
表示メニューで切替 54
表示中のデータを編集 19

【フ】
ファイル 35,36,37
フォラス 88
フォルダのパス 18,75
フォルダの選択ダイアログ 15,36,37
フォルダの操作 20
フォルダをジャンプ 75
フォルダツリー 18,20
フォルダツリー記憶庫 21
古い時代の日付入力 32
節入り時刻 83
二人目をセット 60
不完全なホロスコープ 14
複数選択 61,63

【ブ】
ブックマーク 27
ブラウザからコピペ 24
部分インポート 37
部分エクスポート 36

【ブ】
プリンタ 72
プレビューボタン 62
プログレス図 54
【ヘ】
編集(サビアン辞書) 82

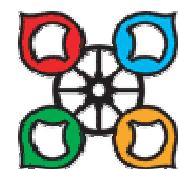
【木】
ホロスコープの配色 62
ホロスコープを回転 55
北緯 23
【マ】
マイチャート 44
マイデータ 27,28
マウスホイール 51
マニューバ 60
マニューバパネル 50
満月 79,83,86
満月の時刻 84

【ミ】
ミチテル単体 83
ミューチャルレセプション 59
未登録の検索結果 80
【ム】
ムーンノード 12
ムーンボイド 83,84

【メ】
メニューバー 8
【モ】
モダン式 59

【ユ】
ユーザ間で設定を共有 56
ユニークID 11,21
ユリウス計算機 87
ユリウス日 32,33
ユリウス歴 32
【リ】
リアルタイムに今の星空を表示 52
リリース 12
リロードボタン 11
リング幅 55
【レ】
レポート 25,59
連続登録 25
【ロ】
六十進数 12,57
【ワ】
和暦 24

完



<http://tetramorph.to/>